令和5年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」（宮城県分）の結果について

◇文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」結果による

課 長 報 告 （ 1 ）

〔令和6年10月31日公表〕

1　調査の趣旨（ 調査主体：文部科学省 ）

暴力行為やいじめ及び不登校等の生徒指導上の諸課題について、全国の状況を調査・分析することにより、教育現場における取組の一層の充実に資するとともに、実態把握により、問題行動等の未然防止、早期発見・早期対応につなげていく。

2　調査対象期間

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

3　調査対象（令和5年5月1日現在）

○　国公私立小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、義務教育学校、中等教育学校在籍児童生徒（ 仙台市を含む ）

※学校数は休校も含む

- 小学校数　365校（児童数　109，731人）
- 中学校数　205校（生徒数　58，081人）
- 高等学校　107校（生徒数　62，382人）
- 特別支援学校　29校（児童生徒数　2，650人）　※いじめのみ

※　義務教育学校（前期課程）は小学校に、義務教育学校（後期課程）は中学校に含まれる。

※　中等教育学校（前期課程）は中学校に、中等教育学校（後期課程）は高等学校に含まれる。

4　調査結果の概要

（1）暴力行為

○　小・中・高等学校における、暴力行為の発生件数は 4,520件（全国108,987件）であり、児童生徒1,000人当たりの発生件数は19.6件（全国8.7件）である。

○　発生件数は、小学校、中学校において前年度より増加し、高等学校においては減少している。

○　形態別では、小学校においては、対教師暴力、生徒間暴力、対人暴力、器物損壊のすべてが前年度より増加している。中学校においては、生徒間暴力が前年度より増加し、対教師暴力、器物損壊は減少している。高等学校においては、対人暴力が増加し、対教師暴力、生徒間暴力が前年度より減少している。

① 発生件数

校種 / 種別	小学校			中学校			高等学校		
	R5	R4	前年度比較	R5	R4	前年度比較	R5	R4	前年度比較
発生件数(件)	3, 490	1, 662	+1, 828	953	864	+89	77	79	−2
1, 000人当たりの発生件数(件)	31. 8	14. 9	+16. 9	16. 4	14. 7	+1. 7	1. 2	1. 3	−0. 1

② 形態別発生状況

校種 / 種別	小学校			中学校			高等学校		
	R5	R4	前年度比較	R5	R4	前年度比較	R5	R4	前年度比較
対教師暴力(件)	1, 033	609	+424	73	74	−1	2	3	−1
生徒間暴力(件)	2, 200	848	+1, 352	711	615	+96	41	45	−4
対人暴力(件)	20	2	+18	9	9	0	3	0	+3
器物損壊(件)	237	203	+34	160	166	−6	31	31	0
計	3, 490	1, 662	+1, 828	953	864	+89	77	79	−2

令和5年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」（宮城県分）の結果について

◇文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」結果による

（2）いじめ

○ 小・中・高等学校及び特別支援学校におけるいじめ認知件数は14,722件（全国732,568件）であり、前年度より78件増加している。また、児童生徒1,000人当たりの認知件数は63.2件（全国57.9件）である。
○ 小学校・高等学校、特別支援学校は認知件数が増加し、中学校は前年度より減少した。
○ 小・中・高等学校及び特別支援学校における重大事態の発生件数は30件（全国1,306件）であり前年度より1件増加している。また、児童生徒1,000人当たりの発生件数は0.13件（全国0.10件）である。

① いじめの認知件数

校種／種別	小学校 R5	小学校 R4	小学校 前年度比較
認知件数（件）	12,405	12,318	+87

校種／種別	中学校 R5	中学校 R4	中学校 前年度比較
認知件数（件）	1,989	2,058	−69

校種／種別	高等学校 R5	高等学校 R4	高等学校 前年度比較
認知件数（件）	250	229	+21

校種／種別	特別支援学校 R5	特別支援学校 R4	特別支援学校 前年度比較
認知件数（件）	78	39	+39

② いじめの解消率（小・中・高等学校及び特別支援学校）

区分	R5	R4	前年度比較
宮城県(%)	78.0	77.5	+0.5
全　国(%)	77.5	77.1	+0.4

③ いじめ防止対策推進法第28条第1項に規定する「重大事態」の発生件数（小・中・高等学校及び特別支援学校）

区分		発生した学校数(校)	発生件数(件)	法第28条第1項第1号に規定する発生件数(件)	法第28条第1項第2号に規定する発生件数(件)	1,000人当たりの発生件数(件)
R5	宮城県	28	30	15	22	0.13
	全　国	1,185	1,306	648	864	0.10
R4	宮城県	26	29	9	22	0.12
	全　国	844	923	448	617	0.07

（3） 小・中・高等学校の長期欠席（不登校等）

○ 不登校出現率は、小学校2.74%（全国2.14%）、中学校 8.32%（全国6.71%）であり、小学校、中学校ともに前年度より増加している。
○ 高等学校では、不登校出現率は3.58%（全国2.35%）であり、前年度より増加している。
○ 小・中・高等学校とも、依然として全国と比べ高い状況である。

※ 不登校出現率：在籍児童生徒数に対する不登校児童生徒数の割合

（注） 令和5年度は、5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行され、長期欠席者の定義を新型コロナウイルス感染症流行前と同じ、「児童・生徒指導要録」の「欠席日数」により年度間に30日以上登校しなかった児童生徒について調査している。また、欠席理由に「不登校のうち、50日以上欠席している者」の欄を新設している。

不登校の内訳

（人）

区分		不登校児童生徒数	内訳 欠席日数　５０日以上		欠席日数　９０日以上		出席日数　１０日以下		出席日数　０日	
宮城県	小学校	3,009	1,964	65.3%	1,108	36.8%	168	5.6%	41	1.4%
	中学校	4,831	3,832	79.3%	2,745	56.8%	458	9.5%	83	1.7%
	高等学校	1,927	800	41.5%	353	18.3%	59	3.1%	11	0.6%
全国	小学校	130,370	91,730	70.4%	57,611	44.2%	9,957	7.6%	3,351	2.6%
	中学校	216,112	177,326	82.1%	132,781	61.4%	26,311	12.2%	7,380	3.4%
	高等学校	68,770	29,410	42.8%	10,804	15.7%	1,965	2.9%	558	0.8%

（4） 高等学校の中途退学

○ 中途退学率は2.1%（全国1.5%）であり、前年度より増加している。

中途退学者数及び中途退学率

区分		R5	R4	前年度比較
宮城県	中途退学者（人）	1,299	967	+332
	中途退学率（%）	2.1	1.6	+0.5
全国	中途退学者（人）	46,238	43,401	+2,837
	中途退学率（%）	1.5	1.4	+0.1

5 県教委としての対応

（1）教育相談等の充実

① 全公立小・中学校、県立学校にスクールカウンセラーを配置
② 各市町村及び県立高等学校にスクールソーシャルワーカーを配置（市町村については委託）
③ 教育事務所専門カウンセラーを各教育事務所に配置し、管内の児童生徒や保護者及び教職員からの相談に対応
④ 児童生徒心のサポート班による、児童生徒等への訪問及び来所相談
⑤ 特別支援学校のセンター的機能を活用した教育相談への助言等による対応
⑥ 「不登校・発達支援相談室」における公認心理師等の面談・電話による相談
⑦ 24時間SOSダイヤルやSNS等を活用した相談業務の実施

（2）問題行動への対策

【暴力行為】

① 各学校における組織的対応の推進
② 生徒指導支援として教員加配や警察・教員OB等の支援員の配置
③ 問題行動の未然防止、早期解決のために学校生活支援員を配置
④ 学校警察連絡協議会連絡会における学校と警察の情報交換と連携の強化
⑤ 宮城県警察によるスクールサポーター制度の活用促進

令和5年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」（宮城県分）の結果について

◇文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」結果による

【いじめ】

① 県教委作成の「いじめ対応研修テキスト」の活用促進

② 生徒指導担当及び関係教員を対象とした研修や、指導主事学校訪問における学校の諸課題に関する話合いの充実により、いじめの積極的な認知と早期の組織的な対応及び「いじめ防止対策推進法」等に基づく適切な重大事態への対応の徹底

③ 各教育事務所及び義務教育課にスクールロイヤーを配置し、いじめ予防教室や法的相談を実施

④ 児童生徒による動画作品の制作を通し、いじめ防止の取組や主体的に魅力的な学校づくりに取り組もうとする意識を醸成

⑤ 研修会の開催とフィルタリング機能の普及促進、情報モラルの啓発とネットパトロールの実施によるネット被害未然防止対策

（3）不登校児童生徒等への支援の充実

（「どこにいても誰かとつながっている」体制づくりの充実）

① すべての児童生徒にとって「魅力ある・行きたくなる学校づくり」の更なる推進

② スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによるアセスメントの実施と個票活用による組織的・計画的な支援の充実

③ 教室で過ごすことに不安を抱えている児童生徒の居場所を校内につくり、学習支援と自立支援を図る校内教育支援センターの充実と「別室支援員」の活用促進

④ 市町村が設置する教育支援センターとしての機能を持つ「みやぎ子どもの心のケアハウス」の相談機能強化に向けた支援

⑤ 「訪問指導員」を各家庭に派遣し、学校に登校していない児童生徒へのアウトリーチによる相談、学習支援を実施

⑥ 各地域における支援機関の連携強化と学校に登校していない児童生徒を持つ保護者支援のための児童生徒支援ネットワーク会議の設置

⑦ フリースクール等民間団体との連携強化による多様な学びの場、居場所の確保

⑧ 高校入試では、不登校のみをもって不利にならないよう配慮

令和6年度公立高等学校「みやぎ学力状況調査」の結果について

課長報告（２）

１　目　　的

○　生徒の学力状況及び学習状況等を把握し、各学校における学習指導、進路指導等の改善に役立てる。

○　学力状況については、第2学年における、学習指導要領に示された学習内容の定着状況を把握する。

○　学習状況等については、第1学年及び第2学年の授業理解度や家庭学習時間等の学習状況、睡眠や学校生活の満足度等の心身の健康状態、志教育に関する意識を把握する。

２　調査対象

公立(県立、仙台市立、石巻市立)
高校73校　中等教育学校1校
第1学年　12，469人
第2学年　12，272人

３　実施期間

令和6年7月1日（月）～7月8日（月）

４　調査項目

○　学力状況に関する調査（国語、数学、英語）：第2学年

○　学習状況等に関する質問紙調査：第1・2学年
・生徒の学習状況
・心の有り様
・志教育に係る意識等

５　調査結果の分析について

○　慶應義塾大学SFC研究所に運用と保守を委託している「みやぎ学力状況調査分析システム」を用いて、学力と学習状況等に関する調査の回答を集計し、県全体の傾向を分析している。

○　調査結果については、2つ以上の設問を組み合わせて集計すること（クロス集計）が可能であることから、単純な集計結果だけではわからない細かい傾向を見ることができるため、より深い分析ができる。

○　全教員が分析システムにアクセスできるため、学校ごとの分析だけでなく、学科、学年、クラス別の分析も可能となっていることから、学校運営やクラス経営、教科指導等、用途に応じた分析も可能である。

６　調査結果の活用について

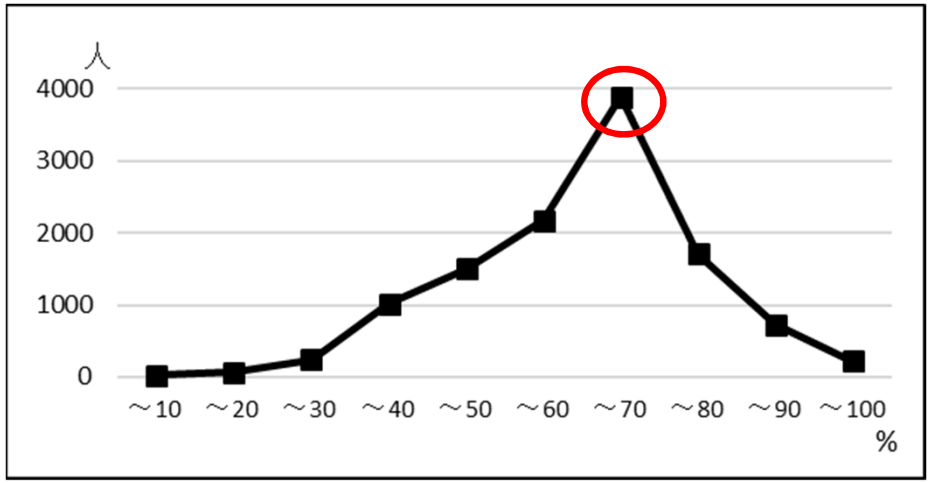
○　高校は、教育目標や生徒の学習・生活の実情等が学校ごとに異なることから、各校において、指標となる数値を確認したり経年度比較したりすることにより、学力状況及び学習状況の現状を把握し、自校の学力及び学習状況の分析を行い、授業改善、学習指導及び進路指導等の充実に向けた対策づくりに活かしている。

○　各校の分析状況や授業改善、学習指導及び進路指導等の充実に向けた対策の好事例については、教務主任会議等を通じて全校に紹介し、情報共有している。

7　学力状況調査結果の概要（2学年）

（1）国語

イ　概況



（【共通問題・国語】正答率の度数分布）

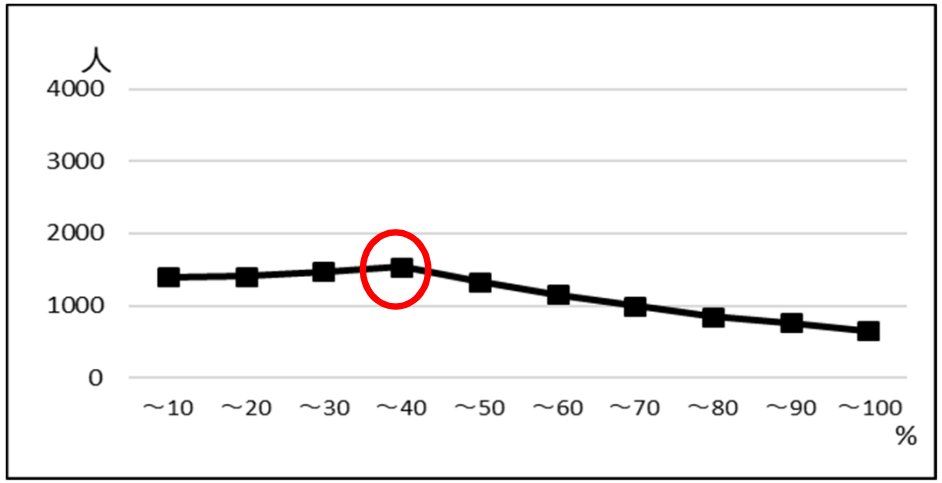
- 共通問題の正答率は、60．1%。（昨年度比　＋0．5%）
- 共通問題の度数分布は、昨年度とおおむね同様で、正答率70%の階級が最も高かった。

ロ　考察と課題

- 文章の内容や展開を踏まえ、語句の意味から登場人物の様子や心情を捉えることはできている。
- 2つの文章を読み比べ、構成・内容の共通点を把握することはできている。
- 筆者の考えの中心となる事柄を、構成や展開を捉えながら読み取ったり、要約したりすることに課題がある。
- 古典を読むために必要な知識を活用し、文章全体の内容を把握することに課題がある。

（2）数学

イ　概況



（【共通問題・数学】正答率の度数分布）

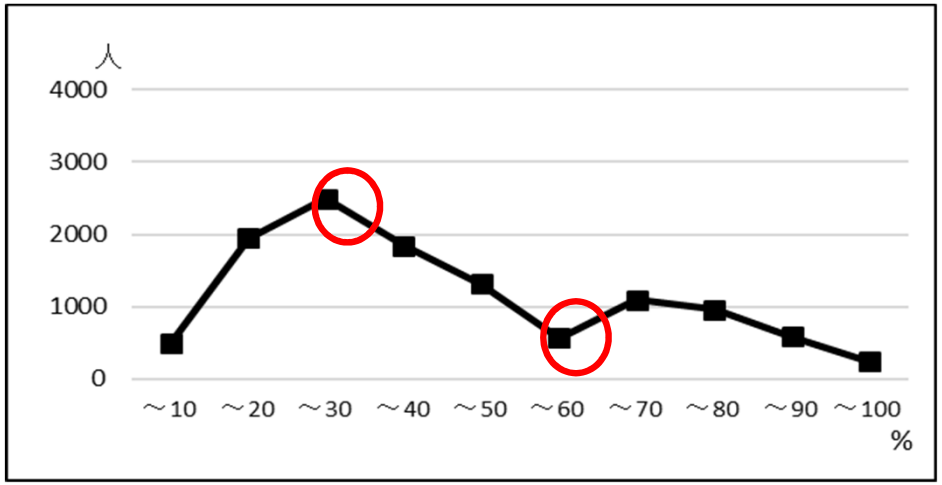
- 共通問題の正答率は、43．5%。（昨年度比　－1．9%）
- 共通問題の度数分布は、昨年度と同様に、正答率30%～40%の階級の度数が最も高かった。

ロ　考察と課題

- 二次方程式の解を求める技能はおおむね身に付いている。
- 図形の特徴を把握して、三角比の定理や公式を用いて問題を解くことに課題がある。
- 二次関数の式とグラフの関係を理解し、グラフを用いて多面的に考察することに課題がある。
- データを適切に分析し、その傾向や特徴などを読み取ることに課題がある。

（3）英語

イ　概況



（【共通問題・英語】正答率の度数分布）

- 共通問題の正答率は、40．5%。（昨年度比　－8．7%）
- 共通問題の度数分布は、昨年度と同様にM字型となり、正答率50%の中間層が薄く、20～30%の階級が最大となった。

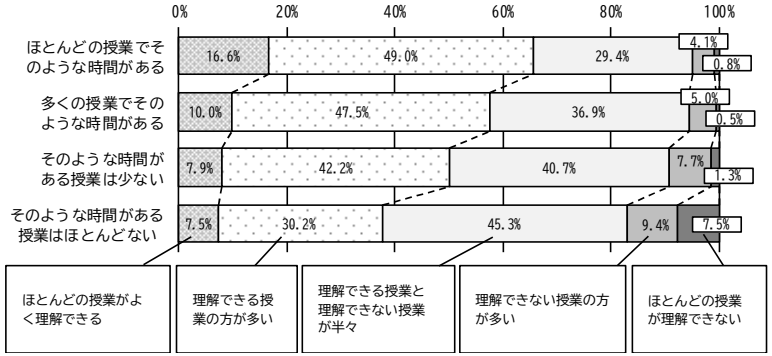
ロ　考察と課題

- 英語の文章を読んで、文章内の情報を事実と意見に区別して、内容が合っているかどうかを判断することはできている。
- リスニングにおいて、必要な情報を聞き取り、要点を捉えることに課題がある。
- 英語の文章を読んで、おおよその内容や全体的な流れを把握することに課題がある。
- 英語でコミュニケーションを図る際に必要な文法・語法に関する知識を適切に活用することに課題がある。

8　学習状況等に関する調査結果の概要（1学年・2学年）

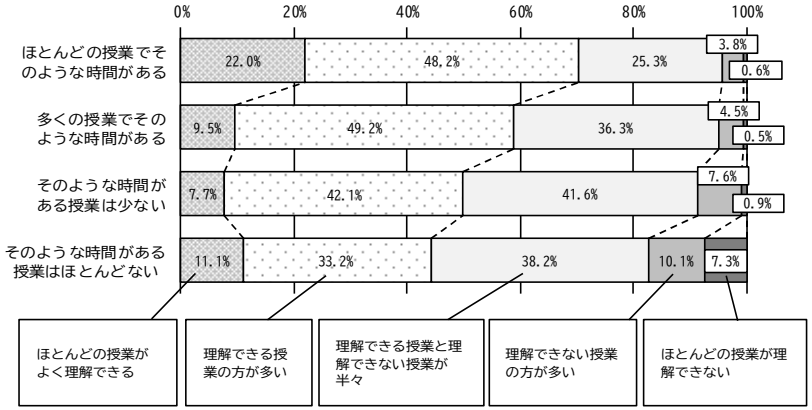
（1）学習状況

イ　自分の考えを発表したり、ペアやグループで話し合ったりする学習活動の頻度と授業理解度について



［分析］　発表や話合いの時間があると回答したグループほど、授業理解度が高い傾向があり、ペアやグループ活動に取り組ませることは、学習内容を理解させる一つの手立てとして有効。

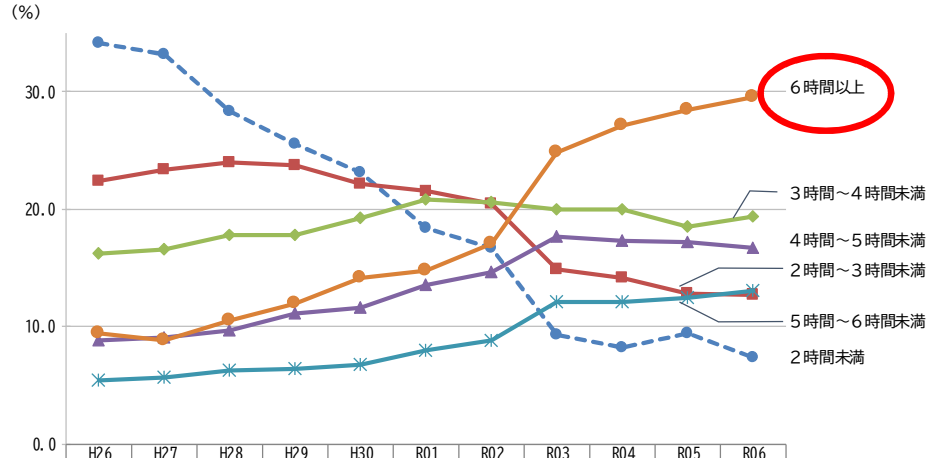
ロ　授業の中で、課題を見つけたり、解決したりする学習活動の頻度と授業内容の理解度について



［分析］　生徒自身が課題を見つけたり、解決したりする学習活動を多く設定している授業ほど、授業理解度が高い傾向にある。

令和6年度公立高等学校「みやぎ学力状況調査」の結果について

ハ　休日に、スマートフォンや携帯電話を勉強以外で使う時間について（2年生）

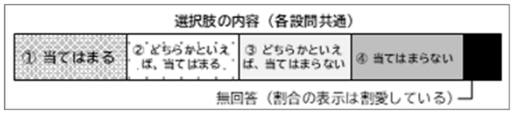


	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06
2時間未満	34.2	33.2	28.3	25.6	23.1	18.4	16.7	9.3	8.2	9.4	7.3
2時間～3時間未満	22.4	23.4	24.0	23.7	22.2	21.5	20.4	14.9	14.1	12.9	12.7
3時間～4時間未満	16.2	16.6	17.8	17.8	19.2	20.8	20.6	20.0	20.0	18.5	19.4
4時間～5時間未満	8.8	9.1	9.7	11.1	11.6	13.6	14.6	17.7	17.3	17.2	16.7
5時間～6時間未満	5.4	5.6	6.2	6.4	6.7	8.0	8.8	12.1	12.1	12.4	13.0
6時間以上	9.4	8.8	10.5	12.0	14.1	14.8	17.0	24.8	27.2	28.5	29.5

［分析］

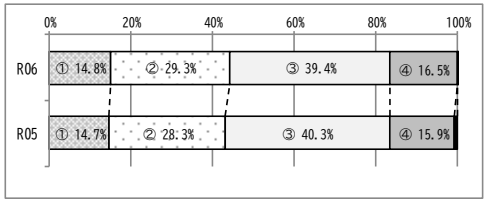
- 令和2年度以降、長時間使用している生徒の割合が大きく増加し、特に「6時間以上」の増加の度合いが著しい。
- 令和2年度の新型コロナウイルス感染症拡大による休校期間に、自宅で過ごす時間が増加したことによる影響が、その後、習慣化したものと推察される。
- スマートフォン等の長時間使用割合の上昇により、生徒の生活や家庭学習にも影響があると考えられる。
- 生徒自身に日常を振り返らせ、自己の生活習慣を主体的に改善しようとする態度を養う必要がある。

（2）志教育に係る意識調査

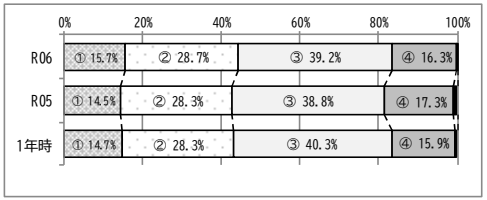


イ　自分の個性や適性が、学校や社会でどのように生かせるかをイメージできている（有用感について）

〔1年生〕

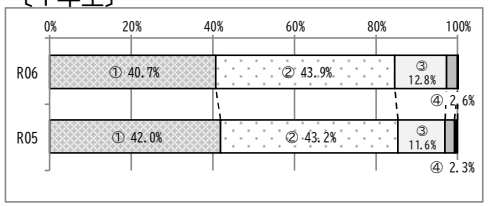


〔2年生〕

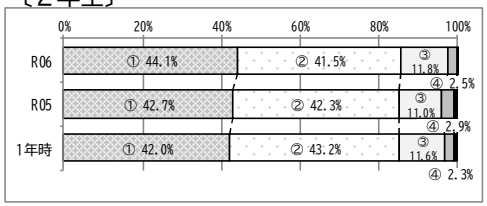


ロ　働くことの意義を理解している（勤労観・職業観について）

〔1年生〕

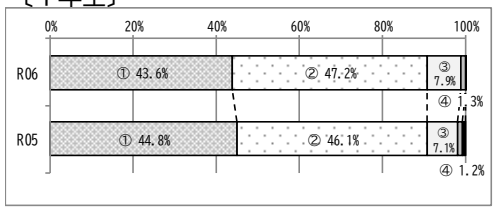


〔2年生〕

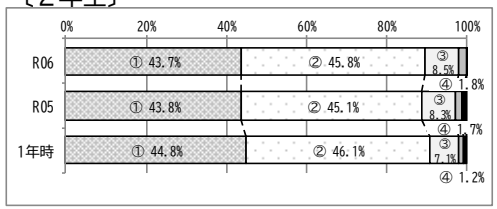


ハ　自分の役割に責任を持って行動している（有用感について）

〔1年生〕



〔2年生〕



- 「志教育」に関する意識については、概ね良好。
- 自分の個性や適性を、学校や社会でどのように生かせるかをイメージできている生徒割合は45%とやや低いが、少しずつ上昇しており、自己有用感を育む志教育の好影響がうかがえる。肯定的回答44．4%（初回調査 R2：40%程度）
- 「働くことの意義を理解している」については85%程度、「自分の役割に責任を持って行動している」については90%程度が肯定的な回答をしている。

課長報告（２）別冊

令和６年度公立高等学校
みやぎ学力状況調査
分析結果報告書

令和６年１１月
宮城県教育委員会

Pick Up !
国 語

改善・充実を図りたい事項

文章の構成や展開を捉え、要旨を把握すること

令和6年度調査問題

第2問（論理的文章）
問3　傍線部C「隅々まで張りの行き届いた風情は、人の心をもぴんと張らせる効果がある。」とありますが、その理由として最も適切なものを、次の①～④から一つ選びなさい。
① 薄くて脆弱な障子紙が空間の一側面を構築している事実に気づくことで、日本人の繊細な感受性を再認識できるから。
② 弱さを張りつめて強度としている障子紙のありようによって、身体感覚が敏感になり立ち居振る舞いが醸成されるから。
③ 障子紙によって弱められた光が部屋の中に射すことで、生命を漲らせるかのような心地よい緊張を行き渡らせるから。
④ 繊維の長い障子紙で作られた建具が家屋を支えていることで、人々の身体感覚が刺激され無骨な所作が躾けられるから。

設問のねらい　構成や展開を捉えながら、叙述から内容を的確に捉えられるかをみる

正答率
31.5%

【表1】誤答の類型と選択率

誤答率（%）	無答率（%）	誤答の選択肢の選択率（%）			
		①	②	③	④
68.0	0.5	33.0	○	24.6	10.4

【表2】過去問題との比較

R3～R5に出題した同傾向問題との比較

出題年度	R3	R4	R5
正答率（%）	49.0	49.0	46.4

分析と考察

構成や展開を捉えながら、叙述から内容を捉え、文章全体の要旨を把握する問題である。

生徒はどこでつまずいたのか？

誤答の選択肢を選んだ生徒は、障子紙の「弱さを張りつめて強度としている」という「逆説的なありよう」によって生じる「張りの行き届いた風情」が、日本人の身体感覚に影響を与えてきた、という要旨を把握できていなかったといえる。①や③を選んだ生徒は、「逆説的なありよう」そのものを的確に捉えることができておらず、④を選んだ生徒は、「張りの行き届いた風情」が建具から生じていると捉えていたと考えられる。

文章の構成や展開を捉え、要旨を把握する

要旨を捉える問題は、過年度の調査においても正答率が低かった【表2】。「現代の国語」での「読むこと」において、「要旨や要点を把握すること」を指導する際には、文章の構成や展開を捉えながら、文章の内容の中心的な事柄や書き手の考えの中心となる事柄を把握することができるようにすることが大切である。文章の細部を丁寧に捉えることと、全体を俯瞰的に捉えること、その双方を意識しながら文章を読むように指導したい。

高校入試の結果分析から

説明的な文章において、書き手の主張の基盤となる内容を捉え、要旨を把握することに課題があることは、現2年生が受験した令和５年度高校入試の結果分析※でも指摘したとおり、継続的な課題といえる。

※令和５年度宮城県公立高等学校入学者選抜学力検査「国語」第三問　問一（書き手の主張の基盤となる内容を捉え、要旨を把握する問題）

課題への対応

要旨を把握する際は、段落ごとの要点を確認してから文章全体の要旨の把握を行うなど、段階的に取り組むことが重要である。例えば、文章の構成や展開を捉えるために、ICT機器や思考ツール等を活用しながら、主張と論拠、具体と抽象などの関係を表に整理したり、文章の論理展開をまとめたりする活動を取り入れることも有効である。生徒の実態に合わせた言語活動の工夫が大切である。

「授業づくりのポイント」
p. 7

Pick Up !
数 学

改善・充実を図りたい事項

三角形の辺と角の関係を見いだし、正弦定理を用いて数学的に処理すること

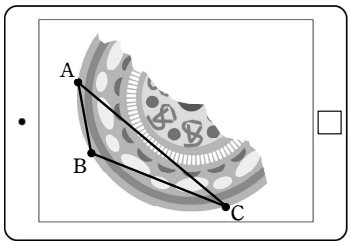
令和6年度調査問題

A－16／B－8

伊織さんは、博物館に展示されていた銅鏡の破片を見て、欠けていないもとの状態の、円形の銅鏡の大きさを調べようと思った。そこで、銅鏡の破片を写真に撮り、銅鏡全体の形を円とみなし、もとの銅鏡の半径を調べることにした。

伊織さんは、右の図のように、銅鏡の破片の写真を実物大の大きさに表し、円周上に３点 A、B、C をとったところ、AC＝15 ㎝、∠ABC＝120°となった。

もとの銅鏡の半径は $\boxed{ツ／コ}$ ㎝と求めることができる。



ツ／コ ：① 15　② 30　③ $15\sqrt{2}$　④ $5\sqrt{3}$

⑤ $10\sqrt{3}$　⑥ $\frac{15}{4}$　⑦ $\frac{15\sqrt{2}}{2}$　⑧ $\frac{15\sqrt{3}}{4}$

正答率 **22.8%**

設問のねらい　正弦定理を用いて三角形の外接円の半径を求めることができるかをみる

【表1】誤答の類型と選択率

誤答率（%）	無答率（%）	誤答の選択率（%）					正答
		③	⑦	⑤	②	①、⑥、⑧	
73.3	3.8	20.1	19.2	11.1	7.2	15.7	④

【表2】過去問題との比較

出題年度	R3	R4	R5
正答率（%）	29.6	34.3	33.2
選択型	※A、B共通	※A、B共通	※A、B共通

分析と考察

割れた銅鏡を円とみなし、三角比を用いて銅鏡の半径を求める仕立とし、正弦定理を活用して半径の長さを求める問題である。

生徒はどこでつまずいたのか？

誤答の選択肢③や⑤、②を選択した生徒は、正弦定理を誤って理解している、または正しく適用できなかったと考えられる。また、誤答の選択肢③や⑦を選択した生徒は、鈍角の三角比の値を誤って用いたと考えられる。

正弦定理と鈍角の三角比の理解に課題

今年度の正答率は、R4で出題した外接円の半径を用いた問題の正答率【表2】と比較すると、11.5 ポイント低下した。正弦定理を理解し、正しく適用すること、鈍角の三角比の値を正しく用いることに課題がある。与えられた三角形の辺や角の大きさから、正弦定理を用いて何が求められるのかを捉えさせること大切である。また、鈍角の三角比の値を導出する過程を確認する場面を設定し、鈍角の三角比の値を正しく理解し、適切に処理できるように指導することが大切である。

高校入試の結果分析から

現2年生が受験した令和5年度高校入試※において、基本的な図形の性質を見いだし、適切に数式で表現することができていないことを指摘している。

※令和 5 年度宮城県公立高等学校入学者選抜学力検査「数学」第二問問題 1(1)(2)（扇形の弧の長さを求める力、基本的な図形の性質から面積を求める力をみる問題）

課題への対応

正弦定理を用いて問題解決した過程を互いに説明したり、振り返ったりする活動を取り入れ、正弦定理と鈍角の三角比を理解し、適切に処理できるように指導することが大切である。また、日常生活の事象を数学的に捉え、問題解決する場面を設定し、正弦定理を用いて処理することの有用性を実感できるように指導することが大切である。

「授業づくりのポイント」 p. 15

Pick Up !
英 語

改善・充実をはかりたい事項

長めの説明を聞き、情報を整理すること

令和6年度調査問題

4（リスニング問題）
２つの大学（A、B）の学生が行ったボランティア活動の種類について、表にまとめます。説明を聞き、下の表の空欄キ～コに入る最も適切なものを、1～4 の中からそれぞれ１つ選びなさい。英語は１回だけ放送されます。　（放送文省略）

1　12.3%　　2　15.6%　　3　20.0%　　4　25.3%

Type	University A	University B
Environmental protection	15.5%	キ

正答率
キ　30.8%

設問のねらい　長めの説明を聞き、必要な情報を整理することができるかをみる

【表1】誤答の類型と選択率

誤答率（%）	無答率（%）	誤答の選択肢の選択率（%）			
		1	2	3	4
68.3	0.9	○	13.1	39.0	16.2

【表2】過去問題との比較

R4、5 に出題した、「長めの説明を聞き、必要な情報を整理する問題」の正答率（%）

出題年度	R4	R5
正答率（%）	53.8	38.2

分析と考察

4は、長めの説明（80語程度）を聞き、必要な情報を整理する問題である。

生徒はどこでつまずいたのか？

設問キで誤答の選択肢を選んだ生徒は、説明の“about 12% joined the activities to protect the environment”という部分と、表中の語句“Environmental protection”を関連付けて捉えられなかったと考えられる。聞き取らなければならない必要な情報を意識せずに聞き流したり、聞き取った情報を適切に処理できなかったりしたものと推察される。

また、誤答の選択肢 3 を選んだ生徒が 39.0% いたことから、正答である“twelve”と選択肢 3 の“twenty”を聞き分けることができず、混同してしまったものと考えられる。

過去問題との比較

R4、R5 も今年度と同程度の長さの英語を聞き、R4 は“about 30%”、R5 は“about 10%”に対応する数字を答える設問であった。これらの正答率は、【表2】に示すとおりで、R4は50%を超えたものの、R5は40%を下回り、R6は30.8%であった。R6は、類似した発音の数字を聞き分ける要素が加わったが、長めの説明を聞いて、数量表現を含む複数の情報を処理し、条件に従って整理することに、引き続き課題があるといえる。

課題への対応

長めの英語を聞く際には、聞き取らなければならない必要な情報は何かを押さえ、メモを取ったり、表にまとめたりしながら聞くことが重要である。授業においては、聞き取った内容をペアやグループで要約し、必要な情報が聞き取れたかを全体で確認するなどの適切な活動を設定することが大切である。

また、thirteen と thirty など混同しやすい表現は、強勢の位置の違いに気づかせ、聞かせた後に正しく発音させるなどの指導を繰り返すことが大切である。

「授業づくりのポイント」
p. ３０

Ⅰ　調査の概要

1　学力状況に関する調査

（１）目的　　生徒の学力状況を把握し、各学校における学習指導及び進路指導の改善に役立てる。

（２）調査対象　　公立（県立・仙台市立・石巻市立）高等学校　７３校　中等教育学校　１校
２年生１２，２７２人　　（中等教育学校は５年生）

（３）実施期間　　令和６年７月１日（月）から７月８日（月）までの間、各学校で実施

（４）実施内容

①　実施教科

○　国語、数学、英語の３教科

○　該当教科の必履修科目において学習した基礎的・基本的な内容を中心に出題し、平均正答率を５０％と設定

○　各教科、共通問題に加え学校選択問題を設定

※　学校選択型Ａ問題は基礎的・基本的な内容の問題を設定（数学及び英語の学校選択型Ａ問題は義務教育段階の内容を含む）

※　学校選択型Ｂ問題は基礎的・基本的な内容の問題及び応用力をみる問題を設定

②　実施人数

国語　１１，５６５人（Ａ問題選択５３校４，６５０人、Ｂ問題選択３３校６，９１５人）
数学　１１，５５７人（Ａ問題選択５７校５，３３１人、Ｂ問題選択２９校６，２２６人）
英語　１１，５５４人（Ａ問題選択５５校５，００３人、Ｂ問題選択３１校６，５５１人）

※　複数課程を併置又は分校を置く学校については、各課程・分校をそれぞれ１校として学校数を算出（全日制６８校、定時制１５校、分校３校、計８６校）

2　学習状況等に関する調査

（１）目的　　生徒の学習状況等を把握し、各学校における学習指導及び進路指導の改善に役立てる。

（２）調査対象　　公立（県立・仙台市立・石巻市立）高等学校　７３校　中等教育学校　１校
１年生　１２，４９６人　　（中等教育学校は４年生）
２年生　１２，２７２人　　（中等教育学校は５年生）

（３）実施期間　　令和６年７月１日（月）から７月８日（月）までの間、各学校で実施

（４）実施内容

①　調査内容

生徒の学習状況、心の有り様及び志教育に係る意識等に関する質問紙調査

②　実施人数

１年生　１２，０４２人　（回収率　９６．４％）　　（中等教育学校は４年生）
２年生　１１，６０３人　（回収率　９４．５％）　　（中等教育学校は５年生）

Ⅱ　学力状況に関する調査結果の概要と分析

1　国語

(1)調査結果の概要

考察と課題　　◇…相当数の生徒ができている　◆…課題がある

＜〔知識及び技能〕(言葉の特徴や使い方に関する事項)＞
◇ 自分の考えを的確に伝えるために必要な話の構成や展開の工夫について理解することはできている。〔 1ク. ケ 〕
◆ 慣用表現の意味や用法を理解し、文の中で適切に使うことに課題がある。〔 1カ 〕

⇨ **課題1：実社会において活用できる語句を増やし、話や文章の中で適切に使うこと。**

＜〔思考力、判断力、表現力等〕「読むこと」(論理的な文章)＞
◇ 2つの文章を読み比べ、構成・内容の共通点を把握することはできている。〔 2ス 〕
◆ 書き手の考えの中心となる事柄を、構成や展開を捉えながら叙述を基に把握することに課題がある。〔 2シ 〕

⇨ **課題2：内容や構成、論理の展開などについて、叙述を基に的確に捉え、要旨を把握すること。**

＜〔思考力、判断力、表現力等〕「読むこと」(文学的な文章)＞
◇ 文章の内容や展開を踏まえ、語句の意味から登場人物の様子や心情を捉えることはできている。〔 3セ～タ 〕
◆ 作品の表現の特色を叙述を基に捉えることについては、改善が見られるが、引き続き課題がある。〔 3チ 〕

⇨ **課題3：作品の表現の仕方、表現の特色を適切に捉え、評価すること。**

＜〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕「読むこと」(古文・漢文)＞
◇ 漢文の内容把握に必要となる訓読の決まりについて、おおむね理解することはできている。〔 5Aネ. ノ 〕
◆ 古文・漢文ともに、内容把握に必要な語句や文法事項について理解することに課題がある。〔 4テ. ト、5Bノ 〕
◆ 古文・漢文ともに、文章全体の内容について、叙述を基に捉えることに課題がある。〔 4ヌ、5Aヒ、Bヒ 〕

⇨ **課題4：古典を読むために必要な知識を活用し、文章の内容を叙述を基に捉えること。**

① 共通問題の正答率(調査対象全体)

共通問題正答率　60.1%(令和5年度59.6%)

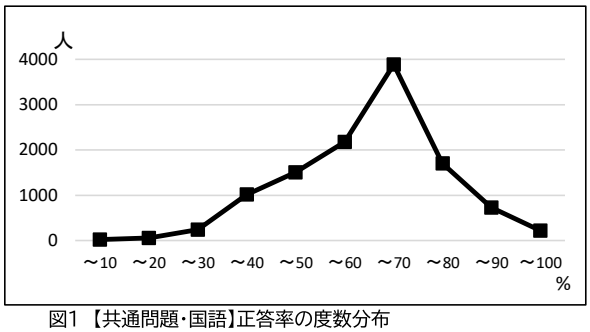


図1 【共通問題・国語】正答率の度数分布

＜概況＞
　共通問題の正答率や度数分布は、昨年度とおおむね同様である。第1問では、問2の、慣用表現に関する問題の正答率が、昨年度から4.5ポイント低下し、全小問の中で最も低かった。第2問では、問3の、本文の要旨の把握に関する問題の正答率が、昨年度から14.9ポイント低下した。第3問では、問4の、表現の特色の把握に関する問題の正答率が、昨年度から4.4ポイント上昇したものの、昨年度と同様に低い正答率となった。第4問は、全体的に正答率が低く、特に問5の、全体の内容把握に関する問題の正答率が、昨年度から20.1ポイント低下した。

② 共通問題の小問ごと正答率(調査対象全体)

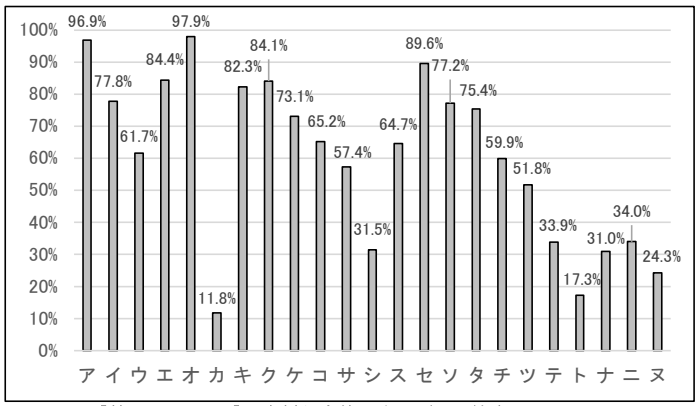


図2 【共通問題・国語】調査対象全体の小問ごと正答率

	解答記号	分類	内容
1	ア～オ	漢字・語句・文法	漢字の読み書き
	カ	漢字・語句・文法	慣用表現
	キ	漢字・語句・文法	文の成分の順序や照応
	ク	漢字・語句・文法	話し方
	ケ	漢字・語句・文法	話し方の評価
2	コ・サ	論理的な文章	内容把握
	シ	論理的な文章	要旨の把握
	ス	論理的な文章	読み比べ
3	セ～タ	文学的な文章	心情把握
	チ	文学的な文章	表現の特色の把握
4	ツ	古文	文法の知識
	テ・ト	古文	古語の知識
	ナ	古文	心情把握
	ニ・ヌ	古文	内容把握

③ 学校選択型A（A問題選択者）の小問ごと正答率

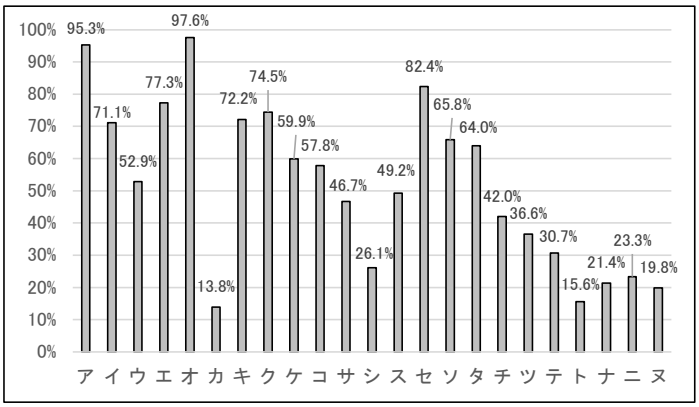


図3 【共通問題・国語】A選択者の小問ごと正答率

	解答記号	分類	内容
1	ア～オ	漢字・語句・文法	漢字の読み書き
	カ	漢字・語句・文法	慣用表現
	キ	漢字・語句・文法	文の成分の順序や照応
	ク	漢字・語句・文法	話し方
	ケ	漢字・語句・文法	話し方の評価
2	コ・サ	論理的な文章	内容把握
	シ	論理的な文章	要旨の把握
	ス	論理的な文章	読み比べ
3	セ～タ	文学的な文章	心情把握
	チ	文学的な文章	表現の特色の把握
4	ツ	古文	文法の知識
	テ・ト	古文	古語の知識
	ナ	古文	心情把握
	ニ・ヌ	古文	内容把握

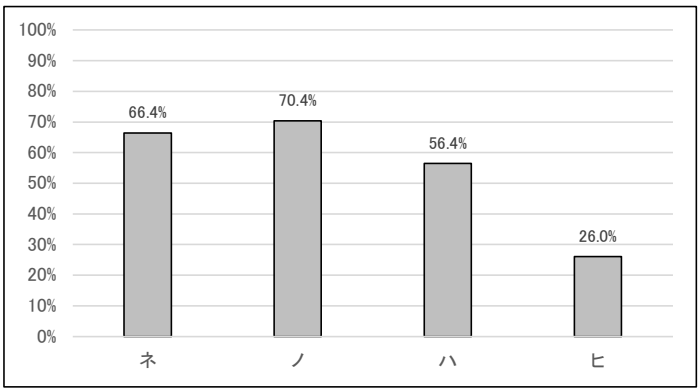


図4 【選択型A問題・国語】小問ごと正答率

学校選択型A問題

	解答記号	分類	内容
5 A	ネ	漢文	基本語句の読み
	ノ	漢文	返り点の読み
	ハ・ヒ	漢文	内容把握

④ 学校選択型B問題（B問題選択者）の小問ごと正答率

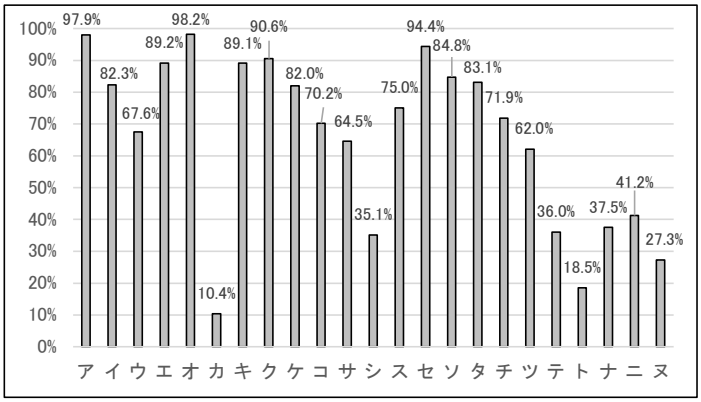


図5 【共通問題・国語】B選択者の小問ごと正答率

	解答記号	分類	内容
1	ア～オ	漢字・語句・文法	漢字の読み書き
	カ	漢字・語句・文法	慣用表現
	キ	漢字・語句・文法	文の成分の順序や照応
	ク	漢字・語句・文法	話し方
	ケ	漢字・語句・文法	話し方の評価
2	コ・サ	論理的な文章	内容把握
	シ	論理的な文章	要旨の把握
	ス	論理的な文章	読み比べ
3	セ～タ	文学的な文章	心情把握
	チ	文学的な文章	表現の特色の把握
4	ツ	古文	文法の知識
	テ・ト	古文	古語の知識
	ナ	古文	心情把握
	ニ・ヌ	古文	内容把握

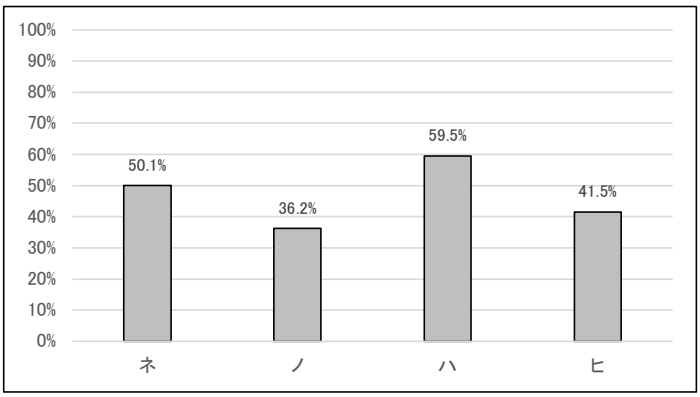


図6 【選択型B問題・国語】小問ごと正答率

学校選択型B問題

	解答記号	分類	内容
5 B	ネ	漢文	基本語句の読み
	ノ	漢文	句法の理解・解釈
	ハ・ヒ	漢文	内容把握

(2)分析結果から見える「現代の国語」「言語文化」の授業づくりのポイント

POINT1 －〔知識及び技能〕（言葉の特徴や使い方に関する事項）

実社会において理解したり表現したりするために必要な語句を増やすとともに、語句の意味や用法の理解を深め、話や文章の中で使うことができるようにする。

- ❑ 実社会で活用できる語句を増やし、意味や用法の理解を深める学習では、〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域における学習と関連付け、多様な語句を取り上げることが大切である。
- ❑ 慣用表現やことわざを含め、文章の中で用いられている語句を適宜取り上げ、意味や用法を調べたり、実際に話したり書いたりする場面を設定することが考えられる。

POINT2 －〔思考力、判断力、表現力等〕「読むこと」（論理的な文章）

文章の内容や構成、論理の展開などについて、叙述を基に的確に捉え、要旨を把握することができるようにする。

- ❑ 文章の要旨を把握する学習では、文章の構成や論理の展開、中心的な内容を捉えることが重要である。その際、文章の構成や論理展開を図式化する活動が効果的である。〔知識及び技能〕の「文や文章」、「情報の整理」と関連付け、文章の内容を表に整理したり、ベン図等の思考ツールを活用したりすることも考えられる。
- ❑ 複数の文章を読み比べる活動では、それぞれの文章の内容や構成、論理の展開について、共通点や相違点を捉え、意見を交流することが大切である。

POINT3 －〔思考力、判断力、表現力等〕「読むこと」（文学的な文章）

登場人物の心情や情景の描写の仕方に着目し、作品の表現上の特色を評価することができるようにする。

- ❑ 作品の構成や展開、修辞技法、語句の使い方や言い回しなど、作品における表現上の特徴を捉え、その表現が読者に与える印象、解釈に及ぼす影響などについて指摘できるようにする必要がある。
- ❑ 作品中の特徴的な心情描写や情景描写を取り上げ、その特色や効果について、自分の考えの根拠となる描写や考察の過程を示しながら討論する活動を取り入れることが大切である。

POINT4 －〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕「読むこと」（古文・漢文）

生涯にわたって古典に親しむため、身に付けた知識を活用して古典を読み、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。

- ❑ 古典を読むために必要な文語や訓読のきまりについては、生徒が古典の世界に親しむことを意識して扱う必要がある。文語や訓読のきまりのみの学習の時間を長期にわたって設けて網羅的に指導することなく、「読むこと」の言語活動を通して指導することが求められる。
- ❑ 自分の考えを広げたり深めたりするために、古典を読み、作品の内容や表現を現代社会や自分と関係付け、論述したり発表したりする活動を取り入れることが大切である。

(3)設問ごとの分析結果

①　出題のねらいと内容

高等学校国語科の学習を通して身に付けてきた、〔知識及び技能〕及び〔思考力、判断力、表現力等〕の状況をみることをねらいとした。

「現代の国語」及び「言語文化」の「読むこと」の領域の内容を中心に、中学校までの学習内容を含めて出題した。

②　設問ごとのねらい、結果の分析と考察

第1問　〔知識及び技能〕(言葉の特徴や使い方に関する事項)

問1は漢字の読み書き、問2は慣用表現、問3は文の成分の順序や照応、問4は話の組立て方や話し言葉の特徴についての理解をみる問題

問題番号		解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答の選択肢の選択率（%）			
							①	②	③	④
問１	（１）	ア	④	**96.9**	2.8	0.3	1.7	0.8	0.4	○
	（２）	イ	③	**77.8**	21.9	0.3	1.5	15.5	○	5.0
	（３）	ウ	①	**61.7**	38.0	0.3	○	32.9	4.2	0.9
	（４）	エ	④	**84.4**	15.2	0.4	1.6	7.2	6.4	○
	（５）	オ	②	**97.9**	1.7	0.4	0.7	○	0.7	0.4
問　２		カ	①	**11.8**	87.7	0.5	○	51.3	8.8	27.6
問　３		キ	③	**82.3**	17.3	0.4	3.8	5.7	○	7.9
問　４		ク	①	**84.1**	15.5	0.4	○	8.8	2.8	4.0
		ケ	②	**73.1**	26.5	0.4	9.5	○	9.7	7.2

【考察】

問１は、文脈に応じて漢字の正しい読み書きができるかをみる問題である。

（２）では、「発揮」の「揮」を、旁（つくり）が同じ漢字である②「輝」と誤って選択した生徒が15.5%と多かった。部首や熟語の意味に注意して書き分けることができなかったといえる。

（３）は、正答率が61.7%であり、誤答の選択肢②「執」の選択率が32.9%と高かった。熟語としての「採決」と関連付けられなかったものと考えられる。平成28年度の調査でも「決をトる」を出題していたが、正答率は61.4%で、「執」の選択率は32.5%であり、ほぼ同等の結果であった。

問２は、慣用句を正しく理解しているかをみる問題である。正答率は11.8%であり、全ての問題の中で最も低かった。「流れに棹さす」だけでなく、誤答の選択肢②「気が置けない」、④「琴線に触れる」についても理解が不足していたといえる。慣用句やことわざの理解に関する問題は、過年度の調査においても正答率が低く、慣用句やことわざの理解に継続した課題がある。慣用句やことわざを含め、文章の中で用いられている語句を適宜取り上げ、意味や用法について理解し、実際に話したり書いたりすることを通して、語彙を豊かにしていく必要がある。

問３は、文の成分の順序や照応などを正しく理解しているかをみる問題である。正答率は82.3%であり、同様の問題を出題した令和３年度の調査と比較して25.3ポイント上昇した。「かかわらず」が直前に述べた事柄から予想されることと反する結果を述べる場合に用いる接続表現であることは理解できていたといえる。

問４は、集めた情報を資料にまとめ、聴衆に対して発表する場面で、話の効果的な組立て方や話し言葉の特徴などについての〔知識及び技能〕を活用できるかをみる問題である。平成30年改訂の学習指導要領では、「話すこと・聞くこと」の領域の学習について充実が図られていること、〔知

識及び技能〕に示されている事項は、〔思考力、判断力、表現力等〕に示されている事項の指導を通して指導することを基本としていることを踏まえ、「話すこと・聞くこと」の領域に関連する〔知識及び技能〕の理解をみる問題を新設した。

正答率は（１）、（２）ともに70％を越えた。聞き手に的確に伝わる話の構成や展開については、おおむね理解できていたといえる。

◆漢字の読み書きについては、漢字の成り立ちや部首の意味などにも触れながら、文章の中で使うことを通して指導することが大切である。
◆語句の学習においては、実際に話したり書いたりすることを通して、文脈に即した適切な使い方を理解することが重要である。
◆「話すこと・聞くこと」の指導においては、〔知識及び技能〕の指導事項「話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色」や「話の効果的な組立て方や接続の仕方」との関連を図ることが大切である。

第2問　〔思考力、判断力、表現力等〕「読むこと」（論理的な文章）

問1・問2は内容の把握、問3は要旨の把握、問4は2つの文章の構成・内容の共通点の把握をみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答の選択肢の選択率（％）			
						①	②	③	④
問 1	コ	③	**65.2**	34.4	0.4	21.1	6.2	○	7.1
問 2	サ	①	**57.4**	42.1	0.5	○	9.2	28.0	5.0
問 3	シ	②	**31.5**	68.0	0.5	33.0	○	24.6	10.4
問 4	ス	③	**64.7**	34.8	0.5	5.0	11.8	○	17.9

【考察】

平成30年改訂の学習指導要領では、「現代の国語」の「読むこと」の領域の指導事項として「情報を相互に関連付け」ることが示されている。また、中学校第３学年の「読むこと」の領域の言語活動例に、「論説や報道などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする」活動が示されている。これらを踏まえ、２つの文章を読み比べる仕立てで出題した。

問１は、指示語を含む傍線部Ａの内容を、叙述から的確に捉えられるかをみる問題である。正答率は65.2％であった。指示語の指示内容を捉えることはおおむねできていたといえる。誤答の選択肢①の選択率が21.1％と高くなった原因として、本文中の「世間話をするのが普通の姿であった」という叙述を、「自然体で関わる」という誤った意味で捉えたことが考えられる。

問２は、本文における「縁側の空間という間の文化」について、構成や展開を捉えながら、叙述から的確に捉えられるかをみる問題である。正答率は57.4％であった。「生活習慣を柔軟に変化させてきた」と説明している誤答の選択肢③の選択率が28.0％と高かった。傍線部直前の「生活習慣の伝統は……一朝一夕に変化するわけではない」という叙述の意味を適切に捉えることができなかったものと考えられる。

問３は、傍線部Ｃの理由を、構成や展開を捉えながら的確に捉えられるかをみる問題である。

障子紙の「弱さを張りつめて強度としている」という「逆説的なありよう」によって生じる「張りの行き届いた風情」が、日本人の身体感覚に影響を与えてきた、という本文全体の要旨を正確に把握することが求められる。正答率は第２問の中で最も低い31.5％にとどまった。誤答の選択肢①の選択率が33.0％と高くなったことから、障子紙の「逆説的なありよう」を正確に捉えることができず、「人の心をもぴんと張らせる効果」について、本文全体の要旨を捉えることができていなか

ったといえる。本文全体の要旨を把握する問題は、過年度の調査においても正答率が低く、継続した課題である。

問４は、２つの文章を読み比べ、構成・内容の共通点を把握できるかをみる問題である。正答率は64.7%であった。それぞれの文章の構成や要旨を捉え、比較し、共通点を把握することはおおむねできていたといえる。

◆論理的な文章を読む際には、文章の構成や論理の展開、中心的な内容を捉えることが重要である。その際、文章の構成や論理展開を図式化する学習活動が効果的である。〔知識及び技能〕の「文や文章」、「情報の整理」と関連付け、文章の内容を表に整理したり、ベン図等の思考ツールを活用したりすることも考えられる。
◆複数の文章を相互に関連付けながら読み比べる際には、内容や構成、論理の展開について共通点や相違点を捉えたり、それぞれの文章の情報がどのように相互に関連しているかについて考察したりする活動を取り入れることが大切である。

第3問 〔思考力、判断力、表現力等〕「読むこと」（文学的な文章）
問1～3は心情把握、問4は表現の特色の把握をみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答の選択肢の選択率（%）			
						①	②	③	④
問 1	セ	②	**89.6**	9.8	0.6	4.3	○	3.2	2.4
問 2	ソ	④	**77.2**	22.2	0.6	6.8	4.8	10.6	○
問 3	タ	③	**75.4**	23.9	0.7	12.0	8.3	○	3.6
問 4	チ	④	**59.9**	39.3	0.8	11.2	20.1	8.0	○

【考察】

問１は、作品の内容や展開、語句の意味を踏まえ、登場人物の様子を捉えられるかをみる問題である。正答率は89.6%であった。「胸がざわつく」という語句の意味を踏まえ、文脈から主人公の様子を捉えることができていた。

問２は、作品の内容や展開を踏まえ、登場人物の心情を捉えられるかをみる問題である。正答率は77.2%であった。登場人物の言動や、主人公の回想などの叙述を基に、主人公の心情の変化を捉えることができていた。

問３も、作品の内容、展開を踏まえ、登場人物の心情を捉えられるかをみる問題である。正答率は75.4%であった。言葉では謝っていながらも、表情はほほえんでいるという描写を基に、登場人物の心情を捉えることができていた。

問４は、本文の表現の特色を叙述に基づいて捉えられるかをみる問題である。主人公が、登場人物に対する認識を改めていくという展開を叙述を基につかんだ上で、雨が小ぶりになってきた様子の描写の効果について評価することが求められる。正答率は59.9%にとどまったが、同様の問題を出題した過年度の調査と比較すると、令和元年度は40.5%、令和５年度は55.5%であり、正答率に若干の上昇がみられた。「斉藤夫人が夫の新たな一面に気づいたことを印象付けている」と説明している誤答の選択肢②の選択率が20.1%と高かった。登場人物の姿を複数の人物の視点から描写するという表現の特色を捉えることはできたものの、その効果を捉えることができていなかったといえる。

◆文学的な文章を読む際には、表現の効果について根拠を明確にして考えることが重要である。指導に当たっては、表現の効果を叙述を基に評価できるようにするために、作品中の特徴的な表現を取り上げ、その特色や効果について、自分の考えの根拠となる描写や考察の過程を示しながら討論する活動を取り入れることが大切である。

第4問　〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕「読むこと」（古文）
問1は文法の知識、問2は古語の知識、問3は心情把握、問4・問5は内容把握をみる問題

問題番号		解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答の選択肢の選択率（%）			
							①	②	③	④
問 1		ツ	②	**51.8**	47.2	1.0	7.6	○	15.3	24.3
問 2	a	テ	④	**33.9**	64.9	1.2	34.0	20.3	10.6	○
	b	ト	③	**17.3**	81.5	1.2	60.7	6.5	○	14.3
問 3		ナ	④	**31.0**	67.7	1.3	30.8	25.6	11.3	○
問 4		ニ	①	**34.0**	64.7	1.3	○	21.8	28.2	14.7
問 5		ヌ	②	**24.3**	74.2	1.5	23.4	○	15.1	35.7

【考察】

問１は、古文における動詞の活用を理解しているかをみる問題である。古文を読むために必要な知識の理解をみるため、今年度の調査では、過年度の調査では動詞の活用形を問う問題であったものを、動詞を終止形に直す問題に変更した。正答率は51.8%にとどまった。古文に親しみ、自ら主体的に学んでいくために最も基本的な知識が定着していないといえる。

問２は、文脈に応じて古語の意味を捉えられるかをみる問題である。正答率はａが33.9%、ｂが17.3%にとどまった。ａでは誤答の選択肢①「気が立つ」の選択率が34.0%、ｂでは誤答の選択肢①「無常にも」の選択率が60.7%と高くなった。原因として、傍線部ａは現代語の「勇む」、ｂは現代語の「空しい」から、文脈を踏まえずに、それぞれ意味を判断したと考えられる。古今異義語については、現代語との意味の違いや用法の違いを捉えた上で、文脈に応じてその意味を判断することが大切である。

問３は、叙述から登場人物の心情を捉えられるかをみる問題である。正答率は31.0%にとどまった。「本意なし」を含む傍線部の内容を説明する問題は令和４年度の調査においても出題しているが、令和４年度と比較して正答率は17.5ポイント低下した。公経が「ことよろしき国」への赴任を願ったものの、「あやしき国」に下ることになったという展開を捉えることができず、また、「本意なし」という古語の意味や用法を捉えた上で、文脈から公経の心情を把握することができていなかったと考えられる。

問４は、叙述から本文の内容を的確に捉えられるかをみる問題である。公経が自分と同じ名前が書かれた願文を見つけ、自身の運命を悟るという展開を的確に捉えることが求められる。正答率は34.0%にとどまった。誤答の選択肢③と④の選択率が合わせて40%を超えたことから、願文の「沙門公経」が前世の公経であることを捉えることができていなかったといえる。

問５は、作品に表れている筆者のものの見方、考え方を捉えられるかをみる問題である。正答率は24.3%と、同様の問題を出題した令和５年度の調査と比較して20.1ポイント低下した。誤答の選択肢④の選択率が35.7%と高くなった原因として、公経が願文から自分の前世からの運命を悟り、前世で抱いていた願いと一致する現世の願いを達成していくという展開や、最後の一文に述べられている筆者の考えを捉えられず、「神をそしり、仏をさへうらみ奉るは、いみじう愚かなり」という叙述から、「自分の不遇を嘆いている」という解釈をしたことが考えられる。

◆文語のきまりや古文特有の表現については、「読むこと」の指導に即して、古文を読むために必要なものを扱うことが求められる。文語のきまりや古文特有の表現のみの学習時間を長期にわたって設けて網羅的に指導することのないよう留意する必要がある。
◆説話や物語に分類される古文を読む際には、登場人物の関係や出来事の推移を叙述を基に整理して、本文の内容を的確に捉えることが重要である。
◆古文そのものに対する興味・関心を広げ、古文を学習する意欲を高めるために、作品に表れたものの見方、感じ方、考え方について、自分の解釈を他者と共有する活動や、異なる時代に成立した作品を比較したり論じたりする活動を取り入れることが大切である。

学校選択型A用問題
第5問A 〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕「読むこと」(漢文)
問1は基本語句の読み、問2は返り点の理解、問3・問4は内容把握をみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答の選択肢の選択率（%）			
						①	②	③	④
問 1	ネ	③	**66.4**	32.1	1.5	6.0	21.6	○	4.5
問 2	ノ	②	**70.4**	28.0	1.6	4.6	○	14.8	8.6
問 3	ハ	①	**56.4**	41.9	1.7	○	8.0	15.5	18.5
問 4	ヒ	④	**26.0**	72.0	2.0	22.7	31.3	17.9	○

【考察】
過年度の調査においては、学校選択型Ａ問題は、漢文に関する基本的な知識についての理解を問う小問で構成していたが、漢文に関する基本的な知識の理解に加え、それを活用して叙述に即して漢文を読むことができるかをみるため、文章素材の出題に変更した。
問１は、漢文で用いられる語句の読みを理解しているかをみる問題である。正答率は66.4%であった。「之」は読み方が複数ある語で、本文中での用いられ方から読み方を判断する必要がある。誤答の選択肢②「これ」の選択率が高く、「刻削之道」という文の中で、「之」が連体修飾の働きをしていると判断することができていなかったといえる。
問２は、返り点の用法を理解しているかをみる問題である。正答率は、同様の問題を出題した令和５年度の調査と比較して3.5ポイント上昇し、70%を越えた。返り点の基本であるレ点については、おおむね理解できていたといえる。
問３は、叙述から本文の内容を的確に捉えられるかをみる問題である。正答率は56.4%であった。誤答の選択肢を選んだ生徒は、「鼻は大きくしておくほどよい」、「鼻の大きいのは削って小さくすることができる」という文脈を捉えることができていなかったと考えられる。
問４は、本文に表れているものの見方、考え方を捉えられるかをみる問題である。正答率は26.0%にとどまった。彫刻を例に挙げ、最後の一文で物事を行う際に気を付けるべきことを一般化して述べているという本文の展開を捉えることができていなかったといえる。誤答の選択肢②の選択率が31.3%と高くなった原因として、「物事を行う際も同様である」という傍訳を活用しながら、本文中における「刻削」の意味するところを捉えることができず、また、「不可復」を「二度とすべきではない」という意味で捉えたことが考えられる。

◆漢文を読む指導では、音読を繰り返すことで、漢文特有のリズムや調子に気付かせることが大切である。また、生徒の実態に合わせて、現代語訳や映像資料、漢文と関連のある近代以降の文章などを活用して、内容の把握につなげる活動を取り入れることも大切である。

学校選択型B用問題

第5問B 〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕「読むこと」（漢文）

問1は基本語句の読み、問2は句法の理解・解釈、問3・問4は内容把握をみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答の選択肢の選択率（%）			
						①	②	③	④
問 1	ネ	②	**50.1**	48.9	1.0	12.6	○	31.7	4.7
問 2	ノ	④	**36.2**	62.7	1.1	21.0	22.0	19.6	○
問 3	ハ	①	**59.5**	39.1	1.4	○	13.0	16.5	9.7
問 4	ヒ	③	**41.5**	57.1	1.4	17.0	17.9	○	22.2

【考察】

問１は、漢文で用いられる語句の読みを理解しているかをみる問題である。正答率は50.1%であった。「与」は読み方が複数ある語であり、直後の「之」から返って読むことを踏まえて、読み方を判断する必要がある。

問２は、再読文字を理解し、文脈に沿って現代語訳できるかをみる問題である。正答率は36.2%にとどまった。「且」と同義の再読文字である「将」について出題した平成28年度の調査と比較して8.7ポイント低下した。「且」は「まさニ～（んと）す」と読むこと、「～しようとする」と現代語訳することの知識が求められる。また、再読文字「当」や「応」との違いを明確に理解することも必要である。

問３は、本文全体の展開を踏まえ、内容を捉えられるかをみる問題である。正答率は59.5%であった。同様の問題を出題した令和５年度の調査と比較して27.4ポイント上昇した。「放逐」などの熟語から「逐」の意味を類推し、さらに「之」の指すものを文脈から的確に捉えることが求められる。

問４は、本文全体の内容を、叙述を基に捉えられるかをみる問題である。正答率は41.5%にとどまったものの、同様の問題を出題した令和５年度の調査と比較して25.3ポイント上昇した。それぞれの登場人物が、どのような考えから、どのような行動を取り、どのような結果となったかを、叙述を基に的確に捉えることが求められる。

◆重要語句や重要句形は、意味や用法が類似するものを整理して理解することが重要である。
◆漢文を読む際には、登場人物の関係性や、言動とその意図を叙述を基に整理して、本文の内容を的確に捉えることが重要である。
◆漢文に対する興味・関心を広げ、漢文を学習する意欲を高めるために、作品の内容や形式について批評したり討論したりする活動や、漢文と我が国の伝統や文化との関連について論述したり発表したりする活動を取り入れることが大切である。

2 数学

(1)調査結果の概要

考察と課題　　◇…相当数の生徒ができている　◆…課題がある

＜数と式＞

◇ 無理数を含む式で表された実数を数直線上の点に対応させることはおおむねできている。〔 Aサ/Bウ 〕
◆ 根号を含む式の計算を適切に行うことに課題がある。〔 Aエ 〕
◆ 絶対値の意味の理解に引き続き課題がある。〔 Aシ/Bエ 〕

⇨ **課題1：無理数を含む式の絶対値を適切に求めることや根号を含む式の計算を適切に行うこと。**

＜図形と計量＞

◆ 鋭角の三角比を利用して、直角三角形の辺の長さを表現することに課題がある。〔 Aチ/Bケ 〕
◆ 正弦定理や余弦定理を活用して、三角形の辺の長さを求めることに課題がある。〔 Aツ/Bコ、Aテ/Bサ 〕
◆ 三角比の相互関係を用いた問題解決の過程や結果を振り返って、考察することに課題がある。〔 Bヘ/ホ 〕

⇨ **課題2：図形の特徴を把握して、三角比の定理や公式を用いて表現・処理し、問題を解決すること。**

＜二次関数＞

◇ 二次方程式の解を求める技能はおおむね身に付いている。〔 Aソ/Bキ 〕
◆ 二次関数の式とグラフを相互に関連付けて、変域や最大値・最小値を求めることに課題がある。〔 Aカ 〕
◆ 二次関数の式を平方完成して、グラフの頂点の座標を求めることに課題がある。〔 Aスセ/Bオカ 〕
◆ 定数の変化によって移動するグラフを考察して、場合分けをして問題を解決することに課題がある。〔 Bナ 〕

⇨ **課題3：二次関数の式とグラフの関係を理解し、グラフを用いて多面的に考察すること。**

＜データの分析＞

◆ データの修正による標準偏差の変化や散布図の特徴から相関係数を考察すること課題がある。〔 Bマ/ミ/ム/メ 〕
◆ 仮説検定の考え方を理解し、仮説が正しいかを、得られた結果から判断することに課題がある。〔 Aトナ/Bシス 〕

⇨ **課題4：データを適切に分析し、その傾向や特徴などを読み取って表現すること。**

① 共通問題の正答率（調査対象全体）

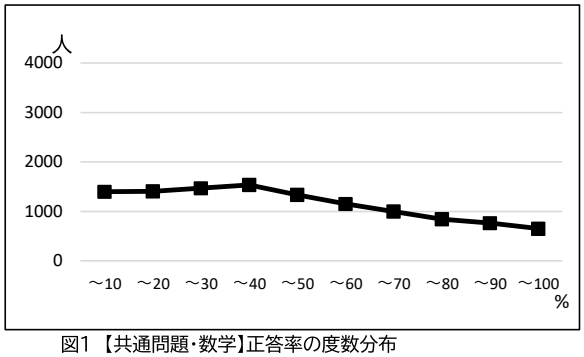


図1 【共通問題・数学】正答率の度数分布

共通問題正答率 43.5%（令和5年度45.4%）

＜概況＞
正答率の度数分布において、正答率30%～40%の階級の度数が昨年度と同じく、最も高かった。昨年度と比較すると、最頻値は36.4%と同じ数値であったが、中央値が40.0%と昨年度より5.5ポイント低下した。さらに、正答率が昨年度より1.9ポイント低下した。小問ごとの正答率をみると、昨年度と比較して、数と式（整式の計算）が7.4ポイント、二次関数（二次方程式の解法）が3.3ポイント、二次関数（二次不等式の解法）が13.5ポイントそれぞれ上昇した。一方で、図形と計量（三角比の値）は昨年度より24.1ポイント低下した。

② 共通問題の小問ごと正答率（調査対象全体）

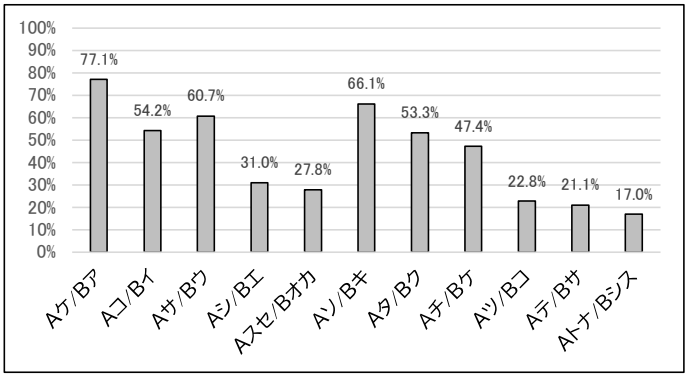


図2 【共通問題・数学】調査対象全体の小問ごと正答率

解答記号	分類	内容
Aケ/Bア	数と式	整式の計算
Aコ/Bイ	数と式	分母の有理化
Aサ/Bウ	数と式	実数と数直線上の点
Aシ/Bエ	数と式	絶対値
Aスセ/Bオカ	二次関数	二次関数のグラフ
Aソ/Bキ	二次関数	二次方程式の解法
Aタ/Bク	二次関数	二次不等式の解法
Aチ/Bケ	図形と計量	三角比の値
Aツ/Bコ	図形と計量	正弦定理
Aテ/Bサ	図形と計量	余弦定理
Aトナ/Bシス	データの分析	仮説検定の考え方

③ 学校選択型A問題（A問題選択者）の小問ごと正答率

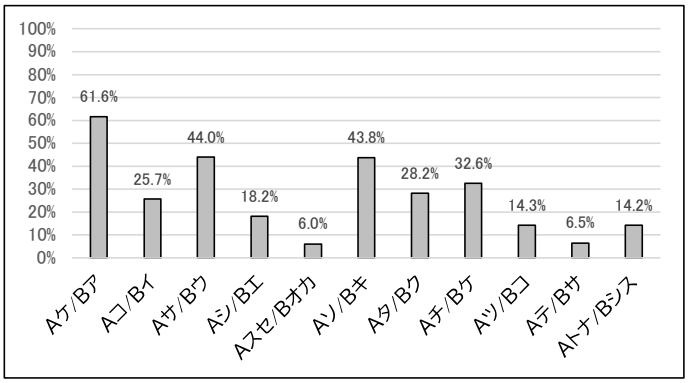


図3 【共通問題・数学】A選択者の小問ごと正答率

解答記号	分類	内容
Aケ/Bア	数と式	整式の計算
Aコ/Bイ	数と式	分母の有理化
Aサ/Bウ	数と式	実数と数直線上の点
Aシ/Bエ	数と式	絶対値
Aスセ/Bオカ	二次関数	二次関数のグラフ
Aソ/Bキ	二次関数	二次方程式の解法
Aタ/Bク	二次関数	二次不等式の解法
Aチ/Bケ	図形と計量	三角比の値
Aツ/Bコ	図形と計量	正弦定理
Aテ/Bサ	図形と計量	余弦定理
Aトナ/Bシス	データの分析	仮説検定の考え方

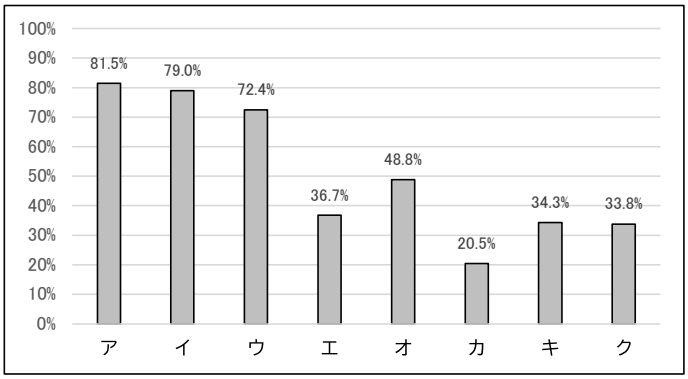


図4 【選択型A問題・数学】小問ごと正答率

学校選択型A問題

解答記号	分類	内容
ア	数と計算（小）	分数の計算
イ	数と式（中）	整数の計算
ウ	数と式（中）	整式の展開
エ	数と式（中）	平方根の計算
オ	数と式（中）	一次方程式の解法
カ	関数（中）	関数の値域
キ	図形（中）	三平方の定理
ク	データの活用（中）	箱ひげ図

④ 学校選択型B問題（B問題選択者）の小問ごと正答率

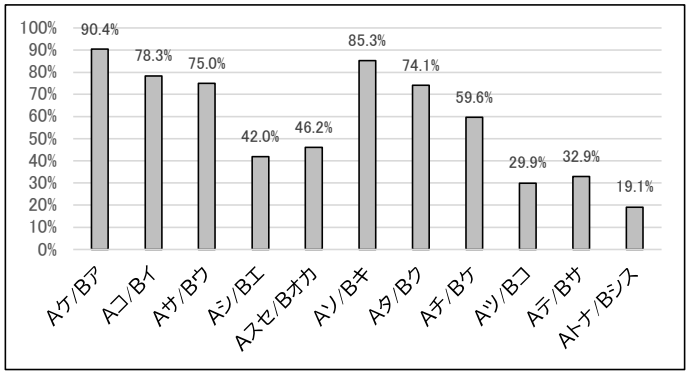


図5 【共通問題・数学】B選択者の小問ごと正答率

解答記号	分類	内容
Aケ/Bア	数と式	整式の計算
Aコ/Bイ	数と式	分母の有理化
Aサ/Bウ	数と式	実数と数直線上の点
Aシ/Bエ	数と式	絶対値
Aスセ/Bオカ	二次関数	二次関数のグラフ
Aソ/Bキ	二次関数	二次方程式の解法
Aタ/Bク	二次関数	二次不等式の解法
Aチ/Bケ	図形と計量	三角比の値
Aツ/Bコ	図形と計量	正弦定理
Aテ/Bサ	図形と計量	余弦定理
Aトナ/Bシス	データの分析	仮説検定の考え方

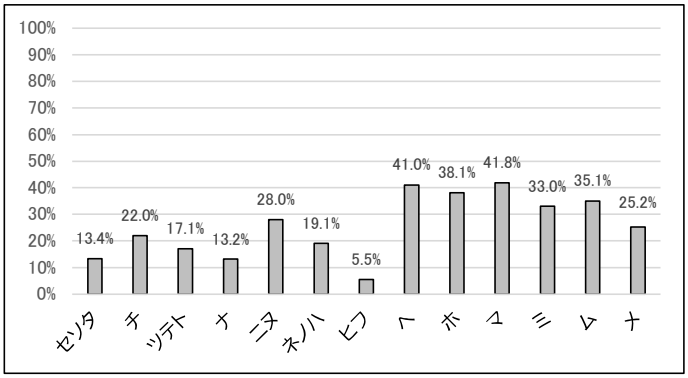


図6 【選択型B問題・数学】小問ごと正答率

学校選択型B問題

解答記号	分類	内容
セソタ	数と式	一次不等式の応用
チ	数と式	命題の真偽，必要条件・十分条件
ツテト	二次関数	二次関数の決定
ナ	二次関数	二次関数の最大最小
ニヌ	二次関数	二次不等式
ネノハ	図形と計量	空間図形と三角比
ヒフ	図形と計量	空間図形と三角比
ヘ	図形と計量	三角比の相互関係
ホ	図形と計量	三角比の相互関係
マ	データの分析	データの相関
ミ	データの分析	データの相関
ム	データの分析	データの相関
メ	データの分析	データの相関

(2)分析結果から見える「数学Ⅰ」の授業づくりのポイント

POINT1 － 数と式

実 数を拡張する意義を理解し、無理数を数直線上の点に対応させながら、絶対値を求めることや根号を含む計算を適切に行うことができるようにする。

- ❑ 無理数の絶対値を扱う際は、無理数を数直線上の点に対応させ、原点からの距離や正負を視覚的に捉え、求値までの過程を丁寧に指導することが大切である。
- ❑ 根号を含む式の計算を適切に行うことができるようにするために、平方根の性質や計算の公式を確認したり、乗法公式を用いて計算したりする場面を設定することが重要である。

POINT2 － 図形と計量

三 角比の定理や公式を適切に活用して、三角形の辺の長さや角の大きさを求めるとともに、その処理の方法や過程を評価・改善できるようにする。

- ❑ 三角比の定義を理解する際は、三角比の値を求めるだけでなく、三角比の定義から、直角三角形の辺の長さを三角比を用いて表す活動を設けることが重要である。
- ❑ 三角比の相互関係を活用して問題を解決する活動において、問題解決の過程を振り返って、解決の方法を見直したり、ほかの解決方法を検討したりするなど、評価・改善する活動を充実することが重要である。
- ❑ 日常生活の事象を三角比の知識を用いて数学的に考察し、問題を解決するためには、どのような定理や公式を用いればよいかを互いに確認したり、説明したりする場面を設定することが大切である。

POINT3 － 二次関数

― 次関数のグラフをかいて、二次関数の特徴や性質を捉え、問題の解決に活用できるようにする。

- ❑ 平方完成は、二次関数のグラフの軸や頂点の座標、最大値・最小値などを求めるために必要な技能である。$y = ax^2 + bx + c$ から $y = a(x-p)^2 + q$ への変形の過程を丁寧に示すなどして、その技能を確実に身に付けられるように指導することが大切である。
- ❑ 二次関数の最大値・最小値や係数を考察する問題では、二次関数のグラフを用いて頂点と x 軸との位置関係などを把握しながら思考することが重要である。実際にグラフをかく活動を設け、二次関数の特徴や値の変化などを視覚的に捉えた上で、見通しをもって問題を解決できるように指導することが大切である。

POINT4 － データの分析

実 際のデータを用いて、適切な統計量や手法などを選択して分析を行い、データの傾向や特徴などを読み取って表現できるようにする。

- ❑ 実際のデータを、コンピュータなどを活用して箱ひげ図や散布図に表したり、分散、標準偏差を求めたりした上で、得られた結果を基にデータの散らばりや特徴などを把握する場面を設定し、根拠を示しながらデータの特徴などを説明できるようにすることが必要である。
- ❑ 不確実な事象の起こりやすさに着目し、仮説が正しいかどうかを、実験などを通して得られた結果を基に、数学的な根拠をもって互いに説明する場面を設定し、仮説検定の考え方の理解を深め、問題の解決に応用できるようにすることが大切である。

(3)設問ごとの分析結果

① 出題のねらいと内容

高等学校数学科の学習を通して身に付けてきた〔知識及び技能〕及び〔思考力、判断力、表現力等〕の状況をみることをねらいとした。

数学Ⅰの「数と式」、「図形と計量」、「二次関数」、「データの分析」の４領域の内容から出題した。なお、学校選択型Ａ問題には、義務教育段階での学習内容の定着をみることをねらいとする問題を含んでいる。

学校選択型Ａ問題、学校選択型Ｂ問題、共通問題の領域と問題番号は、下表のとおりである。

	数と式	関数	図形	データの活用
学校選択型A問題	A-1～A-5	A-6	A-7	A-8

	数と式	二次関数	図形と計量	データの分析
共通問題	A-9～A-11 B-1～B-3	A-12～A-14 B-4～B-6	A-15～A-17 B-7～B-9	A-18 B-10
学校選択型B問題	B-11、B-12	B-13～B-15	B-16、B-17	B-18

② 設問ごとのねらい、結果の分析と考察

【共通問題】

A－9／B－1 整式を整理して計算することができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
A-9 B-1	ケ ア	④	**77.1**	22.4	0.5	③(7.4%)、②(3.6%)、①(2.8%)　など

【考察】

分配法則を用いて整式の計算ができるかをみる問題である。正答率は、令和５年度調査より 7.4 ポイント上昇し、基礎的な計算の技能について一定の定着がみられた。誤答の選択肢③や②、①を選択した生徒はいずれも、分配法則を正しく適用せずに処理したと考えられる。特に、先頭の項だけに係数の -3 を乗じて残りの項には乗じていないと考えられる誤答の割合が大きかった。

◆ 文字を用いた計算が確実にできるようにするために、分配法則や乗法公式を確認したり、計算の過程を振り返ったりする活動を取り入れることが大切である。

A－10／B－2 分母の有理化ができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
A-10 B-2	コ イ	⑤	**54.2**	45.2	0.6	②(21.5%)、③(8.0%)、④(5.7%)　など

【考察】

分母を有理化し、分子において分配法則を用いて式を展開する問題である。正答率は、過去 10 年間の調査における同様の問題とほぼ同程度であった。誤答のうち、選択率が最も高かった選択肢②を選択した生徒は、分母と分子に $\sqrt{3}$ を乗じた上に、分母の分配法則を誤ったと考えられる。誤答の選択肢③を選択した生徒は、分母と分子に $2-\sqrt{5}$ を乗じることはできたが、分子の計算で分配法則を誤ったと考えられる。

◆ 分母の有理化ができるようにするために、無理数の計算や乗法公式について確認したり、計算処理の過程を振り返ったりする活動を取り入れることが大切である。

A－11／B－3 実数を数直線上の点と対応させることができるか、絶対値の意味を理解しているかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
A-11 B-3	サ ウ	②	**60.7**	38.5	0.8	①(17.1%)、③(11.9%)、④(9.5%)
	シ エ	③	**31.0**	68.1	0.9	⑥(26.0%)、①(21.4%)、②(9.0%)など

【考察】

実数 $\sqrt{11}-5$ を数直線上の点に対応させることができるか、また、$\sqrt{11}-5$ の絶対値の意味を理解しているかをみる問題である。実数 $\sqrt{11}-5$ を数直線上の点と対応させることの正答率は、60.7 %であった。絶対値の意味を理解し、絶対値の定義に従って処理することの正答率は、31.0 %にとどまった。絶対値の意味を理解し、絶対値の定義に従って処理することに、引き続き課題がある。誤答のうち、選択率が最も高かった選択肢⑥を選択した生徒は、方程式 $|x|=\sqrt{11}-5$ を満たす x を求める問題と混同したと考えられる。誤答の選択肢①を選択した生徒は、絶対値記号を外す際に、$\sqrt{11}-5$ の「 -5 」の符号をプラスに変えたと考えられる。

◆ 無理数の絶対値の大きさを捉える際は、無理数を数直線上の点に対応させて、絶対値の意味を視覚的に捉え、絶対値の定義に従って処理することが重要である。

A－12／B－4 二次関数の式を適切に変形して、グラフの頂点の座標を求めることができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
A-12 B-4	スオ	①	**27.8**	70.1	2.1	(②2, ④−5)(9.8%)、(①1, ⑤−6)(5.0%)、(②2, ⑦−9)(2.6%)、など
	セカ	⑥				

【考察】

x^2 の係数が 2 であるグラフの頂点の座標を求める問題である。過去２年間は、二次の係数を負の数として出題した。令和６年度調査は、平方完成の技能の定着に着目してみるため、二次の係数を正の数で出題した。正答率は、過去２年間の調査とほぼ同程度であった。二次関数の式を平方完成して、$y=a(x-p)^2+q$ の形に処理することに、引き続き課題がある。誤答では、x^2 の係数で x の項までをくくり出した後、x の係数と定数項をそのまま頂点の座標としたと考えられる $(2,-5)$ が最も多かった。

◆ 平方完成を用いる場面では、計算過程を丁寧に示したり、誤った場合はどこが誤っているかを確認したりするなどして、平方完成の技能を確実に身に付けられるように繰り返し指導することが大切である。

A－13／B－5 二次方程式を解くことができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
A-13 B-5	ソ キ	③	**66.1**	32.7	1.2	⑦(8.3%)、⑥(6.0%)、②(5.4%)　など

【考察】

令和５年度調査と同様、x^2 の係数が１ではない二次方程式の問題である。正答率は、令和５年度調査とほぼ同程度であった。誤答のうち、選択率が最も高かった選択肢⑦を選択した生徒は、左辺の因数分解を $(x+2)(3x-4)$ と正しくできたものの、解を $x=2$ 、$-\frac{4}{3}$ と符号を逆にしたと考えられる。

◆ 二次方程式を解くことができるようにするために、二次方程式の計算過程を確認したり、得られた結果を元の式に代入したりして、解答が正しいかどうかを確認する活動を取り入れることが大切である。

A－14／B－6　二次不等式を解くことができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
A-14 B-6	タ ク	⑧	**53.3**	45.8	0.9	⑦(11.2%)、⑥(9.4%)、⑤(6.8%)　など

【考察】

令和５年度調査と同様、二次の係数が１で、因数分解によって $(x-a)(x-b)$ の形に変形して解く二次不等式の問題である。正答率は、令和５年度調査より 13.5 ポイント上昇した。令和５年度調査は、$x^2-a^2 \geqq 0$ の解を求める問題で、$x^2 \geqq a^2$ として、二次不等式の解を $x \geqq \pm a$ としたと考えられる誤答が多かったが、令和６年度調査は、$x^2-(a+b)x+ab<0$ の解を求める問題で、$(x-a)(x-b)<0$ と因数分解して、二次不等式の解を $a<x<b$ と判断しやすかったと考えられる。誤答のうち、選択率が最も高かった選択肢⑦を選択した生徒は、因数分解は正しく行うことができたが、解の範囲を $x<a$ 、$b<x$ と捉えたと考えられる。

◆ 二次不等式の解を考察する際は、グラフをかき、グラフと二次方程式や二次不等式を相互に関連付けて、x の値の範囲を視覚的に判断することが重要である。

A－15／B－7　鋭角の三角比を用いて辺の長さを求めることができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
A-15 B-7	チ ケ	⑤	**47.4**	51.3	1.3	②(13.4%)、④(12.5%)、③(10.1%)　など

【考察】

鋭角の三角比を多面的に捉えられるかをみることをねらいとして、三角比の定義から辺の長さを求める問題である。正答率は、令和５年度調査の三角比の定義に従って三角比の値を求める問題と比較すると約 25 ポイント低下した。三角比を用いて三角形の辺の長さを表すことに、課題がある。誤答の選択肢②や③、④を選択した生徒は、三角比の対応する辺を誤った、または三角比の式を正しく変形できなかったと考えられる。

◆ 三角比の定義を指導する際は、三角比の定義から辺の長さを三角比を用いて表す場面を設定し、三角比の意味や三角比を用いることのよさを捉えられるようにすることが大切である。
◆ 斜面の傾斜角や建造物の高さなど、直接測定できない距離や角を三角比の定義を用いて求める場面を設定し、三角比を学習することの有用性を実感できるように指導することが大切である。

A－16／B－8　正弦定理を用いて三角形の外接円の半径を求めることができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
A-16 B-8	ツ コ	④	**22.8**	73.4	3.8	③(20.1%)、⑦(19.2%)、⑤(11.1%)　など

【考察】

日常生活の事象を数学的に捉え、辺の長さと角の関係から正弦定理を活用して外接円の半径を求める問題である。直接計測ができない割れた銅鏡を円と見なし、三角比を用いて銅鏡の半径を求める仕立てとし、与えられた三角形を基に処理できるかをみた。正答率は、令和４年度調査で出題した外接円の半径から三角形の辺の長さを求める問題と比較すると、11.5 ポイント低下した。誤答の選択肢⑦を選択した生徒は、正弦定理を正しく適用したが、$\sin 120°$ の値を誤って用いて、半径を求めたと考えられる。誤答の選択肢⑤を選択した生徒は、正弦定理の適用を誤った、もしくは、直径を求めたと考えられる。誤答の選択肢③を選択した生徒は、正弦定理の適用を誤った上に、$\sin 120°$ の値を誤って用いて、半径を求めたと考えられる。正弦定理を正しく適用させ、処理することと、三角比の値を正しく用いて処理することに、引き続き課題がある。

◆ 正弦定理を扱う場面では、与えられた三角形の辺の長さや角の大きさの関係から、正弦定理で何が求められるかを捉えさせることが大切である。また、解決までの過程を説明したり、振り返ったりする場面を設定して、理解を深められるようにすることが大切である。

◆ 日常生活の事象を数学的に捉え、三角比の定理や公式を用いて問題を解決する場面を設定し、三角比の定理や公式を用いて考察し、問題を処理することの有用性を実感できるように指導することが大切である。

A－17／B－9　余弦定理を用いて三角形の辺の長さを求めることができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
A-17 B-9	テ サ	⑧	**21.1**	76.5	2.4	②(17.3%)、⑦(15.0%)、⑥(13.2%)　など

【考察】

余弦定理を用いて三角形の辺の長さを求める問題である。令和５年度調査は、日常生活の事象に余弦定理を用いて、直接計測できない長さを求める問題であった。令和６年度調査は、具体的な三角形に余弦定理の公式を用いて、三角形の辺の長さを求める問題とした。正答率は、令和５年度調査と同程度であった。余弦定理の公式を理解し、活用して辺の長さや角の大きさを求めることに、引き続き課題がある。誤答の選択肢②を選択した生徒は、余弦定理を $\mathrm{BC}^2 = \mathrm{AB}^2 + \mathrm{AC}^2 - \mathrm{AB} \cdot \mathrm{AC} \cdot \cos 120°$ として計算したと考えられる。誤答の選択肢⑥を選択した生徒は、選択肢②を選択した生徒と同じ誤りをした上に、鈍角の三角比の符号を誤って計算したと考えられる。誤答の選択肢⑦を選択した生徒は、三平方の定理を用いたと考えられる。

◆ 余弦定理を活用する問題を扱う際は、余弦定理の公式を確認した上で、与えられた条件から適切に求めることができるように指導することが大切である。

A－18／B－10　仮説検定の考え方について理解しているかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
A-18 B-10	トシ	①	**17.0**	81.5	1.5	(①、①)(47.9%)、(②、②)(12.5%)、(②、③)(8.3%)、(②、①)(7.6%)など
	ナス	②				

【考察】

不確実な事象の起こりやすさに着目して、仮説が正しいかどうかを、実験などを通して得られた結果を基に判断する問題である。仮説検定の考え方は、現行の学習指導要領から取り扱うことになった内容

であり、その知識及び技能の定着をみるために出題した。コインが 24 回以上出る相対度数を求めるトやシの正答率は 70.2 %であり、多くの生徒は相対度数を求めることができたと考えられる。

トやシで正しく相対度数を求め、有意水準を比較して、元の主張が正しいとはいえないと判断したナやスまで答えられた生徒の正答率は、17.0 %であり、共通問題の中で最も低かった。誤答としては、相対度数を正しく求められたが、対立仮説を正しいと判断した（①、①）の誤答率が最も高く、正答率を大きく上回った。仮説検定の考え方の理解に、課題がある。

◆ 仮説検定の考え方を扱う場面では、問題解決した過程を互いに確認し合ったり、判断した根拠を説明し合ったりする活動を取り入れ、仮説検定の考え方の理解を深め、仮説が正しいかどうかを根拠をもって判断し、説明できるように指導することが大切である。

【学校選択型A問題】

A－1 通分して分数の加法ができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
A-1	ア	⑥	**81.5**	18.0	0.5	⑤(11.0%)、⑦(2.0%)、③(1.7%)　など

【考察】

通分が必要な分数の加法が正しく計算できるかをみる問題である。正答率は 81.5 %であり、通分が必要な分数の加法を正しく計算する技能がおおむね定着していると考えられる。誤答のうち、最も選択率が高かった選択肢⑤を選択した生徒は、通分をせず、分母同士、分子同士をそのまま足したと考えられ、誤答の大半を占めた。

◆ 義務教育段階の学習内容に課題がある生徒に対しては、想定される誤答例を例示するなどして同じような誤りを繰り返さないよう、丁寧な指導を行う必要がある。

A－2 累乗の計算及び減法と乗法が混じった式の計算ができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
A-2	イ	⑤	**79.0**	20.3	0.7	①(9.7%)、③(4.8%)、④(1.8%)　など

【考察】

累乗の計算及び減法、乗法が混じった式の計算方法を正しく理解しているかをみる問題である。正答率は、令和５年度調査より 13.2 ポイント上昇した。令和５年度調査は、乗法と除法、累乗が混じった式であったが、令和６年度調査は、減法と乗法、累乗の混じった式であったことから、累乗、乗法、減法の順に計算し、処理することができたと考えられる。誤答のうち、最も選択率が高かった選択肢①を選択した生徒は、$10-5\times9=10-45$ と計算し、差を誤って 35 と解答したと考えられ、誤答の約半数を占めた。

◆ 義務教育段階で扱う計算の技能を確実に身に付けるために、必要となる既習事項を確認したり、計算の過程を振り返ったりする場面を設定することが必要である。

A－3 整式の展開・整理ができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
A-3	ウ	⑦	**72.4**	26.8	0.8	③(5.1%)、⑧(5.0%)、①(4.8%)　など

【考察】

一次式の整式同士の乗法が正しくできるかをみる問題である。正答率は、令和５年度調査より 9.0 ポイント低下した。２つ因数である $4x-y$ と $x-3y$ それぞれの y の係数が負であったため、乗じる際に符号を誤って計算したことが要因と考えられる。誤答の選択肢③や⑧を選択した生徒は、$(4x-y)(x-3y)$ で分配法則を用いて乗じる際、$4x$ と $-3y$ の積の符号を誤って計算したと考えられる。

◆ 文字を用いた整式の計算を行う際は、分配法則や乗法公式などを確認したり、計算した過程を振り返ったりする活動を設けることが大切である。

A－4 平方根を含む式の計算ができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
A-4	エ	⑧	**36.7**	62.2	1.1	①(27.7%)、②(8.0%)、⑦(7.7%)　など

【考察】

$\sqrt{a}-\sqrt{b}$ を平方して計算できるかをみる問題である。正答率は、令和５年度調査よりも 10.4 ポイント低下した。同様の問題について、令和３年度以降、いずれの年度の調査でも正答率は 50 %未満であり、誤答率が正答率を大きく上回った。令和６年度調査では、過去３年間の調査と同様の誤答がみられ、引き続き課題がある。誤答のうち、最も選択率が高かった選択肢①を選択した生徒は、展開を $\left(\sqrt{7}-\sqrt{2}\right)^2=\left(\sqrt{7}\right)^2-\left(\sqrt{2}\right)^2=5$ とした、あるいは無理数同士の差を誤って、$\left(\sqrt{7}-\sqrt{2}\right)^2=\left(\sqrt{5}\right)^2=5$ としたものと考えられる。平方根を含む計算と乗法公式を関連付けて考察できていない、または平方根を含む式の計算について十分に理解できていないと考えられる。

◆ 平方根を含む整式を計算する場面では、$\left(\sqrt{7}-\sqrt{2}\right)^2$ と $(a-b)^2$ などを取り上げて、平方根を含む式と文字を用いた式の計算を比較し、同様の計算過程で求めることができることを理解できるように指導することが大切である。

A－5 分数を含む一次方程式を解くことができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
A-5	オ	⑤	**48.8**	49.8	1.4	③(12.0%)、⑥(8.7%)、②(7.1%)　など

【考察】

分数を含む一次方程式を解く問題である。正答率は、50 %を下回った。分数を含む一次方程式を解く際に、式変形の前後で等式が成り立っていることを確認しながら計算を行うことに、引き続き課題がある。誤答の選択肢③や⑥、②を選択した生徒は、分母を払う際に、整数をすべての項に乗じる処理を誤った、または移項の際に符号を誤ったと考えられる。

◆ 方程式を解くことができるようにするために、等式の性質を確認し、分配法則や移項したときの符号の変化などに注意を促すなど、式の計算を適切に処理できるように指導することが大切である。

A－6 関数 $y=x^2$ で、x の変域に対応する y の変域を求めることができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
A-6	カ	⑥	**20.5**	78.4	1.1	⑧(35.7%)、②(14.2%)、③(6.9%)　など

【考察】

グラフを活用して y の変域を求めることができるかをみる問題で、令和６年度調査は、問題にグラフ

を付した。正答率は、令和５年度調査より 7.3 ポイント上昇した。問題文にグラフを付したことにより、グラフを活用して y の変域を視覚的に捉え、考察できたと考えられる。誤答の選択肢⑧や②を選択した生徒は、x の変域の両端の値を２乗したと考えられる。誤答の選択肢③を選択した生徒は、x の変域の両端をそのまま当てはめたと考えられる。特に、過去３年間の誤答を分析すると選択肢⑧のような誤答が多い。関数の変域や変化の様子などを捉える際には、グラフを活用することが重要である。

◆ 関数の変域や変化の様子などを捉えるような問題を扱う際は、グラフをかく活動を設け、グラフを用いることで、視覚的に捉え、見通しをもって問題解決できることを実感できるように指導することが大切である。

A－７ 三平方の定理を用いて直角三角形の一辺の長さを求めることができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
A-7	キ	⑦	**34.3**	64.5	1.2	①(16.8%)、⑤(14.4%)、③(10.6%)　など

【考察】

三平方の定理を用いて直角三角形の辺の長さを求める問題である。正答率は、斜辺以外の辺の長さを求めた令和４年度調査と同程度であった。誤答の選択肢①を選択した生徒は、$4^2-3^2=8-6=2$ と計算したと考えられ、誤答の選択肢⑤を選択した生徒は、三平方の定理を用いて正しく立式したが、累乗の計算を誤り $x^2=4^2-3^2=8-6=2$ と計算したと考えられる。さらに、選択肢③を選択した生徒は、三平方の定理を用いて計算をしたが、対応する辺を誤ったと考えられる。

◆ 三平方の定理を用いて直角三角形の辺の長さを求める際は、累乗の計算に注意し、図形と式を関連付けて捉えられるようにすることが重要である。三平方の定理は、高等学校数学の「図形」領域の学習する場面で、幅広く用いられる定理であることから、確実に理解できるようにしたい。

A－８ 箱ひげ図から２種類のデータを適切に比較し、正誤を判断することができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
A-8	ク	②	**33.8**	65.1	1.1	⑤(16.8%)、④(15.4%)、③(9.6%)　など

【考察】

２種類のデータを箱ひげ図に表したものを比較し、データの散らばりや分布の様子を適切に判断できるかをみる問題である。Ⅱを正しいと判断できた割合は 69.5 %で、箱ひげ図に含まれるデータの個数を読み取ることができたと考えられる。誤答のうち、Ⅰを正しいと判断した生徒は、２つの箱ひげ図の最大値が同じ生徒と捉えたと考えられる。Ⅲを正しいと判断した生徒は、区間内のデータの散らばりの様子を適切に判断することができなかったと考えられる。

◆ 箱ひげ図を扱う際は、データの分布の様子や散らばり具合を根拠を示しながら互いに説明したり、データの様子をまとめたりする場面を設定することが大切である。また、データの散らばりや分布の様子を数学的な表現を用いて説明することができるように指導することが大切である。

【学校選択型B問題】

B－11　問題文の内容を読み取り、数量関係を不等式で立式して解き、条件を満たす数量を求めることができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
B-11	セ	4	**13.4**	74.1	12.5	370(17.2%)、240(1.6%)、270(1.5%)　など
	ソ	7				
	タ	0				

【考察】

日常生活の事象を数学的に捉え、数量関係を不等式に表し、条件を満たす数量を求める問題である。正答率は、令和５年度調査より 24.1 ポイント低下した。料金改定前と料金改定後のそれぞれについて、２つの数量関係を不等式に表すことができなかったことが正答率が低下した要因であると考えられる。料金改定前の料金の加算回数が、料金改定後の加算回数と同数であると判断したと考えられる誤りが 17.2 %と、正答率を上回った。問題文から問題解決に必要な情報を読み取り、数量関係を不等式に表し、筋道を立てて問題を解決することができなかったと考えられる。

◆ 日常の事象に数量関係を見いだし、不等式を用いて考察する際は、不等式を立式する過程を確認したり、説明したりするなどして、問題を解決できるようにすることが重要である。

B－12　命題の真偽と集合の包含関係、必要条件と十分条件の意味、及び反例の意味を相互に関連付けて考察できるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
B-12	チ	②	**22.0**	76.3	1.7	③(20.1%)、④(15.6%)、①(13.3%)　など

【考察】

命題の真偽と集合の包含関係、必要条件と十分条件の意味、反例の意味を集合と関連付けて考察できるかをみる問題である。命題の真偽を集合に表す問題(1)については、$P \subset Q$ と正しく解答した割合は 70.9 %であった。命題が真である場合を集合で表すことは、おおむね理解できていると考えられる。必要条件と十分条件の意味と集合を関連付けた集合に表す問題(2)まで正しく解答した割合は 35.3 %であり、必要条件と十分条件を集合と関連付けて理解できていないと考えられる。命題が偽であるときの反例の要素が属する集合に表す問題(3)ついては、包含関係を図で表すことができなかった、もしくは、反例の要素が属する集合を判断することができなかったと考えられる。命題の真偽と集合の包含関係、必要条件と十分条件の意味、反例の意味を集合と関連付けて考察することに、引き続き課題がある。

◆ 命題の真偽や必要条件と十分条件、反例の問題を取り扱う際は、集合と関連付けて考察できるようベン図などにかき表して、視覚的に捉える場面を設定し、命題の真偽や必要条件と十分条件などについて集合の考え方を用いて判断できるように指導することが大切である。

B－13　文やグラフから必要な情報を読み取り、二次関数の式を求めることができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
B-13	ツ	2	**17.1**	67.6	15.3	$y=2(x-3)^2-8$ (5.4%) $y=2(x-6)^2-8$ (3.8%) $y=2(x-2)^2-8$ (3.2%) $y=2(x-2)^2-4$ (3.0%)　など
	テ	5				
	ト	8				

【考察】

放物線を x 軸に関して対称移動し、さらに平行移動をした放物線の式を求める問題である。正答率は、令和５年度調査とほぼ同程度であったが、無答率が 13.6 ポイント上昇した。令和５年度調査は、二次関数の式を多肢選択形式で選択する形式だったのに対し、令和６年度調査は$y=a(x-p)^2+q$ の定数の値を求める形式であったことが要因と考えられる。誤答では、与えられた二次関数の式や座標で用いられている数値をそのまま当てはめたと考えられるものが多かった。二次関数に関する条件やグラフから必要な情報を読み取り、二次関数の式に表すことに、引き続き課題がある。

◆ 二次関数の平行移動や対称移動を考察する際は、もとのグラフと移動後のグラフをかき表し、移動した二次関数の特徴や変化の様子を視覚的に捉えることが重要である。また、考察過程を相互に説明し合ったり、確認し合ったりする活動を設けるなどして、二次関数の平行移動や対称移動の理解を深められるようにすることが大切である。

B－14　定義域と放物線の軸の位置関係を捉え、場合分けして二次関数の最小値から定数の値を求めることができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
B-14	ナ	⑥	**13.2**	81.9	4.9	④(20.5%)、⑤(15.5%)、⑦(14.9%)　など

【考察】

放物線の軸の位置関係を捉え、場合分けをして、与えられた二次関数の最小値から定数の値を求める問題である。正答率は、令和５年度調査とほぼ同程度であった。誤答の選択肢④を選択した生徒は、定義域の両端の値 $x=0$ 、3 で最小値をとると判断したと考えられる。また、誤答の選択肢⑤を選択した生徒は、頂点で最小値をとると判断し、「$x=a$ 、$y=4$ 」を代入して、求めたと考えられる。定数の変化によってグラフが移動する様子を捉えられず、最小値の位置を判断することができなかったと考えられる。定義域と放物線の位置関係を捉え、場合分けをして二次関数の問題を解決することに、引き続き課題がある。

◆ 係数や定義域の変化を伴う二次関数の問題を扱う際は、コンピュータなどの情報機器を活用して、変化するグラフの様子を視覚的に捉える場面を設定することが大切である。また、係数や定義域を変化させることで、二次関数のグラフがどのように変化するかを互いに説明するなどして、場合分けの必要性に気付き、頂点、最大値や最小値の位置の変化の様子を考察できるように指導することが大切である。

B－15　二次方程式の実数解の条件から定数の値の範囲を求めることができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
B-15	ニ	②	**28.0**	69.0	3.0	①＜⑤7 (10.5%)、　④≧⑤7 (5.6%)、 ②≦③3 (4.5%)　など
	ヌ	⑤				

【考察】

二次方程式が実数解をもつ条件から、二次方程式の判別式などを用いて定数の値の範囲を求める問題である。正答率は、令和５年度調査より改善の傾向がみられたが、二次方程式が解をもつ条件から定数の範囲を求めることに、引き続き課題がある。誤答では、判別式を用いたが、条件を二次方程式が異なる２つの実数解をもつと捉えた、あるいは不等号の向きを誤って処理したと考えられるものが多かった。

◆ 二次方程式や二次不等式が解をもつ条件を考察する場面では、実際にグラフをかき表し、二次関数のグラフと判別式の条件を関連付けて説明するなどして、グラフを用いて考える良さを実感できるように指導することが大切である。

B－16　立体を考察し、余弦の値及び四面体の体積を求めることができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
B-16	ネ	1	**19.1**	60.7	20.2	$\frac{\sqrt{29}}{6}$ (3.1%)、 $\frac{\sqrt{13}}{2}$ (2.9%)、 $\frac{\sqrt{29}}{7}$ (2.7%) など
	ノ	0				
	ハ	5				
	ヒ	8	**5.5**	65.8	28.7	$3\sqrt{5}$ (3.3%)、$4\sqrt{5}$ (3.1%) $2\sqrt{3}$ (3.1%)、など
	フ	6				

【考察】

四面体を考察して、三角形を見いだし、余弦の値及び三角形の体積を求める問題である。正答率は、選択Ｂ問題の中で最も低かった。誤答の要因は、ネノ － ハについて、三平方の定理を用いて辺の長さを求めることができなかったことや、余弦定理を用いたが、余弦の値を求めるまでの計算を誤ったことが考えられる。ヒ － フについては、与えられた空間図形の底面と高さを判断して求めることができなかったと考えられる。空間図形の中に三角形を見いだし、三平方の定理や三角比に関する公式を適切に用いて処理することに、引き続き課題がある。

◆ 与えられた図形から三角形を見いだし、三角比や正弦定理、余弦定理などの定理や公式を活用して問題を解決する際は、考察した過程を相互に説明したり、評価したりする活動を設け、筋道を立てて問題を解決できるようにすることが大切である。

B－17　三角比の相互関係の式を用いて得られた結果に対して、問題解決の過程を振り返って評価・改善しているかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
B-17	へ	①	**41.0**	52.1	6.9	②(26.1%)、③(14.4%)、④(11.6%)
	ホ	②	**38.1**	54.5	7.4	③(24.3%)、④(15.1%)、①(15.1%)

【考察】

三角比の相互関係の式を用いて考察した過程を振り返って、評価・改善をする問題である。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度を養うことが求められていることから、２人の生徒が三角比の相互関係を用いて問題を解決したことについて、考察する仕立てとした。へで誤答の選択肢②や④を選択した生徒、ホで誤答の選択肢①や③を選択した生徒は、正接の値から余弦の値を求める際に、式変形を適切に処理できなかったと考えられる。へで誤答の選択肢②や③を選択

した生徒、または$\boxed{ホ}$で誤答の選択肢①や④を選択した生徒は、象限と三角比の正負の関係を正しく理解できていなかったと考えられる。

◆ 三角比の相互関係を用いた問題などを解決する場面では、得られた結果の妥当性を検討する活動を意図的に設けることが大切である。また、考察した過程を振り返る際には、一つの解決の方法だけでなく、よりわかりやすい表現はないか、別の解決方法がないかなど、評価できるように指導することが大切である。

B－18　散布図から共分散の符号を判断できるか、データの修正による標準偏差の変化を考察できるか、散布図の特徴から相関係数を推測できるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
B-18	マ	②	**41.8**	49.2	9.0	③(26.7%)、①(14.6%)、④(8.0%)
	ミ	③	**33.0**	56.7	10.3	②(31.9%)、①(24.8%)、
	ム	①	**35.1**	54.2	10.7	②(36.4%)、③(17.8%)
	メ	⑤	**25.2**	63.9	10.9	②(24.2%)、③(20.7%)、④(7.7%)　など

【考察】

散布図の特徴や傾向から各データにおける x の偏差と y の偏差の積 $(x-\bar{x})(y-\bar{y})$ の値の符号を判断できるか、また、データの修正により変化する標準偏差や相関係数を推測できるかをみる問題である。(1)、(2)について、与えられた散布図から、偏差の積の正負を正しく判断できた①、②は 56.4 %であったが、(3)について、共分散の符号を正しく判断できなかった①、③の割合が 41.3 %であったことから、共分散の意味を理解できていないと考えられる。また、データの修正による標準偏差の変化を考察する$\boxed{ミ}$、$\boxed{ム}$の正答率が低かったことから、データが変化したときに、散布図上の点がどのように移動し、偏差の値がどのように変化するのかについて適切に考察できなかったと考えられる。

◆ 複数のデータを用いて考察する場面では、散布図を作成するなど、視覚的に捉えられるように指導することが大切である。特に、データを追加したり、修正したりしてその変化を考察するような問題においては、コンピュータなどで散布図を表示し、データの散らばりや特徴がどのように変化するかについて視覚的に捉えることが重要である。また、根拠を示しながら説明できるようにするために、データの特徴などを相互に説明し合うような活動を設けることも考えられる。

3 英語

(1)調査結果の概要

考察と課題

◇…相当数の生徒ができている　◆…課題がある

<聞くこと(日常的・社会的な話題のリスニング)>
◆ 短い発話を聞き、内容から状況を理解することに課題がある。〔 1(1)ア、(2)イ 〕
◆ 必要な情報を理解した上で説明を聞き、数量などの複数の種類の情報を整理することに課題がある。〔 4(1)キ 〕
◆ 長めの対話を聞き、必要な情報を聞き取り、要点を捉えることに課題がある。〔 5(1)サ、(2)シ 〕

⇨ **課題1:説明を聞いて、数量などの複数の種類の情報を整理すること。**

<読むこと(日常的な話題)>
◇ テクスト内の情報を事実と意見に区別し、内容に合致する意見を判断することはできている。〔 8B(4)ヘ 〕
◆ テクストを読み、目的に応じて複数の情報を整理し、適切な情報を得ることに課題がある。〔 8A(2)ヒ、(3)フ 〕
◆ テクストが書かれた目的や書き手の意図を的確に把握することに課題がある。〔 8B(1)ハ 〕

⇨ **課題2:テクストを読み、与えられた条件に合わせて、適切な情報を取り出すこと。**

<読むこと(社会的な話題)>
◇ テクスト全体を読み、関連する複数の情報を図表に整理することはできている。〔 9B(3)ミ 〕
◆ テクスト全体を読み、概要を捉えることに課題がある。〔 9A(1)ホ/B(1)ホ 〕
◆ テクストの内容を把握し、的確に要約することに課題がある。〔 9B(2)マ 〕

⇨ **課題3:テクスト全体を読み、おおよその内容や全体的な流れを把握すること。**

<コミュニケーションを支える文法・語法>
◇ 高校で学習する文法事項のうち、<助動詞 + have + 過去分詞>に関する知識の定着がみられる。〔 6B(6)ツ 〕
◆ 中学校で学習する文法事項のうち、分詞の後置修飾や関係詞の知識の定着に課題がある。〔 6A(3)ト、(5)ニ 〕
◆ 中学校で学習する文構造のうち、接触節を含む文を作る技能の習得に課題がある。〔 7A(3)ノ/B(1)ヌ 〕

⇨ **課題4:英語でコミュニケーションを図る際に必要な文法・語法に関する知識及び知識を適切に活用する技能を身に付けること。**

① 共通問題の正答率(調査対象全体)

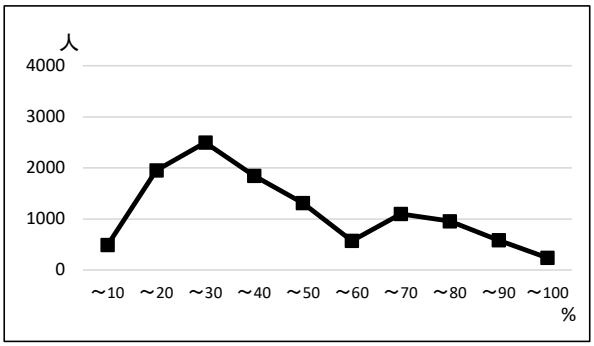


図1 【共通問題・英語】正答率の度数分布

共通問題正答率　40.5%(令和5年度49.2%)

<概況>
昨年度同様、グラフはM字型となった。正答率50%台の中間層が薄く、昨年度は30%～40%の階級の度数が最大であったが、今年度は20%～30%の階級が最大になった。平均正答率は、昨年度から8.7ポイント低下した。「聞くこと」においては、短い発話を聞き、内容として適切なイラストを選ぶ問題の正答率が昨年度から約46ポイント低下した。文法・語法においては、関係代名詞が省略された接触節に関する問題の正答率が30%を下回るなど、知識・技能の定着に課題がみられる。

② 共通問題の小問ごと正答率(調査対象全体)

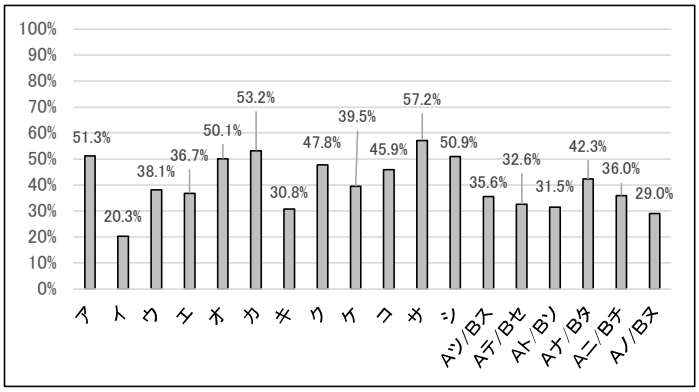


図2 【共通問題・英語】調査対象全体の小問ごと正答率

	解答記号	分類	内容
1	ア・イ	聞くこと(リスニング)	短い発話(イラスト付き)
2	ウ・エ	聞くこと(リスニング)	短い発話
3	オ・カ	聞くこと(リスニング)	短い発話(場面の情報付き)
4	キ～コ	聞くこと(リスニング)	長めの説明
5	サ・シ	聞くこと(リスニング)	長めの対話
6	Aツ/Bス	コミュニケーションを支える文法・語法	イディオム
	Aテ/Bセ	コミュニケーションを支える文法・語法	使役動詞
	Aト/Bソ	コミュニケーションを支える文法・語法	動詞の時制(副詞節)
	Aナ/Bタ	コミュニケーションを支える文法・語法	語法(動詞)
	Aニ/Bチ	コミュニケーションを支える文法・語法	代名詞
7	Aノ/Bヌ	コミュニケーションを支える文法・語法	関係代名詞(接触節)

③ 学校選択型A問題（A問題選択者）の小問ごと正答率

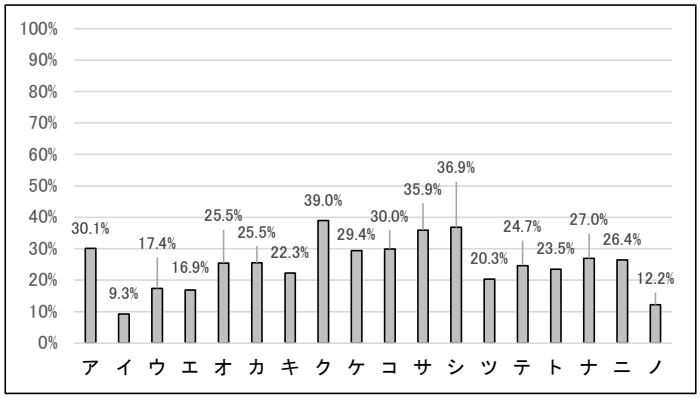


図3 【共通問題・英語】A選択者の小問ごと正答率

	解答記号	分類	内容
1	ア・イ	聞くこと(リスニング)	短い発話(イラスト付き)
2	ウ・エ	聞くこと(リスニング)	短い発話
3	オ・カ	聞くこと(リスニング)	短い発話(場面の情報付き)
4	キ～コ	聞くこと(リスニング)	長めの説明
5	サ・シ	聞くこと(リスニング)	長めの対話
6	Aツ/Bス	コミュニケーションを支える文法・語法	イディオム
	Aテ/Bセ	コミュニケーションを支える文法・語法	使役動詞
	Aト/Bソ	コミュニケーションを支える文法・語法	動詞の時制(副詞節)
	Aナ/Bタ	コミュニケーションを支える文法・語法	語法(動詞)
	Aニ/Bチ	コミュニケーションを支える文法・語法	代名詞
7	Aノ/Bヌ	コミュニケーションを支える文法・語法	関係代名詞(接触節)

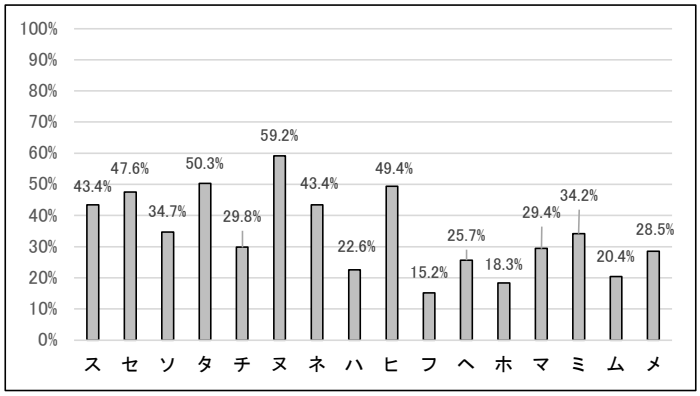


図4 【選択型A問題・英語】小問ごと正答率

学校選択型A問題

	解答記号	分類	内容
6	ス	コミュニケーションを支える文法・語法	人称代名詞
	セ	コミュニケーションを支える文法・語法	動詞の時制
	ソ	コミュニケーションを支える文法・語法	過去分詞
	タ	コミュニケーションを支える文法・語法	不定詞
	チ	コミュニケーションを支える文法・語法	関係代名詞
7	ヌ	コミュニケーションを支える文法・語法	<who…？>の疑問文
	ネ	コミュニケーションを支える文法・語法	tell+O+to doの構文
8	ハ～ヘ	読むこと	日常的な話題
9	ホ～メ	読むこと	社会的な話題

④ 学校選択型B問題（B問題選択者）の小問ごと正答率

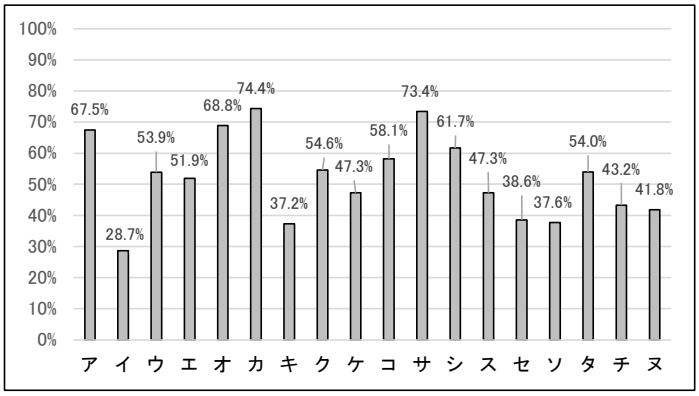


図5 【共通問題・英語】B選択者の小問ごと正答率

	解答記号	分類	内容
1	ア・イ	聞くこと(リスニング)	短い発話(イラスト付き)
2	ウ・エ	聞くこと(リスニング)	短い発話
3	オ・カ	聞くこと(リスニング)	短い発話(場面の情報付き)
4	キ～コ	聞くこと(リスニング)	長めの説明
5	サ・シ	聞くこと(リスニング)	長めの対話
6	Aツ/Bス	コミュニケーションを支える文法・語法	イディオム
	Aテ/Bセ	コミュニケーションを支える文法・語法	使役動詞
	Aト/Bソ	コミュニケーションを支える文法・語法	動詞の時制(副詞節)
	Aナ/Bタ	コミュニケーションを支える文法・語法	語法(動詞)
	Aニ/Bチ	コミュニケーションを支える文法・語法	代名詞
7	Aノ/Bヌ	コミュニケーションを支える文法・語法	関係代名詞(接触節)

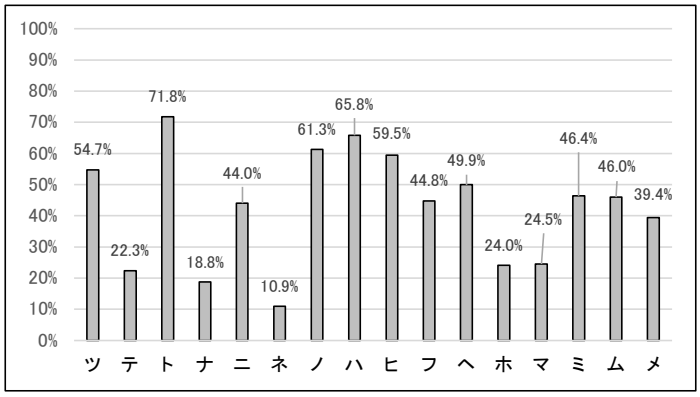


図6 【選択型B問題・英語】小問ごと正答率

学校選択型B問題

	解答記号	分類	内容
6	ツ	コミュニケーションを支える文法・語法	助動詞
	テ	コミュニケーションを支える文法・語法	関係代名詞
	ト	コミュニケーションを支える文法・語法	語法(名詞)
	ナ	コミュニケーションを支える文法・語法	分詞構文
	ニ	コミュニケーションを支える文法・語法	仮定法
7	ネ	コミュニケーションを支える文法・語法	間接疑問文
	ノ	コミュニケーションを支える文法・語法	不定詞(否定)
8	ハ～ヘ	読むこと	日常的な話題
9	ホ～メ	読むこと	社会的な話題

(2)分析結果から見える「英語コミュニケーションⅠ」の授業づくりのポイント

POINT1 － 聞くこと(日常的・社会的な話題のリスニング)

学校生活や家庭生活、国内外の出来事などの話題についての英語を聞き、話し手の意図を把握したり、複数の情報を整理したりできるようにする。

- ❑ 日常生活によくある場面や状況を設定し、聞こえてくる英語から、その内容だけでなく、話し手の意図を適切に捉えることができるようにすることが求められる。
- ❑ 聞き取った複数の情報を把握するためには、メモを取ったり、図表に簡潔にまとめたりするなど、情報を整理する活動を取り入れることが大切である。

POINT2 － 読むこと(日常的な話題)

日々の生活に関わる話題のテクストを読み、読んだ内容について話したり、書いたりするような統合的な言語活動を通して、書き手の意図を把握することができるようにする。

- ❑ チラシやポスター、エッセイ、紹介文などの生徒にとって身近な話題について書かれたテクストを読む際に、必要な情報に焦点を絞って理解した上で、「誰が」「何のために書いたのか」という書き手の意図を把握できるようにすることが必要である。
- ❑ 読んだ内容について、リテリングやサマリーの作成等を通してその理解を確かめるとともに、ペアやグループで自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動を行うことが重要である。

POINT3 － 読むこと(社会的な話題)

テクストを読み、内容について伝えたり、発表したりする発信面での活動を通して、テクストの概要や要点を的確に捉えることができるようにする。

- ❑ 説明文や論証文などのテクストを読む際に、各段落の最初の文や最後の文に着目し、トピック・センテンスを見出す練習を重ねるなどして、概要や要点を的確に捉えるようにすることが必要である。
- ❑ 読んだ内容について、既習表現を用いて要約したり、図や表などを用いてまとめたり、感想や意見を伝え合ったりする言語活動を行うことが重要である。

POINT4 － コミュニケーションを支える文法・語法

文法・語法など言語材料の知識を理解するだけではなく、思考・判断・表現する言語活動を通して、実際のコミュニケーションで活用できる技能を身に付けることができるようにする。

- ❑ 文法事項や文構造の用語、用法についての説明を簡潔にし、その表現を使って互いの考えや気持ちを伝え合ったり、合意形成したりするなど、実際のコミュニケーションを繰り返し行うことが求められる。
- ❑ コミュニケーションで活用しながら文法・語法の知識・技能を定着させるためには、既習の言語材料を用いて生徒が分かる英語で説明したり、生徒とやり取りしたりするなど、教師の積極的な英語使用が重要である。また、生徒がやり取りを継続するために、効果的な表現を提示したり、生徒に共通して見られた誤りなどについてクラス全体にフィードバックしたりすることも考えられる。

(3)設問ごとの分析結果

① 出題のねらいと内容

高等学校外国語科の学習を通して身に付けてきた〔知識及び技能〕及び〔思考力、判断力、表現力等〕の状況をみることをねらいとした。

「英語コミュニケーションⅠ」の「聞くこと」及び「読むこと」の領域の内容を中心に、中学校までの学習内容を含めて多肢選択問題形式で出題した。

② 設問ごとのねらい、結果の分析と考察

1 「聞くこと」に関する問題(リスニング):短い発話を聞き、対応するイラストを選ぶことを通じて、発話の状況を把握することができるかをみる問題

問題番号		解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答の選択肢の選択率(%)			
							1	2	3	4
1	(1)	ア	3	**51.3**	48.2	0.5	26.3	15.1	○	6.8
	(2)	イ	2	**20.3**	79.2	0.5	8.6	○	17.2	53.4

【考察】

(1)は、男の子の兄弟と犬との位置関係に関する短い発話を聞き、それに対応するイラストを判断する問題である。発話の内容を正しく理解することができた生徒は、約半数にとどまった。誤答の選択肢 1 を選んだ生徒は、前置詞“between”が「～の間に」を意味することは聞き取れたものの、1文目の“dogs”の“s”や、2文目の“They”から犬が複数いることを捉えられなかったと考えられる。

(2)は、時刻に関する短い発話を聞き、それに対応するイラストを判断する問題である。全体の半数を超える生徒が誤答の選択肢 4 を選んだ。その生徒は、“left”の意味を「過ぎ去って」という意味に誤って捉えたと考えられ、動詞“leave”についての理解に不足があるといえる。

◆キーワードとなる名詞の単数・複数は、「読むこと」、「書くこと」だけでなく、「聞くこと」、「話すこと」の指導においても、注意を向けさせることが大切である。
◆「場所」や「位置関係」、「道案内」などを話題にした言語活動を通して、位置を表す前置詞を活用する技能を身に付けるようにすることが重要である。
◆“leave”のような多義語の指導にあっては、様々な文脈において用いられていることに気づきを促し、文脈に応じて適切に活用できるような言語活動を設定することも重要である。

2 「聞くこと」に関する問題(リスニング):短い発話を聞き、話し手の状況を把握することができるかをみる問題

問題番号		解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答の選択肢の選択率(%)			
							1	2	3	4
2	(1)	ウ	4	**38.1**	61.3	0.6	11.2	19.7	30.4	○
	(2)	エ	2	**36.7**	62.7	0.6	40.3	○	10.9	11.5

【考察】

（１）は、単語を調べるために辞書を使いたいという発話を聞き、その意図を判断する問題である。全体の30％程度が誤答の選択肢 ３ を選んだ。その生徒は、発話の中の“Can I ～, Sam?”から話者が Sam に何か依頼していることを捉えたものの、“I need to check some words.”の内容を正確に理解することができず、断片的に聞き取った“check”が使われていたものを選択したと考えられる。

（２）は、Jane と電話がつながらず、30分間彼女を待ち続けていると伝える短い発話を聞き、その状況に適したものを判断する問題である。全体の40％程度が誤答の選択肢 １ を選んだ。その生徒は、“didn't answer”や“calls”といった発話内の語句を断片的に聞き取り、２文を全体として聞き取れていないため、それぞれの文の主語を考慮せず、話し手がどのような状況にあるのかを的確に捉えることができなかったと考えられる。

◆「聞くこと」の指導では、実際のコミュニケーションの場面を想定し、話し手の意図や状況を把握するために必要な情報を、生徒とのやり取りを通して確認することが求められる。

◆話し手の意図や状況を把握することができるようにするためには、“What does the speaker want to say?”や“What will he probably do next?”などの発問を投げかけたり、その答えについてペアで話し合ったりする活動を行うことが考えられる。

3 「聞くこと」に関する問題（リスニング）：場面に関する説明を参考にしながら短い対話を聞き、概要や要点を把握することができるかをみる問題

問題番号		解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答の選択肢の選択率（％）			
							1	2	3	4
3	（1）	オ	4	**50.1**	49.3	0.6	8.5	9.1	31.7	○
	（2）	カ	3	**53.2**	46.2	0.6	11.8	22.4	○	11.9

【考察】

（１）、（２）ともに正答率は50％程度にとどまった。約半数の生徒が場面の情報をもとに、短い対話を聞いて、その概要や発言の要点を捉えることができなかった。

（１）は、居間での Emily と父親との対話を聞き、何について話しているのかを判断する問題である。正答率は約50％であった。誤答の選択肢 ３ を選んだ生徒は、父親の“Emily, are you ready for tomorrow's picnic?”や“The weather in the mountain changes quickly.”という発話から、会話の概要がピクニックのために天気を確認する方法についてであると誤って捉えたと考えられる。

（２）は、レストランでのウェイターと女性との対話を聞き、女性が何をするつもりなのかを判断する問題である。半数を超える生徒が、女性の “We will come here another time.”という発話の意図から、正答である「彼女はレストランを出ていくだろう。」という状況を判断することができなかったと考えられる。

◆日常的な話題についての短い対話を聞く活動では、生徒の実態に合わせて、話す速さ、使用する語句や文、情報量などの面で配慮し、話し手の意図を捉えることができるようにすることが重要である。

4 「聞くこと」に関する問題(リスニング):長めの説明を聞き、表を完成させることを通じて、必要な情報を整理し、内容を把握することができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答の選択肢の選択率（%）			
						1	2	3	4
4	キ	1	**30.8**	68.3	0.9	○	13.1	39.0	16.2
	ク	3	**47.8**	51.3	0.9	19.6	13.4	○	18.3
	ケ	4	**39.5**	59.4	1.1	23.4	27.3	8.7	○
	コ	2	**45.9**	53.1	1.0	25.1	○	6.1	21.9

【考察】

２つの大学の学生が行ったボランティア活動について、種類ごとに参加者の割合を聞き取る問題である。全ての設問の正答率が50%を下回ったが、特に、キの正答率が低く、30%程度にとどまった。誤答の選択肢　３ を選んだ生徒は、“twelve”と“twenty”を聞き分けることや、“about 12% joined the activities to protect the environment”という説明が表中の語句“Environmental protection”を示していると捉えることができなかったことが考えられる。

一方で、コの正答率が４つの設問における正答率のうち２番目に高かったことから、“three times as high as”「～の３倍の高さ」という倍数を表す比較表現は一定程度定着していると考えられる。

◆対話や説明を聞いて概要を把握するためには、教師とALTとの対話や英語による店内放送、天気情報などの音声を聞き、必要な情報を聞き取る活動を設定することが大切である。また、聞き取った情報を基に、自分の意見をペアやグループでやり取りしたり、発表したりするような技能統合型の活動を取り入れることも大切である。

5 「聞くこと」に関する問題(リスニング):長めの対話を聞き、必要な情報を整理して要点を把握することができるかをみる問題

問題番号		解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答の選択肢の選択率（%）			
							1	2	3	4
5	（1）	サ	2	**57.2**	42.0	0.8	11.5	○	24.4	6.1
	（2）	シ	4	**50.9**	48.3	0.7	9.3	11.5	27.5	○

【考察】

電子書籍のメリットやデメリットに関する対話を聞き、それぞれの話者が話した内容の要点を整理、判断する問題である。正答率は60%に届かなかった。約半数近くの生徒が、長めの対話を聞いて要点を的確に捉えることができなかった。

（１）は、マイクの発話の要点を問う問題である。誤答の選択肢　３ を選んだ約24%の生徒は、マイクが電子書籍についてではなく、紙の書籍について述べていると捉えたと推察される。

（２）は、ルーシーの発話の要点を問う問題である。誤答の選択肢 ３ を選んだ約28％の生徒は、ルーシーの発話内の“make me relaxed”という語句を断片的に聞き取って判断したと考えられる。

◆「聞くこと」の指導では、様々な情報の中から、必要な情報と、それと関連する語句や表現に着目して聞き取ることができるように工夫することが大切である。
◆必要な情報を不足なく聞き取り、内容を把握するためには、聞きながらキーワードをメモしたり、表にまとめたりして情報を整理することも考えられる。

6 （共通問題）文法・語法に関する問題：英語によるコミュニケーションを支える基礎的・基本的な文法事項に関する知識が定着しているかをみる問題

問題番号		解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答の選択肢の選択率（%）			
							1	2	3	4
6	A(6) B(1)	ツ ス	2	**35.6**	63.7	0.7	8.2	○	8.0	47.5
	A(7) B(2)	テ セ	1	**32.6**	66.8	0.6	○	29.2	23.3	14.3
	A(8) B(3)	ト ソ	1	**31.5**	67.9	0.6	○	34.1	25.9	7.9
	A(9) B(4)	ナ タ	4	**42.3**	57.0	0.7	11.1	30.0	15.9	○
	A(10) B(5)	ニ チ	2	**36.0**	63.3	0.7	18.8	○	38.7	5.8

【考察】

選択肢の中から最も適切な語句を選び、正しい文を完成させる問題である。

ツ/ス＜慣用表現＞の正答率は約36％であった。誤答の選択肢 ４ を選んだ生徒は、＜pick～up＞の知識が定着していないことが考えられる。

ト/ソ＜時や条件を表す副詞節＞の正答率は約32％にとどまった。誤答の選択肢 ２ を選んだ生徒は、“I'll give you a call”が未来の内容であるにも関わらず、「私が帰宅したら」という日本語で判断したため、過去形“arrived”を選択したものと考えられる。過去の調査における正答率は、令和５年度調査で約36％、令和４年度調査（選択問題Ｂでの出題）で約42％、令和３年度調査で約34％であった。今回の調査においても、60％を超える生徒が誤った選択肢を選んでいることから、この文法事項に関する知識の定着が引き続き課題であるといえる。

ナ/タ＜動詞の語法＞の正答率は約42％であった。誤答の選択肢 ２ を選んだ生徒は、＜remember + doing＞との意味の違いが知識として定着していないことが推察される。

ニ/チ＜代名詞＞の正答率は約36％であった。誤答の選択肢 ３ を選んだ生徒は、代名詞“one”をについての知識が定着していないことが考えられる。

◆時や条件を表す副詞節内で用いられる動詞の形などの文法事項を使い分けられるようにするためには、意味のある文脈の中で適切な表現を選択して話したり、書いたりする活動を継続的に行うことが大切である。

7 （共通問題）文法・語法に関する問題（整序）：英語によるコミュニケーションを支える基礎的・基本的

な文構造に関する知識と、それを適切に運用する技能が身に付いているかをみる問題

問題番号		解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答の選択肢の選択率（%）			
							1	2	3	4
7	A(3) B(1)	ノ ヌ	1	**29.0**	70.4	0.6	○	13.1	26.3	31.0

【考察】

与えられた語句を適切に並べ替えて、正しい文を完成させる問題である。

ノ/ヌ＜関係代名詞(接触節)＞は、令和４年度調査では、正答率が約30%であったが、令和６年度調査では30%を下回り、接触節についての知識の定着に引き続き課題があるといえる。特に、誤答の選択肢 ４ を選択した生徒は約30%いたが、主語、動詞の語順に関する基礎知識が身に付いておらず、“(my father lent me the book is) very interesting.”という文を作ったと考えられる。

◆定着に時間のかかる文法構造や語法については、体系的・明示的な説明だけでなく、意味ある文脈の中でのコミュニケーションにおいて活用し、思考・判断・表現することを繰り返すことを通して、定着を図ることが求められる。

6 (学校選択型A)文法・語法に関する問題:英語によるコミュニケーションを支える基礎的・基本的な文法事項に関する知識が定着しているかをみる問題

問題番号		解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答の選択肢の選択率（%）			
							1	2	3	4
6	(1)	ス	4	**43.4**	55.7	0.9	2.5	6.9	46.3	○
	(2)	セ	3	**47.6**	51.3	1.1	15.9	28.0	○	7.4
	(3)	ソ	3	**34.7**	64.1	1.2	27.4	15.1	○	21.6
	(4)	タ	4	**50.3**	48.6	1.1	11.7	27.6	9.3	○
	(5)	チ	2	**29.8**	69.0	1.2	19.4	○	31.8	17.8

【考察】

選択肢の中から最も適切な語句を選び、正しい文を完成させる問題である。

（１）＜人称代名詞＞の正答率は50%を下回った。誤答の選択肢 ３ を選んだ生徒は、主語の“his idea”に対応することを理解できず、前置詞の後ろに入る代名詞として“me”を誤って選択したと考えられる。

（３）＜分詞の後置修飾＞の正答率は約35%であった。誤答の選択肢 １ “write”や誤答の選択肢 ４ “writing”を選択する生徒が多かったことから、直前の名詞である“books”と動詞“write”が修飾関係にあることを理解していなかったことが考えられる。

（５）＜関係代名詞＞の正答率は30%を下回り、この大問の中で最も低かった。誤答の選択肢 ３ “she”を選んだ生徒が約32%であった。関係代名詞についての知識や技能が定着していないものと考えられる。

◆必要に応じて、小・中学校で学習した内容と、高校で学習する文法事項や文構造とを関連付けるパターンプラクティスや言語活動を行っていくことが重要である。

7 (学校選択型A)文法・語法に関する問題(整序):英語によるコミュニケーションを支える基礎的・基

本的な文構造に関する知識と、それを適切に運用する技能が身に付いているかをみる問題

問題番号		解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答の選択肢の選択率（%）			
							1	2	3	4
7	（1）	ヌ	2	**59.2**	39.8	1.0	13.4	○	11.1	15.3
	（2）	ネ	3	**43.4**	55.4	1.2	16.2	26.2	○	13.0

【考察】

与えられた語句を適切に並べ替えて、正しい文を完成させる問題である。

（1）＜疑問詞 who を用いた疑問文＞では、正答率が60%を下回った。疑問詞を使った疑問文や前置詞句についての基礎的・基本的な設問であり、知識の確実な定着が求められる。

（2）＜tell＋人＋to 不定詞＞の正答率は、約43%であった。誤答の選択肢 2 を選択した約26%の生徒は、“tell me”という語のつながりは理解しているものの、＜tell＋人＋to 不定詞＞という用法が十分に定着していないことが考えられる。

◆様々な疑問文に関する知識の定着と、それを適切に活用する技能の向上を図るためには、身近な事柄について、ペアでお互いに質問し合うなど、やり取りの場面を繰り返し設定することが大切である。

8 （学校選択型A）「読むこと」に関する問題：日常的な話題について書かれたテクストを読み、目的に応じて必要な情報を読み取り、書き手の意図を捉えることができるかをみる問題

問題番号		解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答の選択肢の選択率（%）			
							1	2	3	4
8	（1）	ハ	4	**22.6**	75.8	1.6	25.4	30.4	20.0	○
	（2）	ヒ	3	**49.4**	49.0	1.6	17.0	17.2	○	14.8
	（3）	フ	2	**15.2**	83.1	1.7	8.8	○	27.3	47.0
	（4）	ヘ	4	**25.7**	72.4	1.9	32.1	22.7	17.6	○

【考察】

ミュージカルの出演者募集ポスターを読み、必要な情報を探し出したり、参加希望者の年齢や経験といった条件に応じて費用を計算したりする問題である。

（1）は、テクストの設定を把握する問題である。正答率は約23%であった。この設問では、ポスターが誰に向けられたものであるかに関わる情報をテクスト上部の見出しから読み取る必要があった。正答の選択肢 4 にある“cast”の意味を正しく捉えられず、誤答の選択肢 1 、2 、3 を選択した生徒が多かったと考えられる。ここでは、“cast”を直後の文で“students who want to have training and perform on stage”と言い換えていることを捉える必要があった。

（2）は、テクストから必要な情報を取り出す問題である。正答率は約50%であった。誤答の選択肢1 、2 、4 を選んだ生徒は、設問文中の“training”や“have to”、“October”等の語句をキーワードとして、テクスト本文のオリエンテーションに関する情報を探すことができなかったと考えられる。

（3）は、条件に合わせてテクスト内の複数の情報を処理する問題である。正答率は約15%でこの大問中で最も低かった。全体の約75%が選択肢 3 や 4 の誤答を選んだことから、テクストの「トレーニング費用」の欄に述べられている情報だけで判断したと考えられる。複数の情報を取り

出し、整理して処理することに課題があるといえる。

（４）は、テクスト内の情報に照らして、選択肢の正誤を判断する問題である。誤答の選択肢 １ を選択した全体の約30％の生徒は、ミュージカルのストーリーの説明にある“as a hero”の意味を適切に理解できなかったと考えられる。

◆「読むこと（日常的な話題）」の指導では、テクストが書かれた目的や書き手の意図を捉えることが求められる。

◆ポスターやウェブサイトといった、実生活で使用される様々な種類の非連続型のテクストを活用し、日時や場所、費用や目的など、必要な情報に焦点を当てて読み取る活動を設定することが重要である。

9 （学校選択型A）「読むこと」に関する問題：社会的な話題について書かれたテクストを読み、その概要や要点を的確に把握することができるかをみる問題

問題番号		解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答の選択肢の選択率（％）			
							1	2	3	4
9	（1）	ホ	4	**18.3**	79.5	2.2	18.8	29.9	30.8	○
	（2）	マ	3	**29.4**	68.3	2.3	24.9	23.2	○	20.2
	（3）	ミ	3	**34.2**	63.4	2.4	25.8	21.0	○	16.6
	（4）	ム	4	**20.4**	76.9	2.7	22.4	29.6	24.9	○
	（5）	メ	1	**28.5**	68.7	2.8	○	24.3	22.3	22.1

【考察】

社会的な話題に関して書かれたテクストについて、その概要や要点を的確に捉えることができるかをみる問題である。

（１）は、テクストの概要を捉える問題である。この大問中で最も正答率が低かった。テクスト前半に正答の根拠となる情報がなく、全体を読み通して概要を把握することができなかった生徒が多かったと考えられる。

（２）は、テクストの内容を要約する問題である。誤答の選択肢 １ を選んだ全体の約25％の生徒は、“～millions of American watched her challenge on TV”の一文の意味を捉えられなかったと考えられる。

（３）は、テクストの情報を図表に整理する問題である。この大問中で最も正答率の高い問題であったが、約34％にとどまった。誤答の選択肢 １ を選んだ生徒は、フローレンスの記録がジョージ・ヤングの記録よりも速かったことは読み取れたが、フローレンスの１回目の挑戦がうまくいかなかった理由が深い霧であったことを読み取れなかったと考えられる。

（４）は、テクストの出来事の時系列を把握する問題である。誤答の選択肢 ２ を選んだ生徒が約30％であったことから、フローレンスがカタリナ海峡を横断したのが 1952 年、その１年前にイギリス海峡を横断したという部分を読み取れていた生徒は、正答を選んだ生徒と合わせると全体の約半数にとどまっている。テクスト全体を読み通した上で、時や前後関係を表す語句を手がかりに時系列を捉えることができなかったものと考えられ、全体として大筋を捉えることに課題があるといえる。

（５）は、テクストの要点を捉える問題。フローレンスが２回目の挑戦でカタリナ海峡横断泳を成功させた秘訣を問う問題である。第５段落に述べられている、“she kept a clear image of the goal in mind”というキーセンテンスを捉えることができなかったと考えられる。

◆「読むこと（社会的な話題）」の指導では、始めのうちは、比較的少量の情報に分けて読ませる、難しい語彙や表現を簡単なものに言い換えるなど読むことの負担を軽減する配慮を行うことが大切である。
◆学習の初期段階にある生徒には、テクストを何のために読むのかという目的を教師が設定することが大切である。例えば、概要を理解するために全体に目を通したり、特定の情報を得るために焦点を絞って読んだりするなど目的とそれに応じた読み方を合わせて指導することが考えられる。

6 （学校選択型Ｂ）文法・語法に関する問題：英語によるコミュニケーションを支える基礎的・基本的な文法事項に関する知識が定着しているかをみる問題

問題番号		解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答の選択肢の選択率（%）			
							1	2	3	4
6	（6）	ツ	4	**54.7**	45.1	0.2	17.9	12.6	14.6	○
	（7）	テ	3	**22.3**	77.5	0.2	8.8	41.6	○	27.1
	（8）	ト	2	**71.8**	28.0	0.2	8.5	○	10.6	8.8
	（9）	ナ	4	**18.8**	80.9	0.3	29.5	11.0	40.5	○
	(10)	ニ	2	**44.0**	55.8	0.2	10.6	○	13.7	31.5

【考察】

選択肢の中から最も適切な語句を選び、正しい文を完成させる問題である。

正答率が50％を超えたのは（６）＜助動詞＋完了形＞、（８）＜語彙＞の２つであった。その一方で、正答率が20％前後と低かったのは、（７）＜関係代名詞（所有格）＞、（９）＜独立分詞構文＞であった。

（７）＜関係代名詞（所有格）＞では、約42％の生徒が誤答の選択肢 ２ “which”を選んでいた。空欄の後ろの名詞“top”との関係を捉えられなかったと考えられ、所有格の関係代名詞に関する知識の定着に課題があるといえる。また、誤答の選択肢 ４ “where”を選択した約27％の生徒は、先行詞と、関係詞節内の文構造との関係を正しく捉えられず、“the mountain”を場所を表す先行詞として捉え関係副詞を選んだと考えられる。

（９）＜分詞構文＞は、正答率が大問中で最も低い18.8％となった。令和３年度調査では、正答率18.1％と今回とほぼ同じ正答率であり、誤答の選択肢 ３ “It was”を選んだ生徒の割合も約46％と、今回とほぼ同様の割合であった。従属節と主節とをつなぐには、接続詞が必要であるという知識を定着させることや、従属節の動詞と主節の主語との関係を把握して、分詞構文を適切に活用することに、引き続き課題があるといえる。

◆伝えたい内容を効果的に伝えるためにはどのような文構造や文法事項を活用すればよいか、生徒から引き出しながら指導していくことも重要である。

7 （学校選択型Ｂ）文法・語法に関する問題（整序）：英語によるコミュニケーションを支える基礎的・基本的な文構造に関する知識と、それを適切に運用する技能が身に付いているかをみる問題

問題番号		解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答の選択肢の選択率（%）			
							1	2	3	4
7	（2）	ネ	1	**10.9**	88.9	0.2	○	8.0	22.3	58.5
	（3）	ノ	3	**61.3**	38.3	0.4	7.9	24.3	○	6.1

【考察】

与えられた語句を適切に並び替えて、正しい文を完成させる問題である。

（２）＜how＋形容詞＋it＋is＞の正答率は約11％と低かった。誤答の選択肢 4 を選択した生徒が過半数であり、“it is important how to”という並べ替えをした可能性がある。＜It＋is＋形容詞＋to do＞と＜how＋to do＞を混同したものと推察される。また、誤答の選択肢 3 を選んだ約22％の生徒は、“how it is important to ”と並べ替えた可能性がある。

（３）＜不定詞の否定形＞は、正答率が60％を超えた。＜tell ＋ 人 ＋ to do＞の知識と、不定詞の否定形＜not＋to do＞の知識が定着しているとみなすことができる。誤答の選択肢 2 を選択した約24％の生徒は、“tell us to not practice”と並べ替えた可能性があり、不定詞の否定形を正しく作れなかったと思われる。

◆授業の中で、生徒の発話の中に語彙や文法・語法の誤りがある場合、それを教師が適切な表現に言い直すリキャストを行っていくことが大切である。
◆文法はコミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、文法的な正確さのみを過度に強調することがないよう配慮することも大切である。

8 （学校選択型Ｂ）「読むこと」に関する問題：日常的な話題に関して書かれたテクストについて、目的に応じて必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができるかをみる問題

問題番号		解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答の選択肢の選択率（%）			
							1	2	3	4
8	（1）	ハ	3	**65.8**	33.7	0.5	6.5	11.7	○	15.5
	（2）	ヒ	2	**59.5**	39.9	0.6	7.3	○	26.2	6.4
	（3）	フ	3	**44.8**	54.6	0.6	9.3	8.8	○	36.5
	（4）	ヘ	1	**49.9**	49.3	0.8	○	15.6	14.1	19.6

【考察】

大学のウェブサイトを読み、オープンキャンパスに関する情報を探し出したり、ウェブサイトに記載されている内容の中から事実と意見を正しく判断したりする問題である。

（１）の正答率は、約66％であった。この設問では、ウェブサイトが誰に向けられたものであるかを上部の見出しより読み取る必要があった。60％を超える生徒がテクスト上部の見出しやその下に述べられている説明を読み取ることができたと考えられる。

（２）は、テクストから必要な情報を取り出す問題であり、約60％の正答率であった。誤答の選択肢 3 “send an e-mail to the university”を選択した約26％の生徒は、テクスト下部にある問い合わせがある場合の連絡手段についての記述を誤って捉えたものと考えられる。

（３）は、条件に合わせてテクスト内の複数の情報を処理する問題であり、正答率は45%を下

回った。誤答の選択肢 4 を選んだ約37％の生徒は、午後３時までに“Campus Tour”、“Talking Session”、 “Lecture Demonstration”の３つに参加するために、それぞれの開催時間も合わせた複数の情報を整理することができなかったと考えられる。

（４）テクスト内の情報から事実と意見を区別し、内容に合致する意見を判断する問題であり、正答率は約50％であった。誤答の選択肢 3 は、テクストの内容と一致する事実が述べられているものであったが、選択率が他と比較して最も低かったことから、多くの生徒は事実と意見を正しく判断することができたと推察される。

◆「読むこと（日常的な話題）」の指導では、書き手の意図を的確に捉えることが必要である。
◆テクストに述べられている内容が、事実なのか意見なのかを判断した上で、それに基づいた自分の意見や考えを構築することが重要である。
◆ポスターや案内などのテクストを読み、作成された目的や対象者、必要な情報は何かなどについて、ペアやグループで意見交換をする言語活動を行うことも大切である。

9 （学校選択型B）「読むこと」に関する問題：社会的な話題に関して書かれたテクストについて、その概要や要点を的確に把握することができるかをみる問題

問題番号		解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答の選択肢の選択率（%）			
							1	2	3	4
9	（1）	ホ	1	**24.0**	75.2	0.8	○	37.4	17.1	20.8
	（2）	マ	4	**24.5**	74.7	0.8	16.9	41.2	16.6	○
	（3）	ミ	3	**46.4**	52.1	1.5	18.5	18.2	○	15.4
	（4）	ム	2	**46.0**	52.5	1.5	22.3	○	17.1	13.1
	（5）	メ	3	**39.4**	58.8	1.8	16.9	17.1	○	24.8

【考察】

社会的な話題に関して述べたテクストについて、その概要や要点を的確に捉えることができるかをみる問題である。

（１）はテクストの概要を捉える問題である。正答率は約24％であった。テクスト前半に正答の根拠となる情報がなく、全体を読み通して概要を把握することができなかった生徒が多かったと考えられる。誤答の選択肢 2 を選択した生徒は、第２段落のナサニエル・ナポレオン・ブラッドフォードという農家が、ローソンのスイカの種を手に入れたという記述を誤って捉えたものと考えられる。

（２）は、テクストの内容を要約する問題である。正答率は約25％であった。誤答の選択肢 2 を選択した生徒は、固い皮に覆われていたのがブラッドフォードのスイカではなく、他種のスイカであったことを正確に読み取れなかったと考えられる。

（３）は、テクストの情報を図表に整理する問題である。正答率は約46％を超え、この大問中で正答率が最も高かった。生徒は、テクストに登場する人物について述べられている段落を見つけ、その人物の行動を的確に読み取ることができたと考えられる。

（４）は、テクストの出来事の時系列を把握する問題である。正答率は46％であった。誤答の選択肢 1 を選択した約22％以上の生徒は、それぞれの出来事に示されている“in 2012”や“In 1997”、“After receiving the e-mail”といった時を表す語句や表現に注意を払わず、テクストで述べられて

いる順番に従って判断したと考えられる。

（５）は、テクストの要点を捉える問題である。正答率は40％を僅かに下回った。誤答の選択肢４ を選んだ生徒は、テクストの第７段落にある、“for the better world”や“set up a charity”といった語句から、選択肢 ４ の“help other countries”と部分的に関連付けた可能性が考えられる。選択肢の文全体としての意味を捉えられなかったと推察される。

◆テクストの概要を捉えるためには、各段落の中心的な内容を捉えていくことが重要である。例えば、段落ごとにキーワードやトピックセンテンスを確認したり、タイトルを考えたりすることによって、テクスト全体の概要を把握できるようにすることが考えられる。

◆テクストの要点を捉えるためには、文全体を通して読み、複数の段落や情報の中から書き手が最も伝えたい内容を把握することが重要である。そのために、例えば、ディスコースマーカーの種類や役割について指導し、教科書の１つのレッスンを通して読んだ後にサマリーライティングをしたりすることが考えられる。

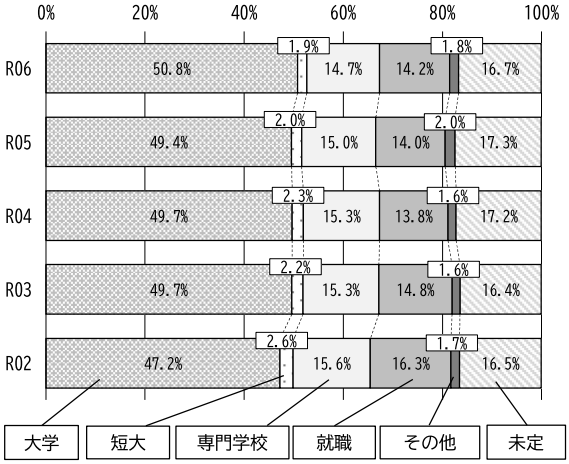
Ⅲ　学習状況等に関する調査結果の概要と分析

1　学習状況

（１）高校卒業後の進路希望について

①　高校卒業後、進みたいと考えている進路のうち、現在、最も強く希望しているものを１つ選んでください。【Ｑ１】

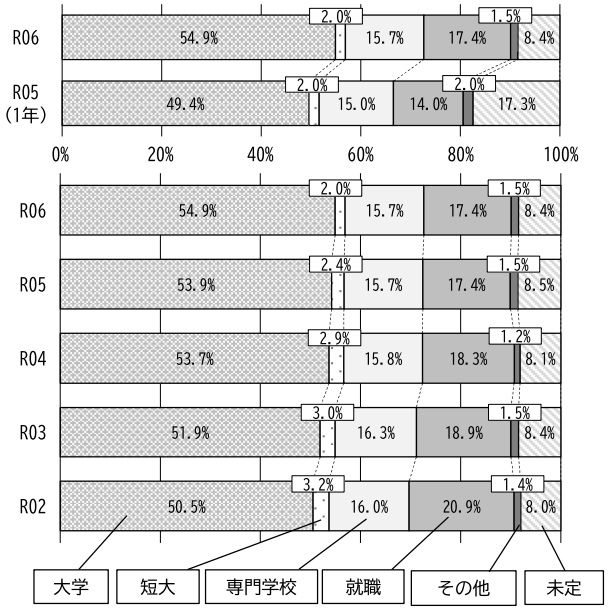
〔１年生〕



○　進学を希望する生徒の割合は６割を超える。大学への進学希望者が５割を超えた。

○　Ｒ３以降、進路希望未定者の割合が増加していたが、減少に転じた。

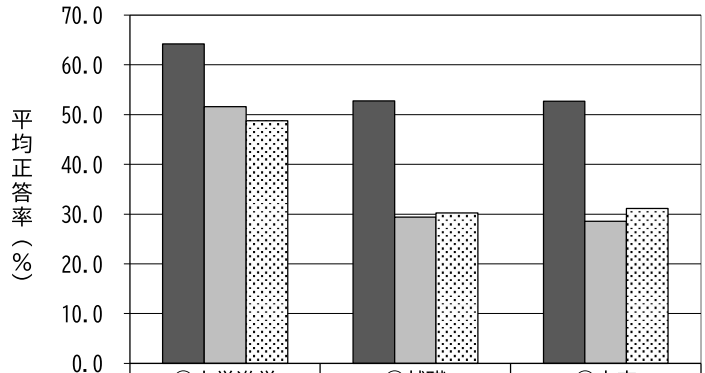
〔２年生〕



○　未定の割合が１年時に比べ、大きく減少しているが、全体の傾向は、過去５年間で大きな変化はみられない。

○　進学希望の割合は年々増加し、Ｒ３以降７割を超えている。中でも、大学への進学希望者が増加している。

②　進路希望別正答率



	①大学進学	②就職	③未定
■国語正答率	64.2	52.7	52.7
■数学　〃	51.6	29.4	28.5
■英語　〃	48.8	30.3	31.1

①　大学進学
国公私立の４年制大学への進学を希望している生徒

②　就職
民間及び公務員への就職を希望している生徒

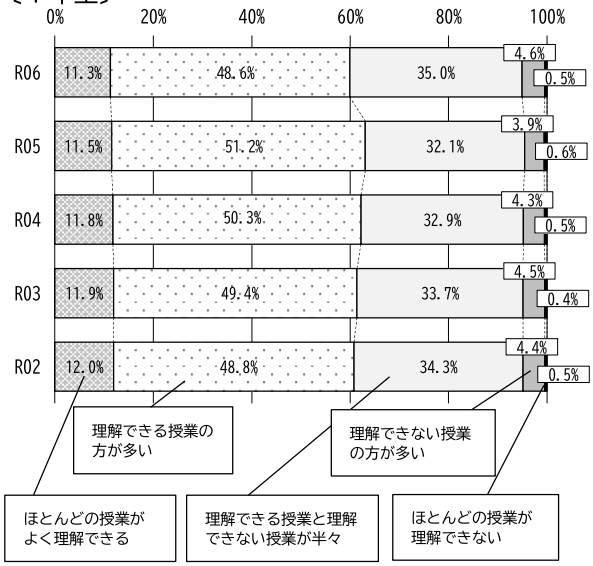
③　未定

○　いずれの教科も、大学進学希望者と就職希望者・進路希望未定者の正答率に大きな開きがある。就職希望者と進路希望未定者の正答率には、大きな差はみられない。

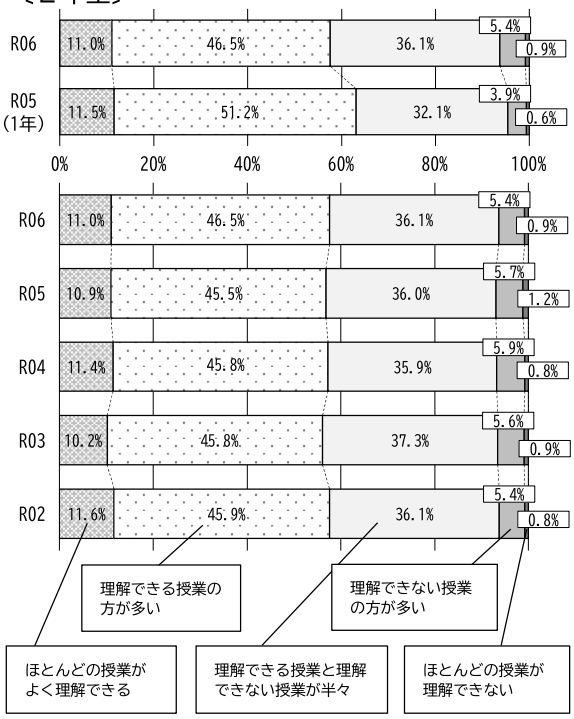
（２）授業理解度と家庭学習の仕方について

①　授業の内容がどの程度理解できますか【Ｑ４】

〔１年生〕



〔２年生〕

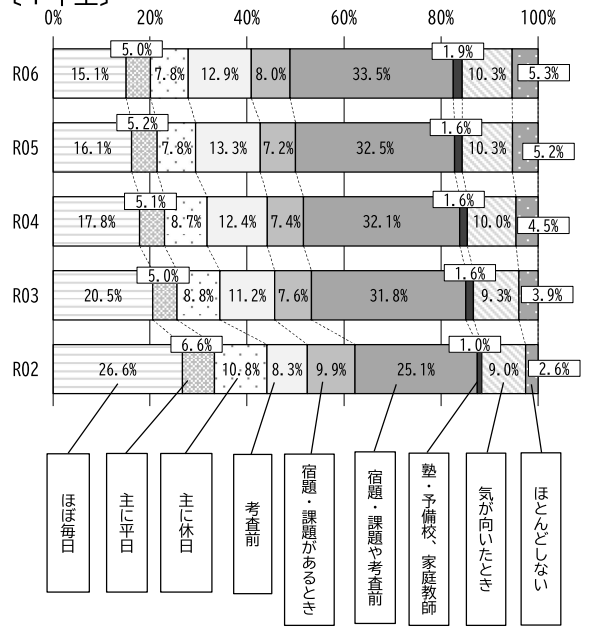


○　１年生は、Ｒ５では授業理解に肯定的な回答をした生徒の割合が６割を超えていたが、Ｒ６では減少した。

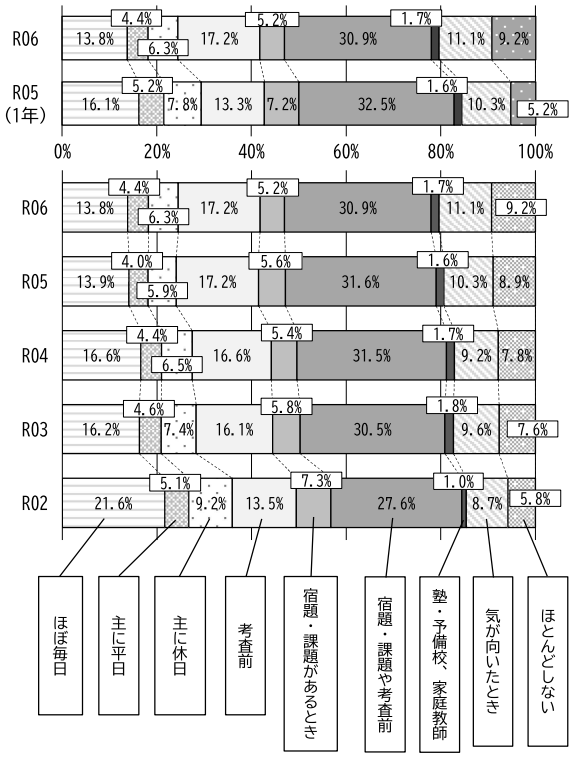
○　２年生では、肯定的な回答が１年時と比較して減少している。それぞれの回答の割合は、Ｒ２以降大きな変化がみられない。

②　家庭学習の仕方に、最も近いものはどれですか【Ｑ１６】

〔１年生〕



〔２年生〕



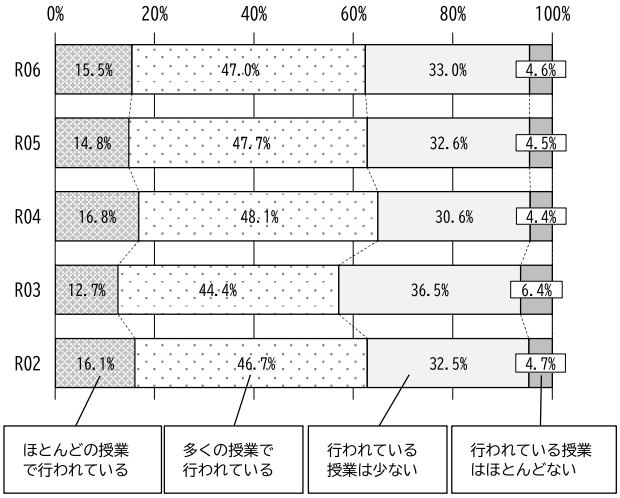
○　１年生は、「ほぼ毎日」の割合が減少傾向。一方で、「宿題・課題があるとき」が増加傾向であることから、宿題･課題が家庭学習の動機付けの一つになっている。

○　２年生は、「気が向いたとき」「ほとんどしない」が増加傾向にあり、主体的に取り組む態度について課題がみられる。

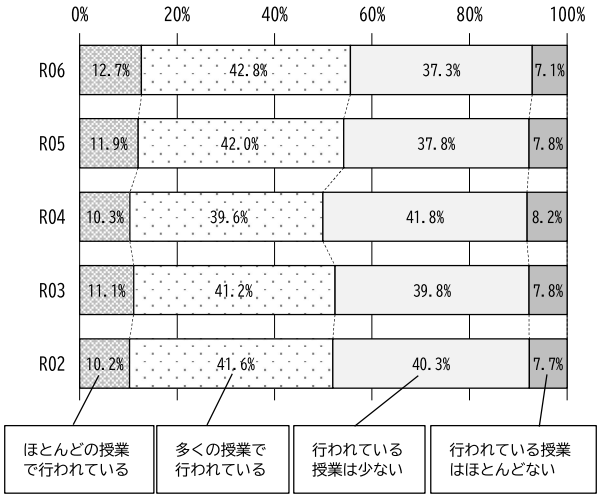
（３）授業における学習目標の提示や振り返りについて

① 授業のはじめに学習の目標が示されたり、授業の終わりに学習のまとめや振り返りが行われたりしていますか【Ｑ６】

〔１年生〕

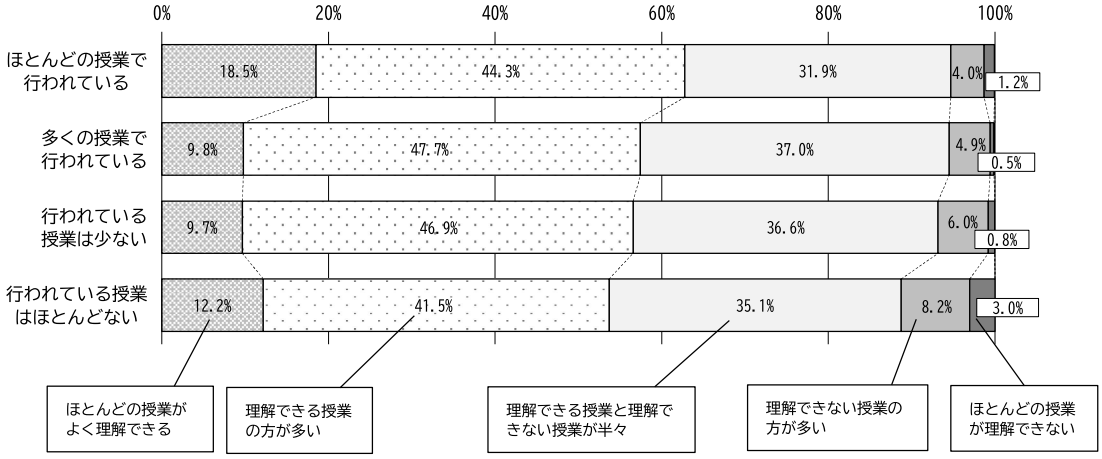


〔２年生〕



○ １年生では、「ほとんどの授業で行われている」「多くの授業で行われている」と肯定的な回答をした生徒の割合が６割を超えている。２年生では、肯定的な回答の割合が５割程度であるが、Ｒ４から増加傾向にある。生徒の主体的な学びを意識した授業改善が行われてきていることがうかがえる。

② 授業での学習目標の提示や振り返りと授業理解度（２年生）【Ｑ４】【Ｑ６】



○ 「ほとんどの授業で学習目標の提示や振り返りが行われている」と回答したグループほど、授業理解度が高い傾向がみられる。

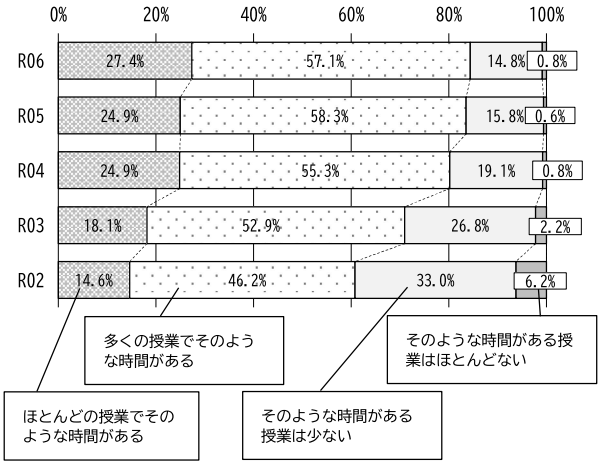
○ 「行われている授業がほとんどない」と回答したグループでは、「理解できない授業の方が多い」と「ほとんどの授業が理解できない」を合わせた割合は約11%である。これは、学習目標の提示や振り返りの状況に対して肯定的な回答をしたグループで、同様の回答をした割合の約２倍である。

○ 学習目標の提示や学習のまとめ、振り返りの場面を設定し、工夫することによって、生徒が見通しをもって粘り強く取り組んだり、学習したことを捉え直したりし、学習内容の理解が促進されると考えられる。

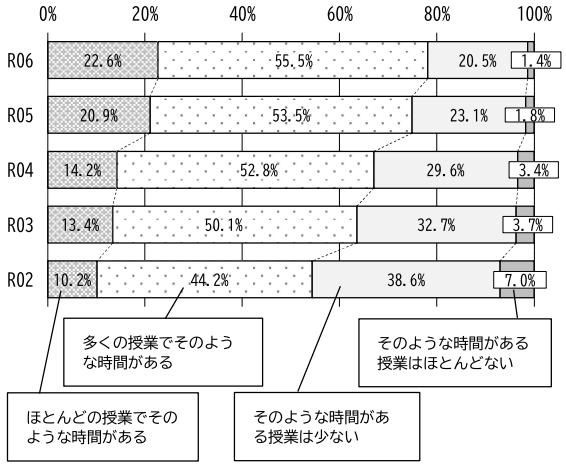
（４）自分の考えを発表したり、ペアやグループで話し合ったりする学習活動について

① 授業の中で、自分の考えを発表したり、考えたことをペアや小グループで話し合ったりする時間がありますか【Ｑ７】

〔１年生〕

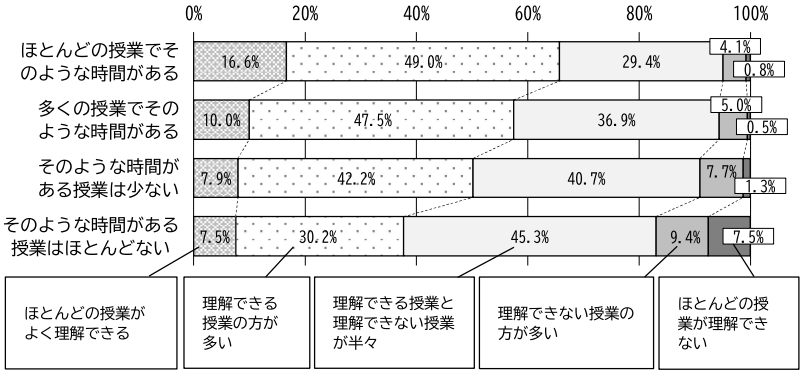


〔２年生〕



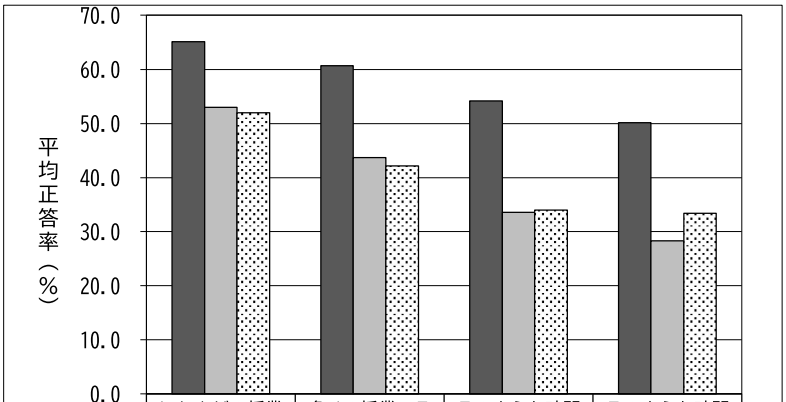
○ 年度を追ってみていくと、肯定的回答の割合が年々増加しており、１年生は８割を超え、２年生においては８割に近づきつつある。学習指導要領で求められている資質・能力の育成を図る授業改善に、各校が取り組んでいる様子がうかがえる。

② 自分の考えを発表したり、ペアやグループで話し合ったりする学習活動と授業理解度（２年生）【Ｑ４】【Ｑ７】



○「ほとんどの授業で発表や話合いの時間がある」と回答したグループほど、授業理解度が高い傾向がある。「そのような時間がある授業はほとんどない」と回答したグループと比較すると、授業理解度に肯定的な回答の割合は、約２倍である。生徒にペアやグループ活動に取り組ませることは、授業の学習内容を理解させる一つの手立てとして効果的であると考えられる。

③ 自分の考えを発表したり、ペアやグループで話し合ったりする学習活動と正答率



	ほとんどの授業でそのような時間がある	多くの授業でそのような時間がある	そのような時間がある授業は少ない	そのような時間がある授業はほとんどない
■国語正答率	65.1	60.6	54.2	50.2
□数学 〃	53.0	43.7	33.5	28.3
▫英語 〃	51.9	42.2	33.9	33.4

○ 発表や話合いの活動が行われる授業が多いほど、正答率が高くなる傾向が見られる。

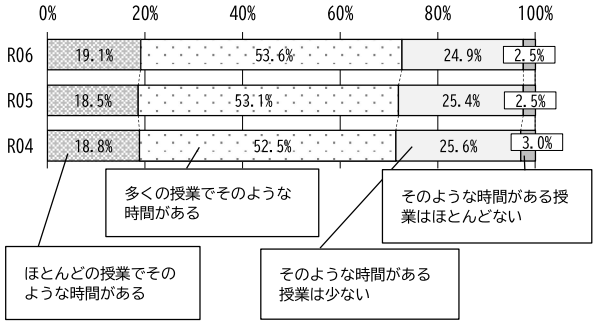
○ 発表や話合いの活動を効果的に設定することにより、生徒が他者の意見に触れ、自らの考えを広げ深めることができ、学習内容の定着に寄与することが期待できる。

○ 対話的な学びを充実させることで、生徒の思考力・判断力・表現力等の育成につながり、深い学びにつながっていくと考えられる。

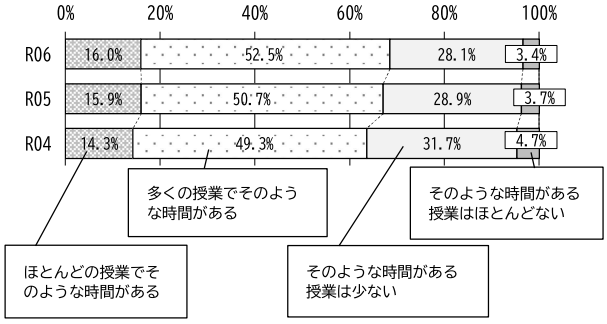
（５）課題を見つけたり、解決したりする学習活動について

① 授業の中で、あなたが課題を見つけたり、解決したりする時間がありますか【Ｑ８】

〔１年生〕

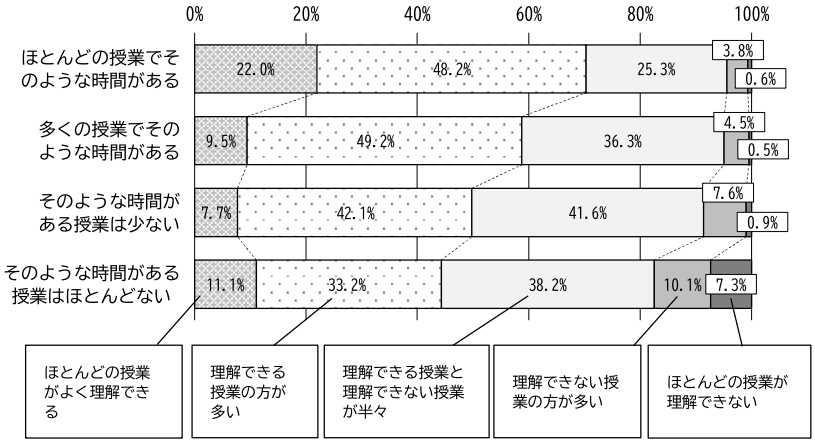


〔２年生〕



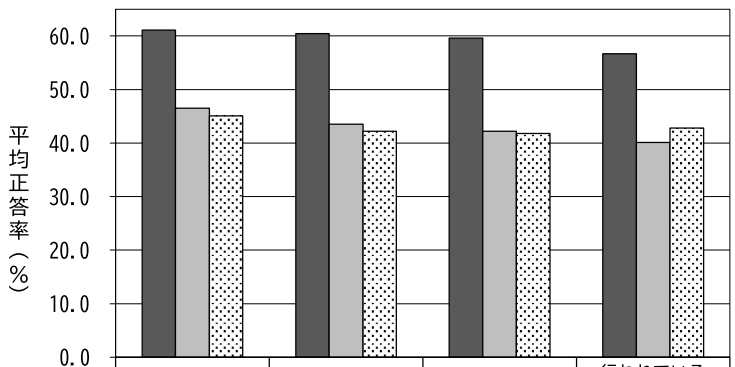
○ １、２年生ともに、授業中に課題を見つけたり、解決したりする時間があると回答した割合は年々増加傾向にある。
○ １年生と２年生を比較すると、２年生の方が肯定的回答の割合が低い。２年生の肯定的回答の割合について、１年時のものと比較すると、その差は前年度よりも小さくなっている。

② 課題を見つけたり、解決したりする学習活動と授業理解度（２年生）【Ｑ４】【Ｑ８】



○ 生徒が探究的な学習をすればするほど、また、主体的に学ぶほど、授業理解度が高くなる。
○ 「ほとんどの授業でそのような時間がある」と回答し、理解できない授業が多いと認識している割合は、「そのような時間がある授業はほとんどない」と回答し、理解できない授業が多いと認識している割合の４分の１程度である。課題を見つけたり、解決したりする学習活動を取り入れることで、生が主体的に学び、学習内容の理解を深めることができる。

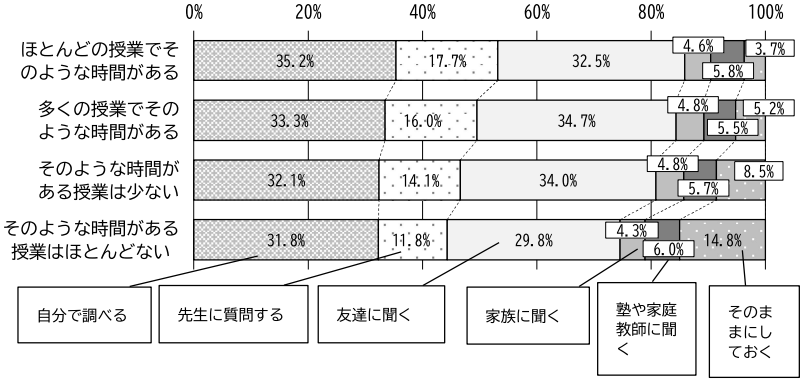
③ 課題を見つけたり、解決したりする学習活動と正答率



	ほとんどの授業で行われている	多くの授業で行われている	行われている授業は少ない	行われている授業はほとんどない
■国語正答率	61.1	60.4	59.6	56.7
□数学 〃	46.5	43.5	42.2	40.1
□英語 〃	45.1	42.2	41.8	42.8

○ 課題を見つけたり、解決したりする学習活動を行う時間を設定している授業が多いほど、正答率が高い傾向が見られる。
○ 課題を見つけたり、解決したりする学習活動をすることで、授業の理解度が高まり、習得した各教科の知識や技能が着実に定着していると考えられる。

④　課題を見つけたり、解決したりする学習活動と分からないことがあるときの行動（２年生）
【Ｑ５】【Ｑ８】

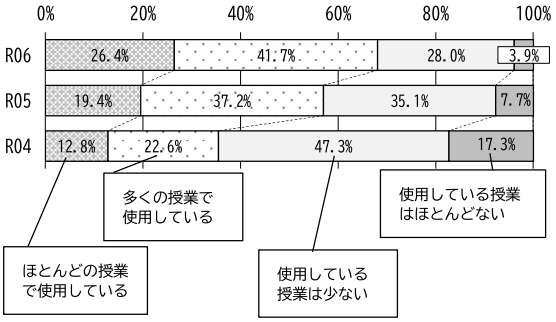


○「課題を見つけたり、解決したりする学習活動が多い」と回答したグループほど、分からないことがあるときに、自分で調べたり、誰かに聞いたりして解決しようとする傾向がみられる。一方で、「そのような時間を設定している授業が少ない」と回答したグループほど、分からないことをそのままにしておく傾向がみられる。課題を見つけたり、解決したりする学習活動を通じて、生徒が解決に向けて必要な方法や手段を見つけ、適切に選択することができるようにしていくことが重要である。

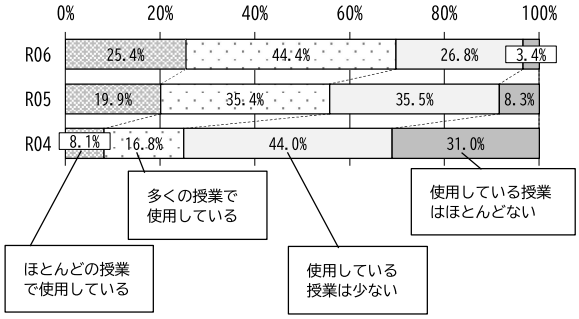
（６）授業におけるＩＣＴ機器の使用について

① 授業の中で、生徒がタブレットやパソコンなどのＩＣＴ機器を使用していますか。【Ｑ９】

〔１年生〕



〔２年生〕

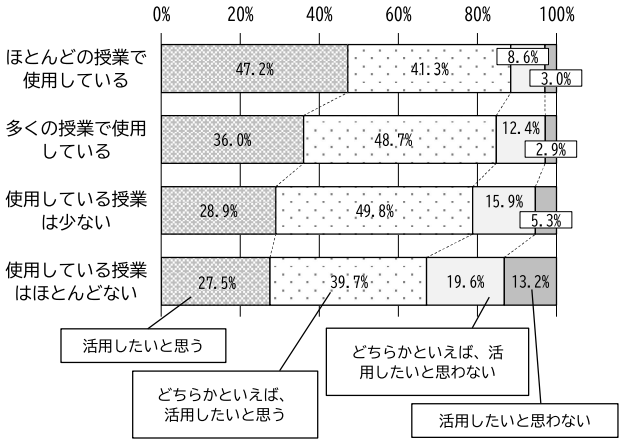


○ この３年間で、授業の中で、生徒がＩＣＴ機器を使用している割合は、１年生では約２倍、２年生では約３倍に増加している。

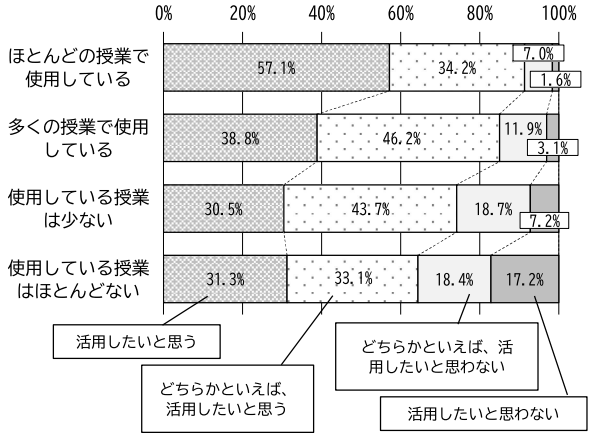
○ １人１台端末など使用環境の整備が進み、ＩＣＴ機器を活用した授業が行われるようになってきていることが推察できる。

② ＩＣＴ機器の使用と授業でよりＩＣＴ機器を活用することへの意識 【Ｑ９】【Ｑ１０】

〔１年生〕



〔２年生〕

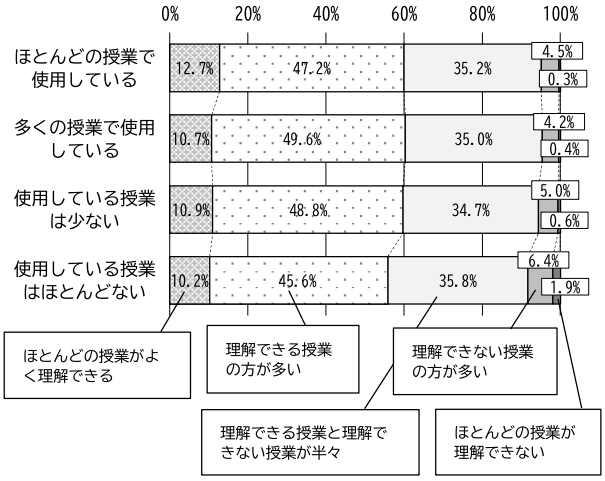


○ 授業でＩＣＴ機器を多く使用するほど、生徒が授業でよりＩＣＴ機器を活用したいという意識が高まる傾向がある。

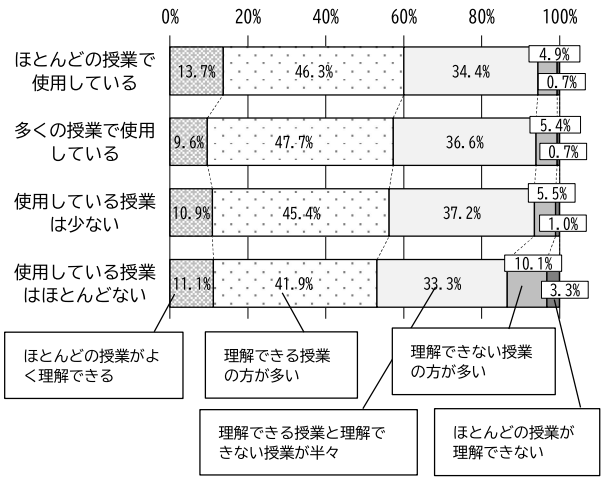
○ 情報活用能力は学習の基盤となる資質・能力の一つであり、各教科等の授業において、それぞれの特質に応じてＩＣＴ機器を適切に活用して、情報活用能力の育成を図ることが必要である。

③ ＩＣＴ機器の使用と授業理解度【Ｑ４】【Ｑ９】

〔１年生〕



〔２年生〕

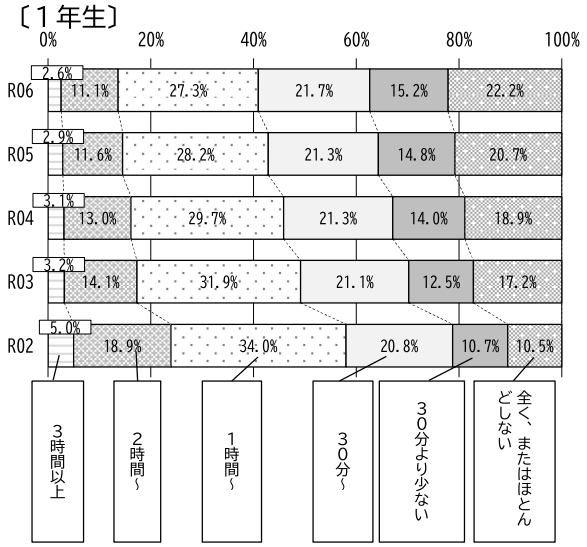


○ ＩＣＴ機器を使った授業の頻度が高いと授業理解度が高い傾向ではあるが、必ずしもＩＣＴ機器を利用したからといって、授業理解度が上がるとは限らない。

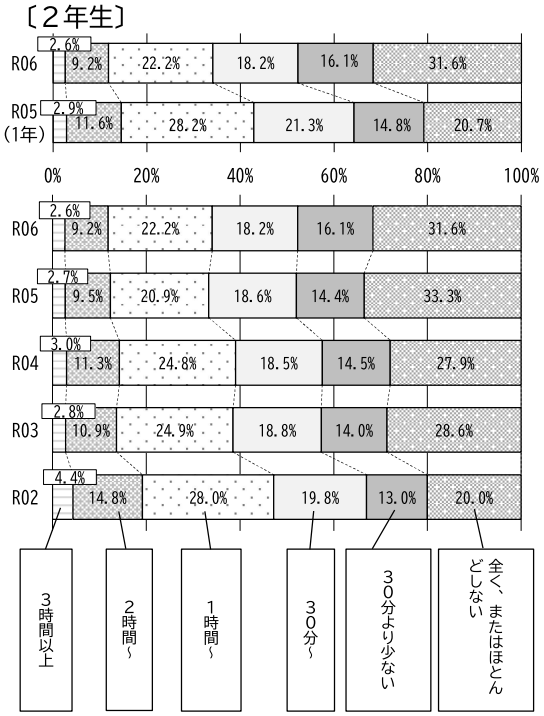
（７）平日の家庭学習時間について

① 平日、学校の授業時間以外に１日当たりどのくらいの時間、勉強していますか。【Ｑ１４】

〔１年生〕



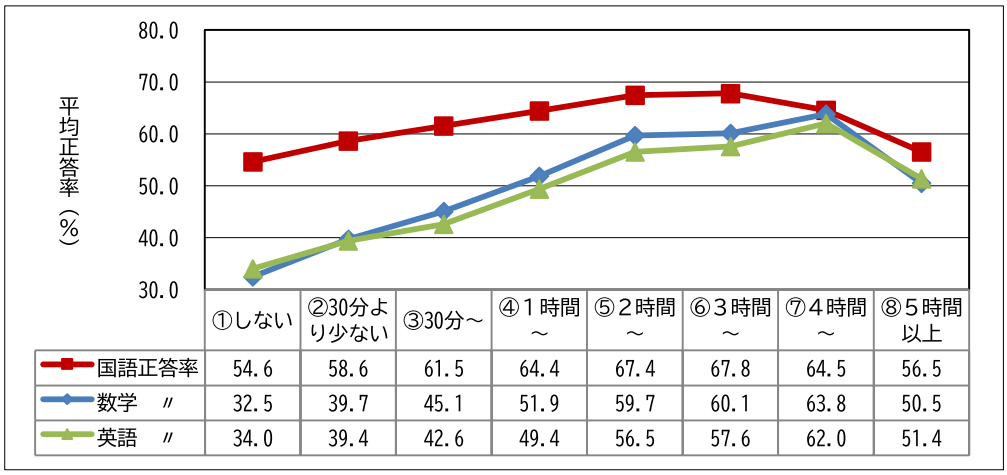
〔２年生〕



○ １年生は、１時間以上学習している生徒の割合が減少傾向で、「全く、またはほとんど勉強しない」生徒の割合が増加傾向にある。

○ ２年生は、「全く、またはほとんど勉強しない」生徒の割合は減少したが、１年時と比較すると増加している。

② 家庭学習時間と正答率



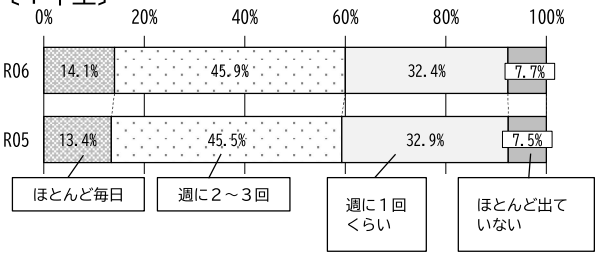
	①しない	②30分より少ない	③30分～	④１時間～	⑤２時間～	⑥３時間～	⑦４時間～	⑧５時間以上
国語正答率	54.6	58.6	61.5	64.4	67.4	67.8	64.5	56.5
数学 〃	32.5	39.7	45.1	51.9	59.7	60.1	63.8	50.5
英語 〃	34.0	39.4	42.6	49.4	56.5	57.6	62.0	51.4

○ 平日に家庭学習時間が２～４時間確保できている生徒は、平均正答率が高く、学習内容を身に付けていることがうかがえる。

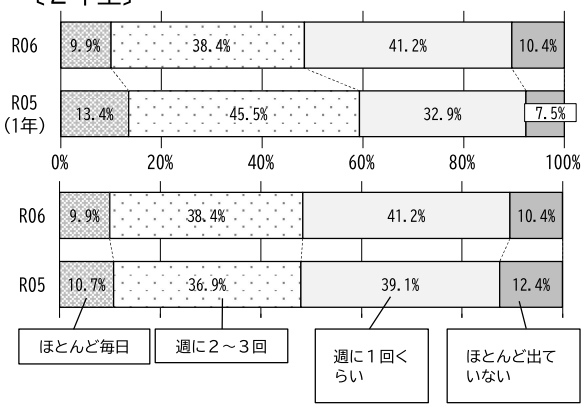
（８）宿題・課題の頻度について

① 学校からどのくらいの割合で宿題・課題が出されていますか【Ｑ１１】

〔１年生〕



〔２年生〕

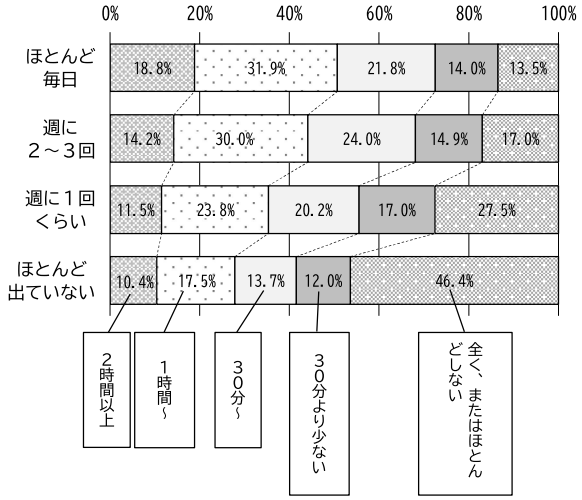


○ 「ほぼ毎日」宿題・課題が出されている割合は、昨年度と比較すると、１年生では微増しているが、２年生では減少した。

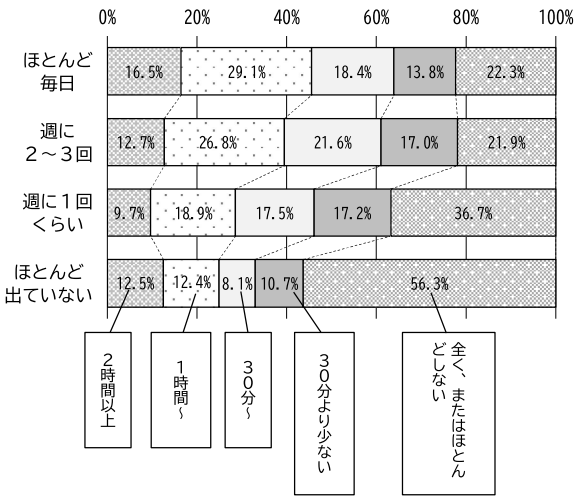
○ ２年生においては、昨年度と比較すると、宿題・課題が週に２回以上出されている割合が減少している。

② 宿題・課題が課される頻度と平日の家庭学習時間【Ｑ１１】【Ｑ１４】

〔１年生〕



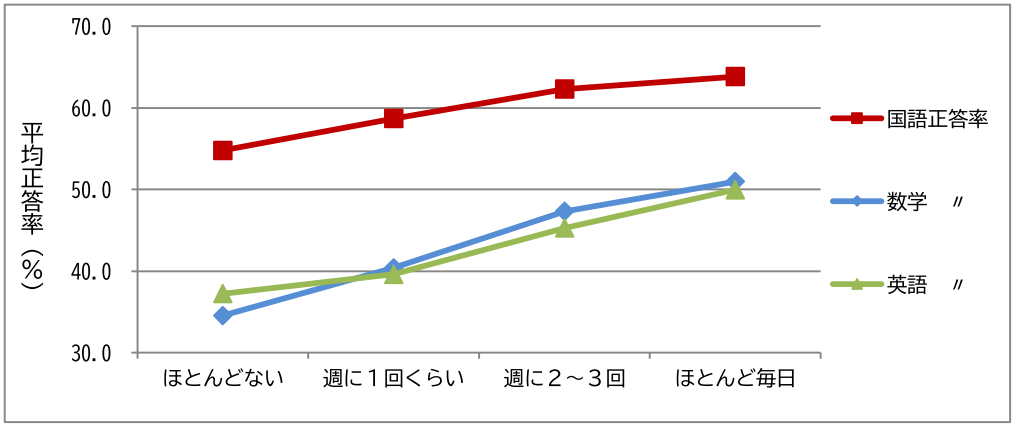
〔２年生〕



○ １、２年生ともに、宿題・課題が課される頻度が高いほど家庭学習時間が長くなっている。

○ 宿題・課題の頻度が、家庭学習時間の確保につながっている。宿題・課題がほとんど出ていない場合、家庭学習を全く、またはほとんど行っていないことが分かる。家庭学習の時間確保と学習内容の定着に向けて、宿題・課題の効果的な課し方を工夫する必要がある。

③ 宿題・課題の頻度と正答率

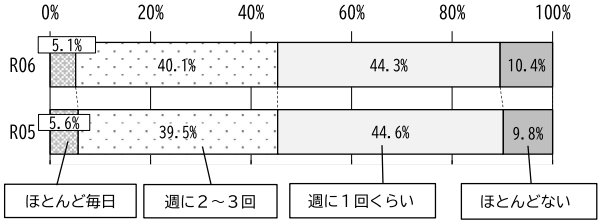


○ 宿題・課題の頻度が多くなるにつれ、どの教科も教科の平均正答率が高くなっている。宿題・課題を適切に課すことは、望ましい学習習慣や学習した内容の定着に一定の効果があると考えられる。

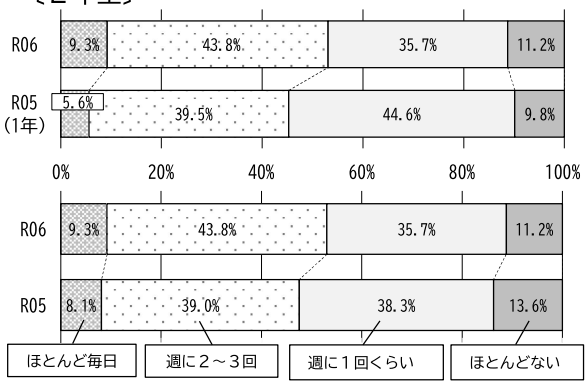
（９）テストの頻度について

① 学校ではどのくらいの割合でテスト（小テストや確認テストを含む）がありますか【Ｑ１２】

〔１年生〕



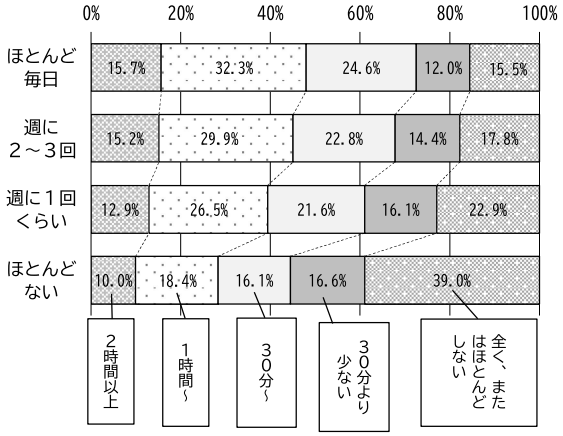
〔２年生〕



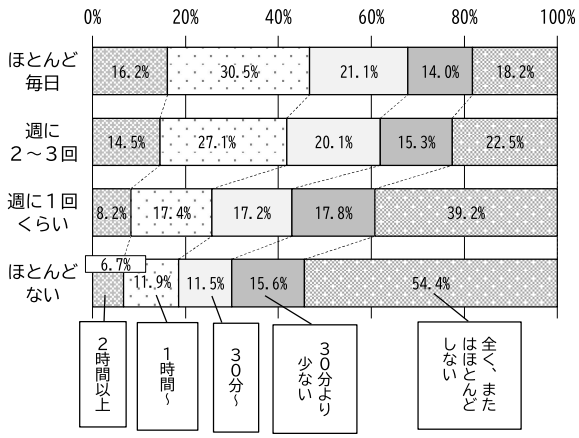
○ 「週に２～３回」以上と回答した生徒の割合は、１年生は変化はないが、２年生は増加している。

② テストの頻度と平日の家庭学習時間【Ｑ１２】【Ｑ１４】

〔１年生〕



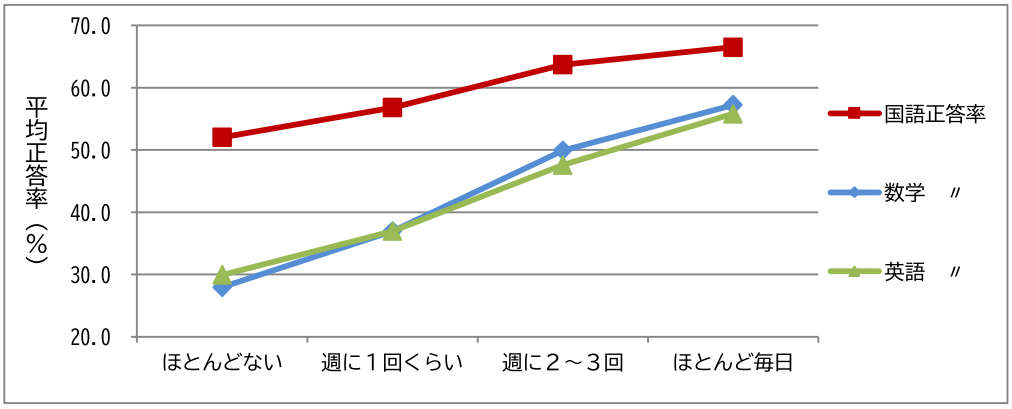
〔２年生〕



○ １、２年生ともに、テストの頻度が高いと、家庭学習時間が長くなっている。「テストがほとんどない」と回答したグループでは、家庭学習時間が「３０分以下」と答えた生徒が、1年生では７割、２年生では８割を超える。

○ １年生から２年生に学年が上がると平日学習時間は大きく減少する傾向が続いている。宿題の頻度は、１年生から２年生にかけて低下しているが、テストの頻度は増加している。テストが家庭学習時間を増加させている要因になっている可能性がある。宿題同様、家庭学習を定着させるための手立てとして、テストを効果的に活用することが考えられる。

③ テストの頻度と正答率



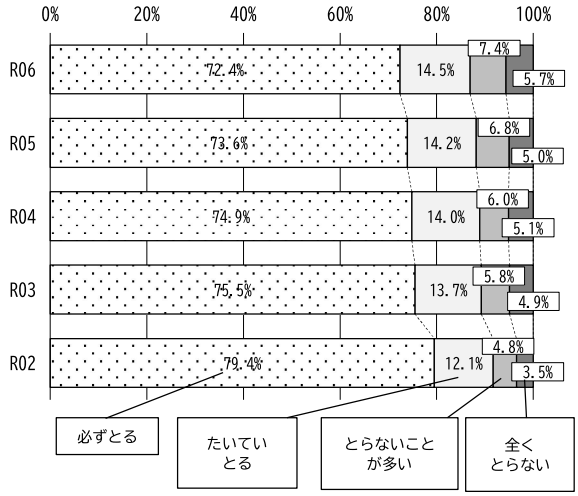
○ テストの頻度について「ほとんど毎日」「週に２～３回」と回答したグループと、「週に１回くらい」「ほとんどない」と回答したグループを比較すると、各教科の正答率に大きな開きがみられる。

○ テストの実施によって、学習内容の定着が図られ、自己の学習状況の把握にもつながっていると考えられる。

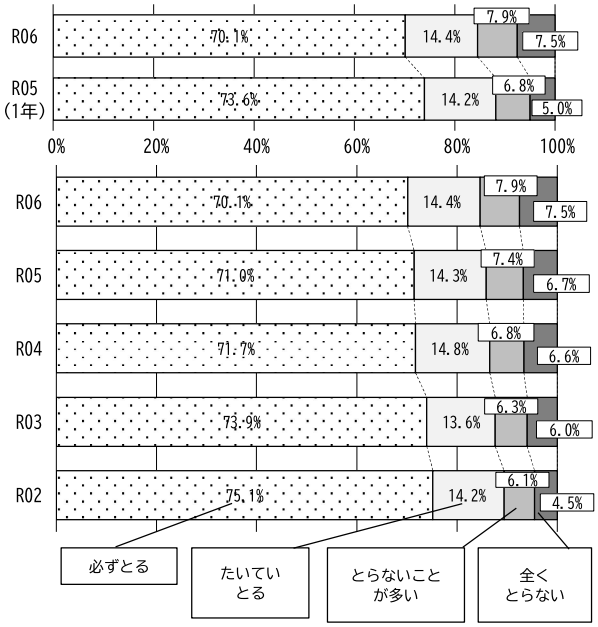
（10）朝食摂取の習慣

① 学校に行く前に朝食をとりますか【Ｑ２０】

〔１年生〕



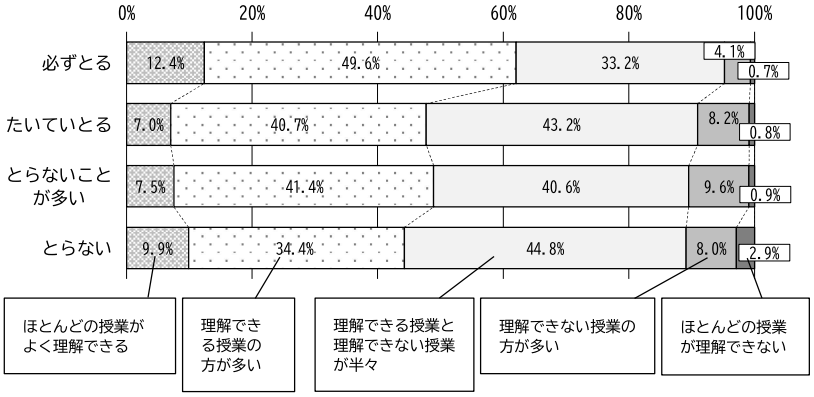
〔２年生〕



○ １、２年生ともに、８割以上の生徒に朝食摂取の習慣が身に付いているが、その割合が減少しつつあるので、注意が必要である。

○ 「必ずとる」の割合が、１年生から２年生にかけて減少している。

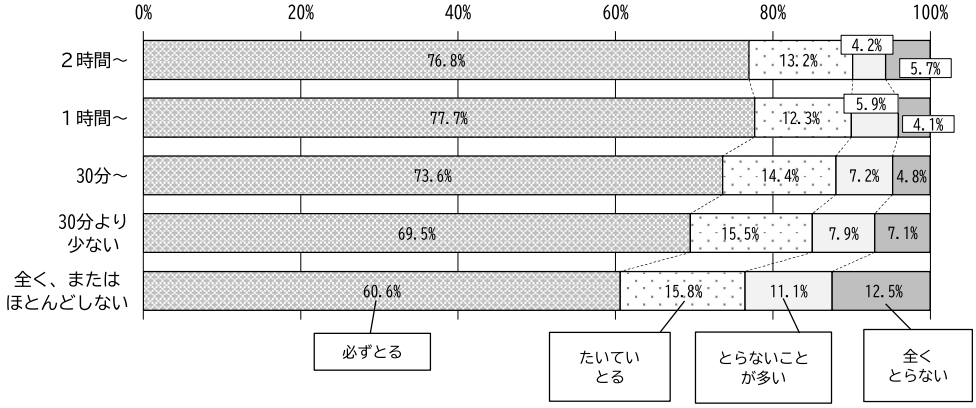
② 朝食摂取習慣と授業理解度（２年生）【Ｑ４】【Ｑ２０】



○ 「必ずとる」と回答したグループでは、約６割が授業理解度について肯定的回答をしている。

○ 朝食をとることで、基本的な生活リズムが整い、授業理解度が高くなる可能性がある。

③ 平日の学習時間と朝食摂取習慣（２年生）【Ｑ１４】【Ｑ２０】

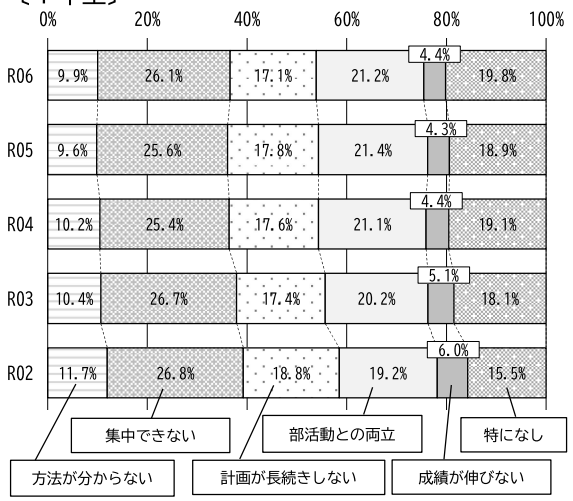


○ 平日に１時間以上学習していると回答した生徒のうち、約７割が朝食を「必ずとる」と回答している。しかし、過年度の推移を見ると、その数が減少している。

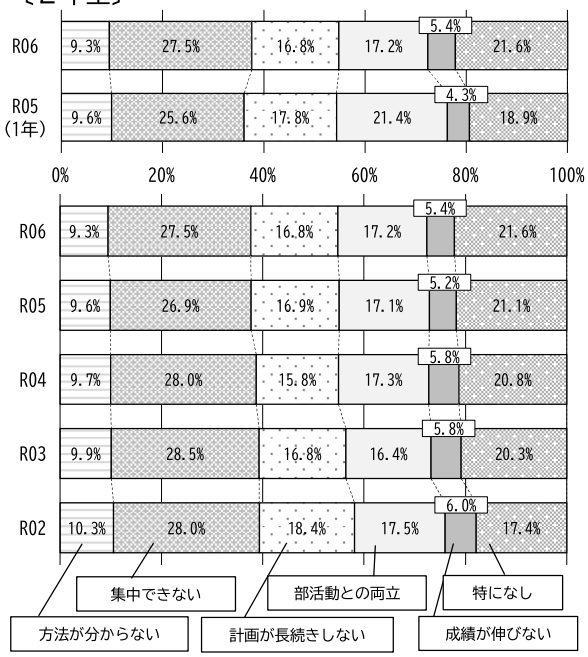
（11）家庭学習をする上での悩みと平日の生活について

① 家庭学習をする上で悩んでいることはありますか【Ｑ１８】

〔１年生〕



〔２年生〕

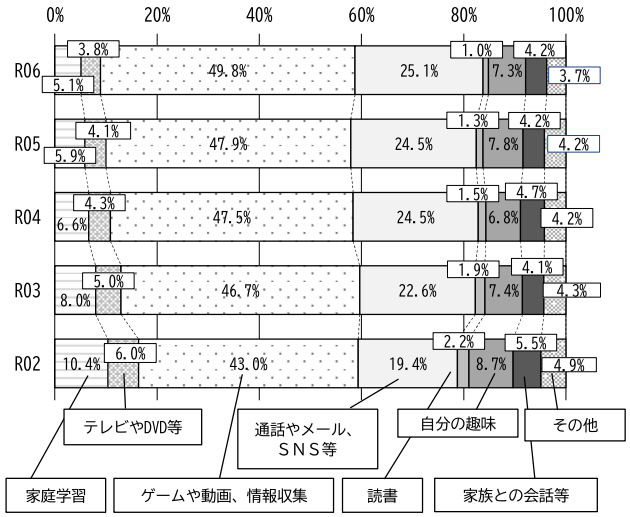


○ １、２年生ともに、「集中できない」と回答した生徒の割合が最も大きく、次いで部活との両立が大きくなっている。

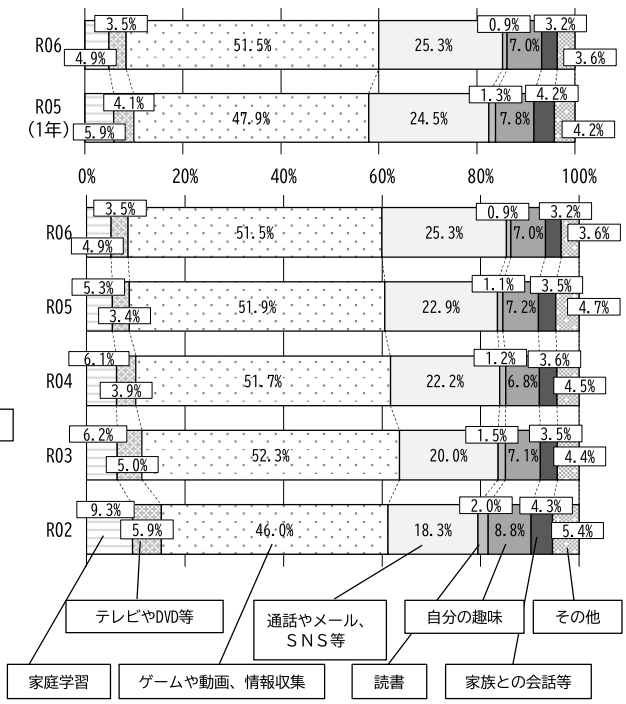
○ １、２年生ともに、「方法が分からない」と回答した生徒の割合は減少傾向である。

② 平日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか【Ｑ２２】

〔１年生〕



〔２年生〕

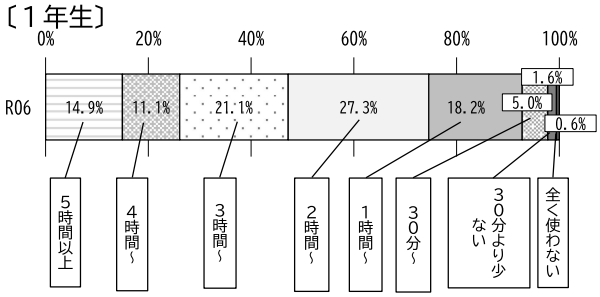


○ １、２年生ともに、スマートフォンや携帯電話での「ゲームや動画、情報収集」、「通話やメール、ＳＮＳ等」に時間を費やす生徒の割合が、合わせて約７割を超える。一方で、「家庭学習」は、減少傾向にある。

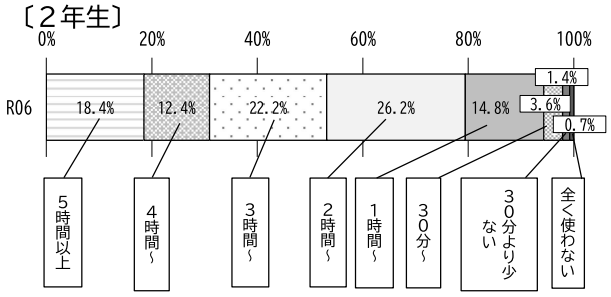
（12）スマートフォンや携帯電話の使用時間と使用する場面について

① 平日に、スマートフォンや携帯電話を勉強以外で使う時間はどのくらいですか【Ｑ２３】

〔１年生〕



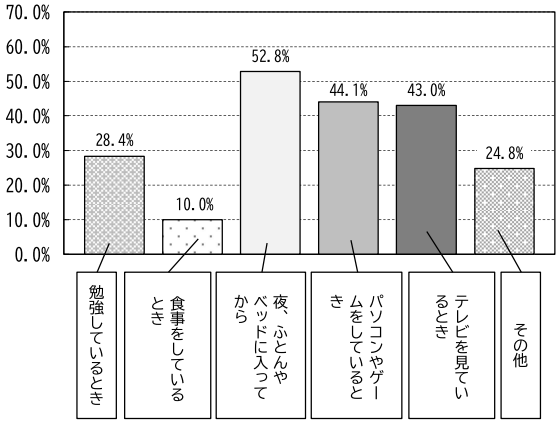
〔２年生〕



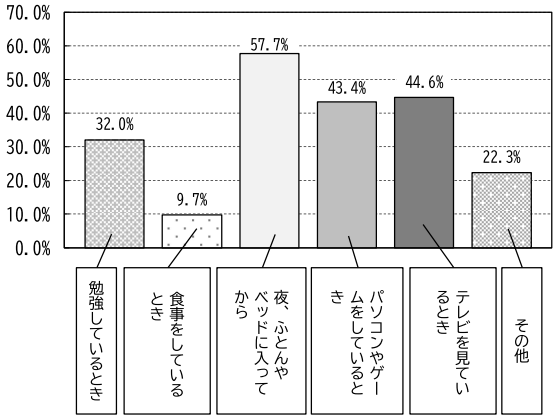
○ スマートフォンや携帯電話を平日に３時間以上使用している生徒は、２年生では５割を超える。

② 普段、次のような時に、スマートフォンや携帯電話でやりとりをすることがありますか【Ｑ３０】

〔１年生〕

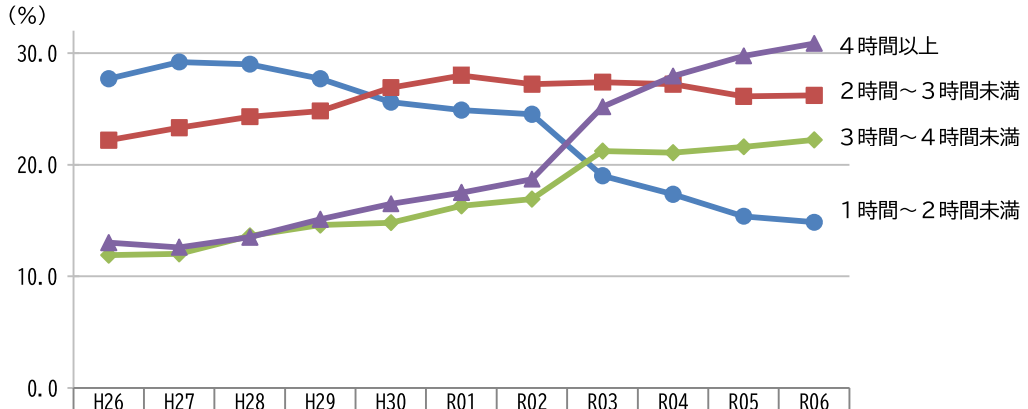


〔２年生〕



○ １、２年生ともに、「夜、ふとんやベッドに入ってから」の割合が５割を超えており、２年生では、６割に迫ってきている。年々、増加傾向にある。

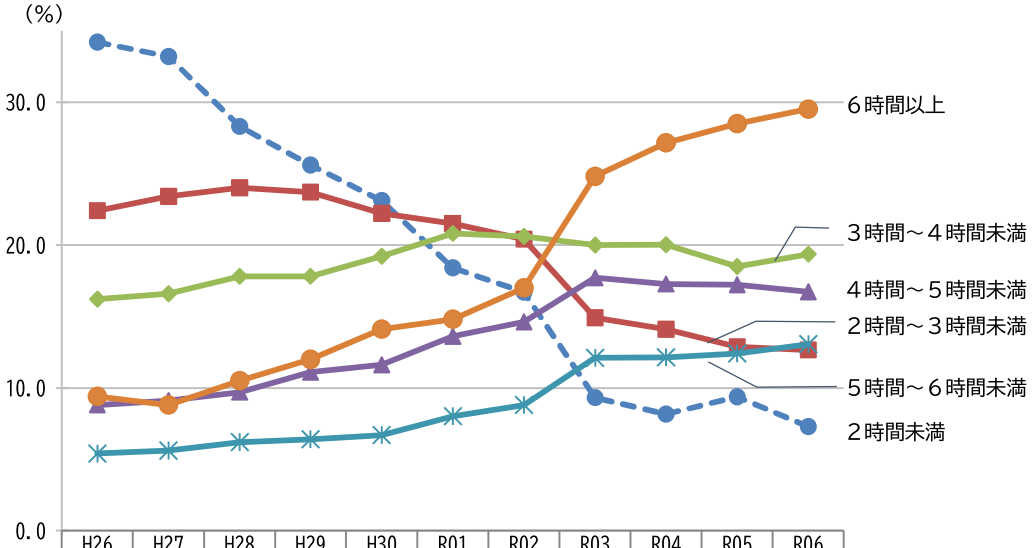
③ 平日に、スマートフォンや携帯電話を勉強以外で使う時間はどのくらいですか（２年生）【Ｑ２３】
※本項目の統計開始年度からの推移



	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06
１時間～２時間未満	27.7	29.2	29.0	27.7	25.6	24.9	24.5	19.0	17.3	15.4	14.8
２時間～３時間未満	22.2	23.3	24.3	24.8	26.9	28.0	27.2	27.4	27.2	26.1	26.2
３時間～４時間未満	11.9	12.0	13.6	14.6	14.8	16.3	16.9	21.2	21.1	21.6	22.2
４時間以上	13.0	12.6	13.5	15.1	16.5	17.5	18.7	25.2	27.9	29.7	30.9

○ スマートフォンの使用時間は長期的にみて増加の一途にある。特に、感染予防措置としての休校があったＲ２を境に、「１時間～２時間未満」が大きく減少し、一方、「４時間以上」が大きく増加し、高止まりしている。
○ 「４時間以上」「３時間～４時間未満」スマートフォンを使っている生徒の割合が、増加傾向にある。

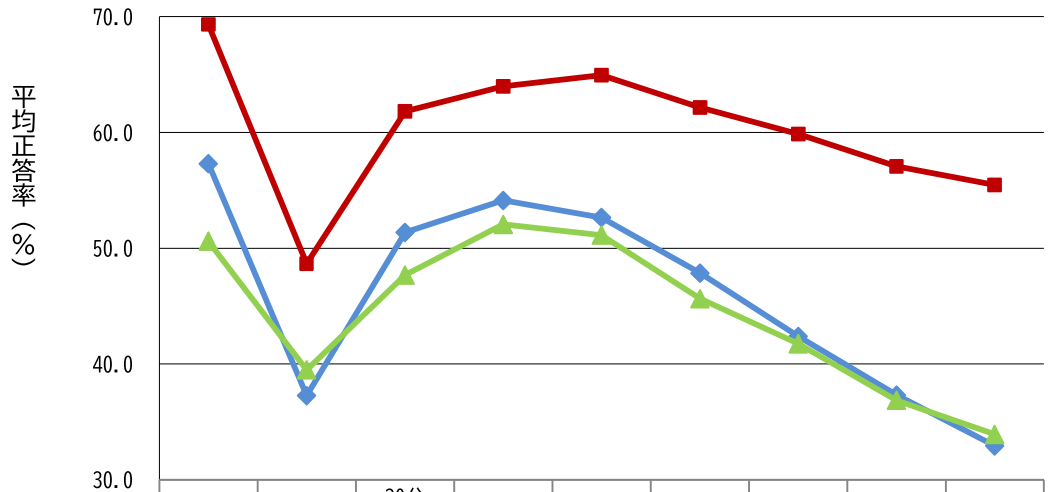
④　休日に、スマートフォンや携帯電話を勉強以外で使う時間はどのくらいですか（２年生）【Ｑ２７】
※本項目の統計開始年度からの推移



	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06
２時間未満	34.2	33.2	28.3	25.6	23.1	18.4	16.7	9.3	8.2	9.4	7.3
２時間～３時間未満	22.4	23.4	24.0	23.7	22.2	21.5	20.4	14.9	14.1	12.9	12.7
３時間～４時間未満	16.2	16.6	17.8	17.8	19.2	20.8	20.6	20.0	20.0	18.5	19.4
４時間～５時間未満	8.8	9.1	9.7	11.1	11.6	13.6	14.6	17.7	17.3	17.2	16.7
５時間～６時間未満	5.4	5.6	6.2	6.4	6.7	8.0	8.8	12.1	12.1	12.4	13.0
６時間以上	9.4	8.8	10.5	12.0	14.1	14.8	17.0	24.8	27.2	28.5	29.5

○　休日も平日と同様に、Ｒ２を境に、長時間スマートフォンを使用している生徒が大きく増加し、高止まりしている。特に、「６時間以上」の増加の度合は著しく、「５時間～６時間未満」も増加傾向にある。一方で、「２時間未満」「２時間～３時間未満」が減少し、極めて長時間スマートフォンを使う習慣が定着つつあり、引き続き十分な注意が必要である。

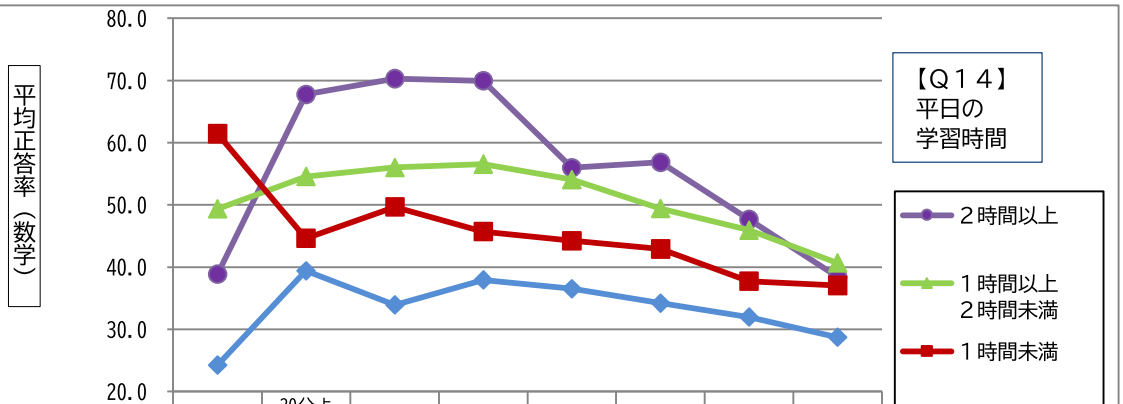
⑤　使用時間と正答率



	持っていない	使わない	30分より少ない	30分～	1時間～	2時間～	3時間～	4時間～	5時間～
国語正答率	69.3	48.7	61.8	64.0	65.0	62.2	59.9	57.1	55.5
数学　〃	57.3	37.2	51.4	54.1	52.7	47.8	42.4	37.3	32.9
英語　〃	50.6	39.5	47.7	52.1	51.1	45.6	41.8	36.9	33.9

○　スマートフォン等を使用していると回答した中では、「３０分～」「１時間～」と回答したグループの正答率が高い。「２時間～」を超えると正答率は減少している。また、使用時間が長いグループほど正答率が低いことがみて取れる。数学と英語では、国語に比べ、正答率の下がる割合が大きい。

⑥　学習時間とスマートフォンや携帯電話の使用時間、数学の正答率



	使わない	30分より少ない	30分～	１時間～	２時間～	３時間～	４時間～	５時間～
２時間以上	38.9	67.7	70.3	69.9	56.0	56.9	47.7	38.4
１時間以上２時間未満	49.4	54.6	56.0	56.5	54.1	49.4	45.9	40.7
１時間未満	61.5	44.6	49.6	45.7	44.3	42.9	37.7	37.0
全く、またはほとんどしない	24.3	39.4	33.9	37.9	36.5	34.2	31.9	28.8

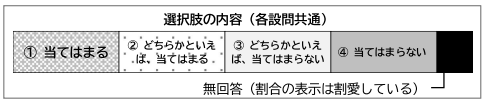
【Ｑ２３】　スマートフォンや携帯電話の使用時間

○　スマートフォン等の使用時間が同じならば、学習時間が長いほど正答率は高い傾向がみられるが、使用時間が長くなるにつれて、学習時間による違いが小さくなっていることが分かる。５時間以上使用しているグループの平均正答率は、２時間以上勉強していても、１時間未満よりも低い正答率となっている。このことから、使用時間が学習効果を打ち消している可能性がある。

○　この傾向は、国語、英語の正答率をみた場合においても同様である。

○　スマートフォンの使用については、長時間使用することは避け、使用時間を決めて使用するなど、節度を持って使用するといったルール作りが大切で、そのためには、家庭との協力が重要である。

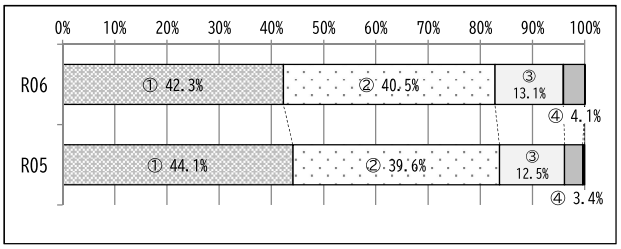
2 心身の健康、志教育等



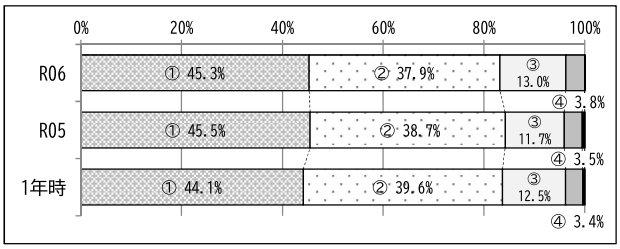
（１）心と体の安定について

① 毎日同じくらいの時刻に寝ている(生活習慣について)【Ｑ３３】

〔１年生〕



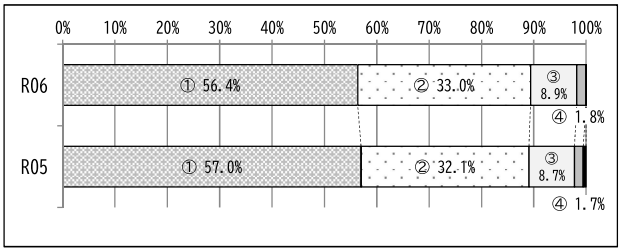
〔２年生〕



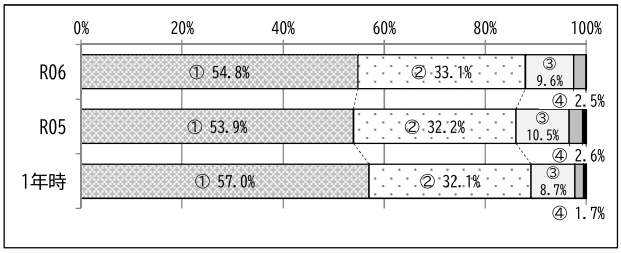
○ １、２年生ともに回答の内訳に大きな変化はないが、１年生の「①当てはまる」が減少している。

② 体調はよい(生活習慣について)【Ｑ３４】

〔１年生〕



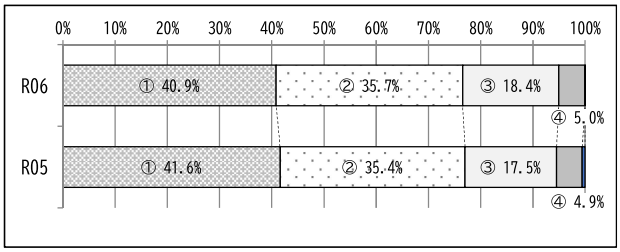
〔２年生〕



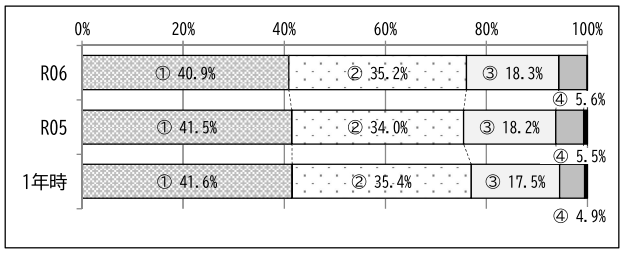
○ １年生は、回答の内訳に大きな変化はない。２年生は、１年時と比較して、「①当てはまる」が減少している。

③ 熟睡ができている(睡眠について)【Ｑ３５】

〔１年生〕



〔２年生〕

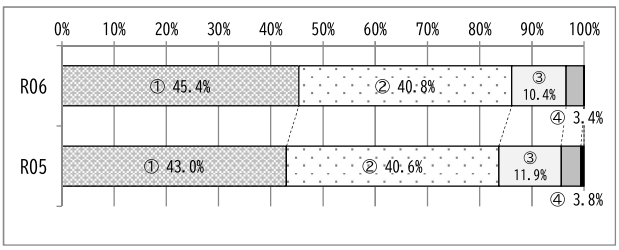


○ 回答に大きな変化は見られないが、１、２年生とも「①当てはまる」の割合がやや減少している。
○ ２年生は、１年時と比較して、肯定的な回答がやや減少している。

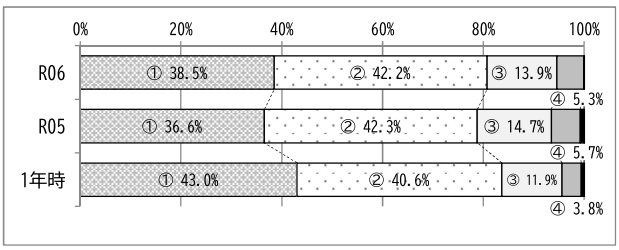
（２）学校生活について

① 学校生活に充実感や満足感を感じている(学校生活について)【Ｑ３６】

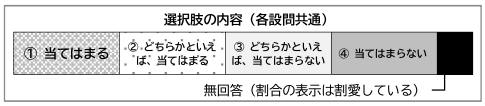
〔１年生〕



〔２年生〕



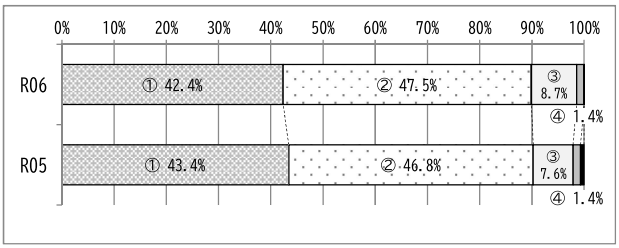
○ １、２年生ともに、「①当てはまる」の割合が増加している。一方で、２年生は、１年時と比較して、肯定的回答が減少する傾向が長期的に続いている。ただし、減少率は、Ｒ６年度は過去１０年間で最小だった。



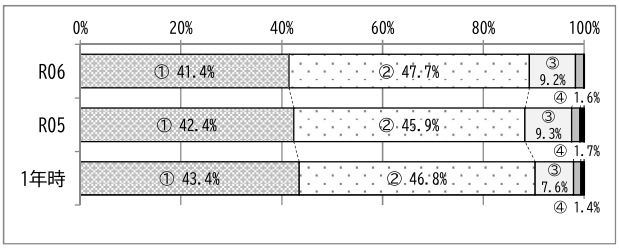
（３）「志教育」に係る意識について １

① 人が困っている時は、進んで助けるようにしている〈かかわる〉（他者理解について）【Ｑ３９】

〔１年生〕



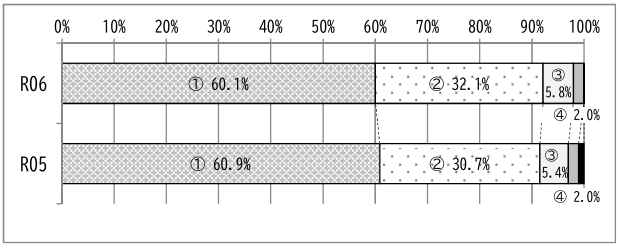
〔２年生〕



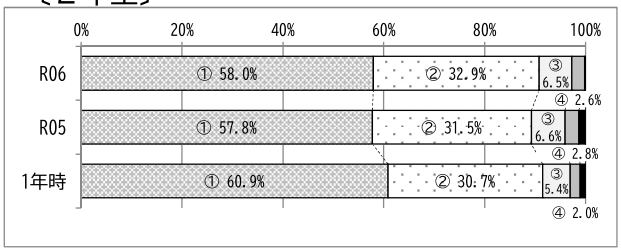
○ １、２年生ともに、肯定的回答が約９割である。２年生は、１年時と比較して、肯定的回答の割合がやや減少している。

② 人の役に立つ人間になりたいと思っている〈もとめる〉（志について）【Ｑ４６】

〔１年生〕



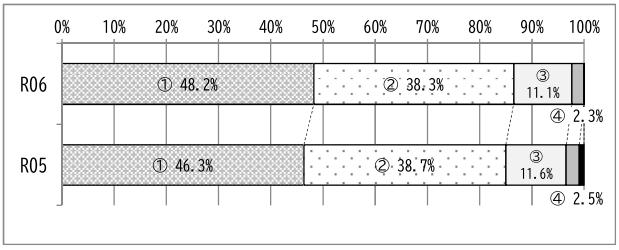
〔２年生〕



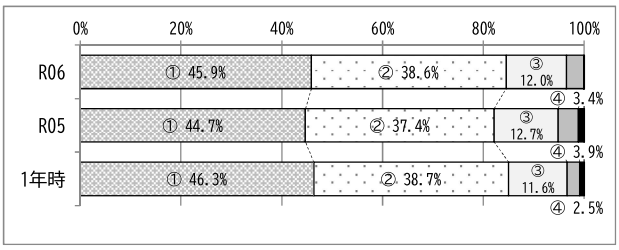
○ １、２年生ともに、肯定的回答が９割を超える。２年生は、１年時と比較して、「①当てはまる」の割合が減少している。

③ クラスや学校の行事等に積極的に取り組んでいる〈はたす〉（学校行事について）【Ｑ５８】

〔１年生〕



〔２年生〕

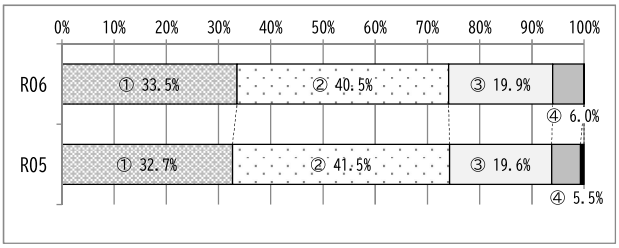


○ １年生は、「①当てはまる」の回答が増加した。２年生は、昨年度との比較では「①当てはまる」の割合が増加したが、１年時との比較では、肯定的回答の割合が減少している。

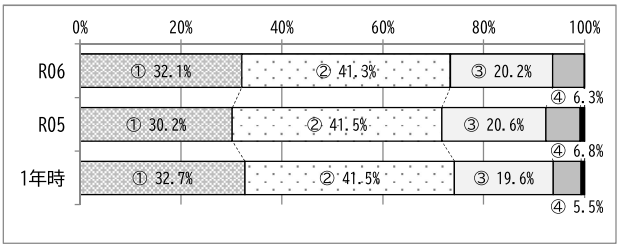
（４）「志教育」に係る意識について ２

① 自分の個性や適性が分かっている〈もとめる〉（自己理解について）【Ｑ４９】

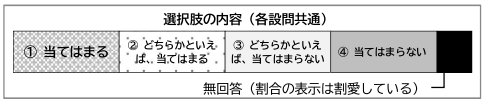
〔１年生〕



〔２年生〕

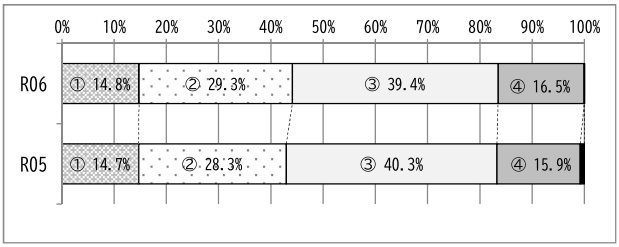


○ １、２年生ともに、「①当てはまる」と回答した生徒が増加している。

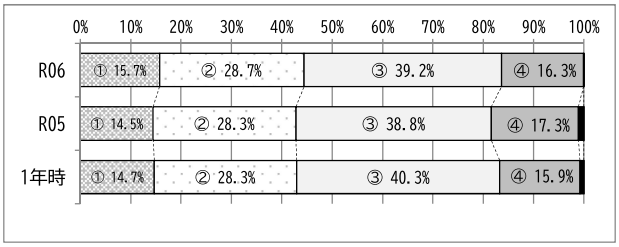


② 自分の個性や適性が、学校や社会でどのように生かせるかをイメージできている〈もとめる・はたす〉（有用感について）【Ｑ５０】

〔１年生〕



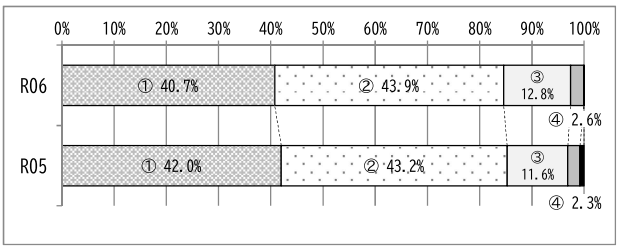
〔２年生〕



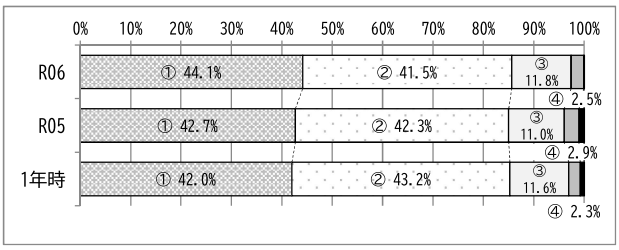
○ １、２年生ともに、肯定的回答は45%程度で、Ｑ４９と比較すると、肯定的回答の割合が小さい。自分の個性や適性がが理解できていても、それを社会においてどのように生かせるかを十分イメージできていないことが分かる。
なお、肯定的回答割合は、初回調査の令和２年度（40%程度）からは増加し続けている。

③ 働くことの意義を理解している〈はたす・もとめる〉（勤労観・職業観について）【Ｑ５５】

〔１年生〕



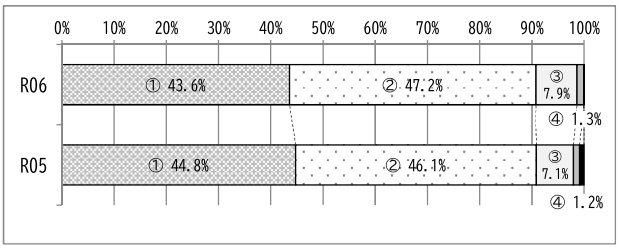
〔２年生〕



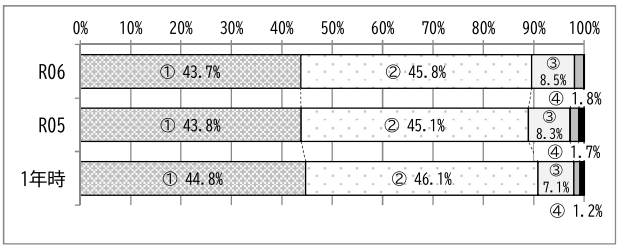
○ １年生では、「①当てはまる」と回答した生徒が減っている。２年生では「①当てはまる」と回答した割合は増加し、１年時との比較でも、増加している。

④ 自分の役割に責任を持って行動している〈はたす・もとめる〉（有用感について）【Ｑ５７】

〔１年生〕



〔２年生〕



○ １年生では、「①当てはまる」の割合が減少している。２年生は、１年時との比較でも、肯定的回答の割合がやや減少している。

Ⅳ 学力向上に向けた今後の取組

急激に変化していくこれからの社会の中で、一人一人の生徒が課題を見いだし、学び、考え、判断、行動し、持続可能な社会の創り手となるために、次の3つの資質・能力の育成を目指す。

- ○ 実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」
- ○ 未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力」
- ○ 学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性」

そのために、以下の取組を行う。

○ 「主体的・対話的で深い学び」と「目標や振り返りを意識した授業」の実践

ICT を最大限活用して、これまで以上に個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させることにより、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。また、各単元の開始時などに、単元の学習目標や評価規準を生徒に示し、「目標や振り返りを意識した授業」を実践するとともに、学んだことを次の学びや生活に生かす力を育み、生徒が自己調整しながら、粘り強く学習に取り組む姿勢を養う。

○ 「探究的な学び」の充実

総合的な探究の時間のみならず、各教科・科目の授業においても「探究的な学び」の充実を図る。生徒が良質な問いをつくることができるような問いの焦点を示し、ウェビングや KJ 法等の考えるための技法を自在に活用しながら問いと向き合い、「探究のスパイラル」を経ることで、思考を深めることを目指す。

○ 家庭と学校が連携し、基本的生活習慣を確立する力を育成、情報モラル教育を充実

スマートフォンや SNS は高い利便性を持つ一方で、長時間使用や依存により学習時間や睡眠時間が減少するなど、負の影響を及ぼす一面もある。日常生活を振り返り、生活習慣を主体的に改善しようとする態度を養うことが必要となる。また、フィルターバブル現象など、情報を検索した際に自分の好む情報だけに囲まれ、多様な意見から隔離されやすくなるなどの課題もある。他者の意見に触れ、自分の考えを広げる機会を意図的に設けるとともに、家庭と学校が連携して情報モラル教育を充実させることも大切である。

○ 「志教育」の充実

自身の特性や長所を、社会や集団の中でどのように生かせるか把握できていない生徒もいるため、社会人講師を招いての講演会や、地域と連携した活動等をとおして社会性や勤労観を養い、社会や集団の中で果たすべき自己の役割を考えさせながら、将来の社会人としてのよりよい生き方を主体的に求めさせていく。

学 力 向 上

↑

主体的・対話的で深い学び	充実した探究活動	学習意欲の喚起

↑

＜ 各学校 ＞

- ○ 学力・学習状況等の把握、生徒との面談
- ○ 指導力・授業力向上研修
- ○ 指導の手引き、事例集等の活用
- ○ 「志教育」の推進
- ○ 家庭、県教委や関係機関との連携

＜ 家庭 ＞

- ○ 生活習慣の改善を促す
  - □ 状況の把握と情報共有
  - □ 家庭内での話合い
  - □ 家庭学習時間の確保
- ○ 学校、県教委との連携

＜ 県教育委員会 ＞

○学力・学習状況等調査	○高大連携事業	○クラフトマン21事業
○授業力向上支援	○魅力ある県立学校づくり	○進路達成支援事業等
○学びの基礎づくり支援	○特色ある県立学校づくり	○高校生マナーアップ運動
○地域進学重点校改革推進	○SSH、IB	○高校生フォーラムの開催
○みやぎ高校生異文化交流	○理系人材育成支援	○ネットパトロール

Ⅴ　学習状況に関する調査　設問ごとの結果

※ 表中の数値は選択割合（%）
（無回答・マークミス等の割合は示していない）

Q１　高校卒業後、進みたいと考えている進路のうち、現在、最も強く希望しているものはどれですか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	23.8	23.1	43.5	43.3	47.0	45.1	26.8	27.3	21.7	22.0	37.4	36.6	① ４年制国公立大学
R05	23.3	22.2	43.3	41.9	48.0	45.5	26.7	24.7	22.4	23.0	37.5	35.9	
R06	9.0	16.1	15.1	18.6	16.9	21.1	7.9	13.5	9.9	17.7	13.4	18.3	② ４年制私立大学
R05	7.9	12.8	12.7	19.2	14.7	22.0	8.6	13.7	10.1	14.4	11.9	18.0	
R06	1.7	1.8	1.7	1.9	1.5	1.5	2.4	2.7	2.8	2.8	1.9	2.0	③ 短期大学
R05	1.9	1.9	1.7	2.3	1.8	2.1	2.6	3.1	2.6	3.1	2.0	2.4	
R06	13.9	18.3	11.5	13.0	13.6	14.1	18.0	17.8	20.0	21.1	14.7	15.7	④ 専修学校(専門学校等)・各種学校
R05	16.8	18.1	12.3	12.1	12.0	13.6	19.2	18.4	21.3	22.8	15.0	15.7	
R06	16.8	20.6	10.2	13.7	5.9	8.4	16.8	20.0	11.9	17.1	10.6	14.0	⑤ 民間就職
R05	15.2	23.7	10.4	12.2	6.9	8.0	13.9	21.6	14.0	15.9	10.7	13.9	
R06	6.3	3.8	2.2	2.1	2.3	2.2	6.1	6.8	5.2	5.3	3.6	3.5	⑥ 公務員就職
R05	4.6	5.7	2.3	2.6	2.1	1.8	6.3	6.1	3.7	5.4	3.3	3.6	
R06	0.3	0.2	0.3	0.1	0.1	0.1	0.4	0.4	0.3	0.2	0.2	0.2	⑦ 家業
R05	0.1	0.0	0.2	0.1	0.1	0.1	0.7	0.4	0.4	0.4	0.3	0.2	
R06	22.9	11.9	14.8	6.5	11.6	6.3	20.4	10.7	25.8	12.5	16.7	8.4	⑧ 未定
R05	24.3	12.3	15.0	7.0	13.0	5.8	20.9	10.8	23.8	13.3	17.3	8.5	
R06	5.3	4.3	0.8	0.6	1.1	1.2	1.3	0.8	2.2	1.3	1.6	1.3	⑨ その他
R05	6.0	3.3	1.1	0.9	1.3	1.0	1.1	1.2	1.7	1.6	1.7	1.3	

Q２　自分の進路希望の達成について、どのように考えていますか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	49.5	57.7	59.2	67.1	59.5	67.8	52.1	59.9	45.9	58.9	55.6	64.2	① 卒業までに達成しようと思っている
R05	51.7	57.6	60.9	66.0	59.6	67.0	52.5	62.6	50.7	59.1	56.8	64.1	
R06	11.3	10.9	9.0	7.1	8.9	7.7	12.9	10.4	14.8	9.7	10.6	8.6	② 達成するまで、卒業後１、２年かかってもかまわないと思っている
R05	14.2	10.9	9.5	7.5	10.1	6.9	13.5	10.1	15.1	12.2	11.6	8.7	
R06	18.7	13.8	17.6	12.7	18.4	13.6	18.5	15.8	18.6	15.5	18.2	14.0	③ 達成が困難な場合、卒業までに他の進路に変えてもいいと思っている
R05	16.5	15.3	15.8	13.4	18.1	13.5	19.1	14.5	16.9	16.0	17.4	14.2	
R06	14.4	12.9	10.8	10.1	10.5	8.0	11.9	10.1	13.7	11.6	11.6	9.8	④ 何とかなるだろうと思っている
R05	11.8	11.2	8.9	8.0	8.3	9.5	9.6	8.7	11.9	9.3	9.5	9.1	
R06	6.1	4.7	3.4	2.9	2.8	2.8	4.6	3.8	7.0	4.2	4.1	3.3	⑤ あまり考えないようにしている
R05	5.8	4.9	3.4	3.0	3.8	3.0	5.1	4.1	5.4	3.3	4.3	3.4	

Q３　普段どんな気持ちで勉強していますか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	8.3	7.6	10.2	9.2	10.7	7.7	12.9	9.4	9.5	7.6	10.6	8.4	① わからないことでも自分の力で答えを見つけられるようになりたい
R05	9.1	8.6	10.5	8.4	10.0	8.0	11.5	8.9	10.3	7.7	10.3	8.3	
R06	13.1	9.9	10.6	9.9	10.6	9.3	11.1	9.6	10.0	10.1	10.8	9.7	② 多くのことを知り、社会に出て役立つ力を身に付けたい
R05	12.2	9.2	10.2	8.3	11.4	8.5	11.8	10.1	11.7	10.0	11.3	9.0	
R06	13.8	15.9	17.9	19.5	16.5	18.4	12.0	16.5	11.8	14.2	15.3	17.6	③ 入学試験や就職試験に備えたい
R05	13.9	13.8	16.7	17.5	17.1	17.6	12.8	13.3	12.4	14.5	15.3	16.1	
R06	2.2	2.0	2.9	2.7	3.2	2.1	2.5	2.0	4.2	2.5	3.1	2.3	④ 親や先生にほめられたい
R05	2.2	2.1	3.4	1.7	2.7	1.9	2.1	2.1	2.7	3.1	2.7	2.1	
R06	37.9	35.6	37.6	34.7	38.1	38.2	37.7	37.0	38.3	36.9	37.9	36.7	⑤ 成績を上げたい
R05	37.8	35.7	37.3	37.8	37.6	39.0	40.9	39.6	39.5	37.5	38.3	38.3	
R06	4.3	2.9	3.9	3.3	3.3	3.7	4.2	3.2	3.8	4.2	3.8	3.5	⑥ 先生や家族に言われているから勉強している
R05	3.4	2.7	3.3	3.4	3.5	3.3	3.1	3.0	3.0	3.6	3.3	3.3	
R06	18.7	24.4	15.1	18.6	15.8	19.2	18.4	20.9	20.6	22.5	16.9	20.2	⑦ 特に考えていない
R05	19.5	26.2	15.4	18.9	15.5	19.2	16.4	21.4	18.9	21.8	16.5	20.5	
R06	1.7	1.7	1.8	1.9	1.8	1.3	1.2	1.4	1.7	1.9	1.7	1.6	⑧ その他
R05	1.9	1.6	1.6	2.1	2.1	2.4	1.3	1.5	1.5	1.7	1.7	2.0	

Q４　授業の内容がどの程度理解できますか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	11.5	9.6	11.8	11.1	10.2	11.2	12.7	11.3	11.2	11.1	11.3	11.0	① ほとんどの授業がよく理解できる
R05	11.5	9.5	12.7	11.9	10.6	11.1	11.0	9.2	12.2	11.3	11.5	10.9	
R06	46.9	44.2	50.8	48.8	49.2	47.3	47.2	43.8	45.4	45.0	48.6	46.5	② 理解できる授業の方が多い
R05	49.8	44.3	51.7	44.6	52.6	46.7	49.3	44.9	50.0	45.7	51.2	45.5	
R06	36.8	39.4	33.4	33.8	35.3	34.9	34.9	39.2	36.2	37.5	35.0	36.1	③ 理解できる授業と理解できない授業が半分くらいずつある
R05	33.5	38.2	29.9	34.6	31.9	35.0	34.6	38.6	33.1	36.4	32.1	36.0	
R06	4.2	5.4	3.8	5.3	4.9	5.7	4.6	5.0	6.0	5.7	4.6	5.4	④ 理解できない授業の方が多い
R05	3.8	7.2	3.3	5.3	4.2	5.9	4.3	6.2	4.0	4.3	3.9	5.7	
R06	0.5	1.4	0.2	0.9	0.4	0.9	0.5	0.7	1.3	0.6	0.5	0.9	⑤ ほとんどの授業が理解できない
R05	1.1	0.7	0.6	1.1	0.6	1.0	0.7	1.0	0.6	2.2	0.6	1.2	

Ｑ５　授業でわからないことがあったら、どうすることが多いですか。（該当するものをすべて選んでください。）

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	63.3	65.9	70.4	72.7	70.4	74.5	62.4	66.9	60.9	66.8	67.2	71.0	ア 自分で調べる
R05	64.6	60.4	73.1	71.9	72.7	74.8	70.4	66.8	66.3	68.9	70.8	70.6	
R06	35.2	37.7	32.6	30.1	33.1	31.7	35.3	34.5	38.4	39.6	34.2	33.4	イ 学校の先生に質問する
R05	37.6	41.7	34.1	32.5	33.2	34.3	36.3	36.4	35.2	42.9	34.6	36.0	
R06	75.7	69.2	72.7	71.3	76.4	73.4	74.0	74.4	73.8	72.8	74.7	72.6	ウ 友達に聞く
R05	74.0	72.7	73.0	71.9	77.2	74.8	75.4	73.3	76.1	75.7	75.4	73.7	
R06	11.4	8.3	15.2	11.8	16.7	11.3	11.2	7.7	12.4	8.4	14.4	10.2	エ 家族に聞く
R05	12.5	7.4	17.7	10.6	17.4	12.5	13.0	8.3	12.7	9.5	15.7	10.4	
R06	9.9	7.8	16.4	13.5	15.1	13.1	9.1	10.1	12.5	11.7	13.6	12.0	オ 塾・予備校や家庭教師の先生に質問する
R05	8.3	7.2	16.4	15.4	14.8	13.1	11.7	10.5	13.7	11.6	13.9	12.5	
R06	12.5	14.9	11.1	14.2	11.5	13.0	9.9	11.6	13.0	12.1	11.4	13.1	カ そのままにしておく
R05	13.3	11.5	9.6	14.8	9.9	14.1	9.7	11.9	9.6	13.3	10.1	13.6	
R06	1.3	0.7	1.3	1.4	1.1	1.4	0.8	0.9	1.4	1.8	1.1	1.3	キ その他
R05	1.3	0.9	1.4	1.5	1.0	1.5	1.3	1.4	1.7	2.0	1.3	1.5	

Ｑ６　授業のはじめに学習の目標が示されたり、授業の終わりに学習のまとめや振り返りが行われたりしていますか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	17.9	14.0	12.9	11.4	13.9	11.5	20.2	15.6	17.0	14.0	15.5	12.7	① ほとんどの授業で行われている
R05	16.1	12.4	12.2	9.7	13.0	11.3	18.8	14.6	18.4	14.1	14.8	11.9	
R06	48.9	48.1	43.3	40.1	45.1	40.4	51.8	44.8	51.9	48.3	47.0	42.8	② 多くの授業で行われている
R05	48.6	48.9	41.9	37.5	48.4	41.1	50.6	42.7	53.0	47.3	47.7	42.0	
R06	29.6	33.2	37.1	39.1	35.9	40.0	25.6	34.5	28.5	32.9	33.0	37.3	③ 行われている授業は少ない
R05	32.2	33.4	36.7	41.0	34.4	39.0	27.4	35.7	26.6	34.1	32.6	37.8	
R06	3.5	4.6	6.6	9.3	5.0	8.1	2.3	5.1	2.6	4.7	4.6	7.1	④ 行われている授業はほとんどない
R05	3.0	5.4	7.6	9.9	4.2	8.6	3.2	7.0	1.9	4.5	4.5	7.8	

Ｑ７　授業の中で、自分の考えを発表したり、考えたことをペアや小グループで話し合ったりする時間がありますか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	18.0	14.7	25.6	19.1	32.6	30.0	26.4	18.0	24.2	21.0	27.4	22.6	① ほとんどの授業でそのような時間がある
R05	15.2	14.6	18.9	16.1	33.8	27.6	21.7	19.7	23.9	18.3	24.9	20.9	
R06	63.1	60.2	55.6	59.1	55.4	51.4	62.2	57.7	53.9	53.2	57.1	55.5	② 多くの授業でそのような時間がある
R05	64.0	55.5	63.1	55.6	52.5	50.9	61.2	54.5	56.5	53.6	58.3	53.5	
R06	18.3	23.5	17.7	20.6	11.5	17.4	11.0	22.6	20.4	24.1	14.8	20.5	③ そのような時間がある授業は少ない
R05	20.4	28.0	15.9	23.3	13.0	20.2	16.5	23.8	18.9	26.0	15.8	23.1	
R06	0.6	1.6	1.2	1.2	0.6	1.1	0.4	1.8	1.5	1.7	0.8	1.4	④ そのような時間がある授業はほとんどない
R05	0.3	1.8	0.5	2.3	0.6	1.3	0.6	2.0	0.7	1.9	0.6	1.8	

Ｑ８　授業の中で、あなたが課題を見つけたり、解決したりする時間がありますか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	17.6	15.4	17.3	14.6	19.0	16.5	22.0	17.2	20.1	16.0	19.1	16.0	① ほとんどの授業でそのような時間がある
R05	14.7	14.5	16.1	13.5	20.5	18.3	19.6	17.6	19.4	12.9	18.5	15.9	
R06	54.5	53.1	53.6	52.1	53.5	52.2	54.6	54.4	51.8	51.6	53.6	52.5	② 多くの授業でそのような時間がある
R05	52.5	53.6	51.2	48.6	52.8	49.6	55.4	52.2	54.8	53.4	53.1	50.7	
R06	25.9	28.1	26.0	29.3	25.3	27.8	21.2	25.4	25.2	29.6	24.9	28.1	③ そのような時間がある授業は少ない
R05	30.6	28.1	28.0	30.4	24.2	28.7	22.8	26.6	23.2	30.1	25.4	28.9	
R06	1.9	3.4	3.1	4.0	2.2	3.4	2.2	3.0	2.8	2.7	2.5	3.4	④ そのような時間がある授業はほとんどない
R05	1.9	3.8	2.8	4.4	2.5	3.3	2.2	3.5	2.4	3.5	2.5	3.7	

Ｑ９　授業の中で、生徒がタブレットやパソコンなどのＩＣＴ機器を使用していますか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	28.1	23.5	16.6	15.4	34.3	32.9	27.1	27.1	22.1	24.2	26.4	25.4	① ほとんどの授業で使用している
R05	17.3	14.2	9.8	10.2	27.5	26.4	23.2	23.2	13.3	20.7	19.4	19.9	
R06	44.2	45.9	43.1	40.6	41.5	44.8	43.2	47.0	36.0	46.0	41.7	44.4	② 多くの授業で使用している
R05	40.9	33.3	30.6	26.6	39.7	39.1	35.8	35.4	42.2	43.5	37.2	35.4	
R06	25.0	28.3	37.2	37.8	20.8	19.9	26.7	24.4	33.1	25.6	28.0	26.8	③ 使用している授業は少ない
R05	36.6	40.1	43.6	48.8	28.9	30.5	31.3	29.5	38.6	27.8	35.1	35.5	
R06	2.7	2.3	3.1	6.1	3.4	2.3	3.0	1.6	8.7	4.1	3.9	3.4	④ 使用している授業はほとんどない
R05	5.0	12.5	13.4	10.9	4.0	3.9	9.7	11.7	5.9	7.8	7.7	8.3	

Ｑ１０　授業でもっとタブレットやパソコンなどのＩＣＴ機器を活用したいと思いますか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	39.1	37.9	33.5	36.6	37.6	44.1	39.4	41.9	35.1	42.1	36.7	41.0	① 活用したいと思う
R05	36.1	32.6	36.5	34.1	41.4	43.2	39.7	41.7	37.1	41.4	38.8	39.4	
R06	47.3	45.7	47.0	41.2	45.5	39.9	47.8	44.0	47.7	44.1	46.7	42.0	② どちらかといえば、活用したいと思う
R05	47.1	45.1	41.3	39.4	42.6	38.6	46.8	41.9	47.8	41.5	44.1	40.3	
R06	10.9	12.5	14.8	15.9	13.2	11.9	9.5	11.5	12.1	10.3	12.6	12.7	③ どちらかといえば、活用したいと思わない
R05	12.8	14.3	14.2	15.9	11.7	12.6	10.1	12.1	12.0	12.4	12.2	13.5	
R06	2.8	3.8	4.7	6.2	3.6	4.1	3.3	2.6	5.2	3.4	4.0	4.3	④ 活用したいと思わない
R05	3.9	8.1	5.8	7.2	4.3	5.6	3.3	4.2	3.1	4.5	4.3	5.8	

Ｑ１１　学校からどのくらいの割合で宿題・課題が出されていますか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	13.3	9.9	15.4	11.5	18.2	11.3	9.9	5.4	5.9	9.1	14.1	9.9	① ほとんど毎日出ている
R05	6.1	4.7	21.4	10.0	14.0	15.8	6.7	8.5	10.1	5.4	13.4	10.7	
R06	40.4	31.5	49.6	44.4	43.3	37.4	47.7	33.4	47.3	40.3	45.9	38.4	② 週に２～３回出ている
R05	41.8	27.6	49.9	42.6	43.5	35.1	46.7	37.4	43.7	36.1	45.5	36.9	
R06	40.3	42.6	29.2	36.3	29.3	40.7	37.0	53.3	35.9	36.1	32.4	41.2	③ 週に１回くらい出ている
R05	36.6	43.9	22.7	35.3	33.9	36.5	42.2	46.1	35.7	41.1	32.9	39.1	
R06	6.1	16.0	5.8	7.8	9.2	10.6	5.5	7.9	11.0	14.4	7.7	10.4	④ ほとんど出ていない
R05	15.4	23.6	3.6	8.7	8.6	12.5	4.5	8.0	10.4	17.1	7.5	12.4	

Ｑ１２　学校ではどのくらいの割合でテスト（小テストや確認テストを含む。）がありますか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	1.7	1.9	9.5	12.4	5.1	11.0	2.4	8.0	2.4	5.2	5.1	9.3	① ほとんど毎日ある
R05	4.0	7.7	8.8	11.6	4.2	7.9	5.3	5.9	4.6	4.9	5.6	8.1	
R06	23.1	19.2	45.4	45.4	43.1	51.0	32.2	39.5	43.4	44.0	40.1	43.8	② 週に２～３回ある
R05	23.1	21.9	45.4	41.4	40.3	48.5	37.7	33.3	40.3	28.6	39.5	39.0	
R06	56.0	52.2	36.6	34.4	44.3	29.9	53.9	40.4	39.3	36.6	44.3	35.7	③ 週に１回くらいある
R05	51.1	42.6	38.1	35.3	46.6	33.1	47.5	42.8	43.8	49.2	44.6	38.3	
R06	19.3	26.6	8.5	7.8	7.5	8.1	11.5	12.1	14.9	14.2	10.4	11.2	④ ほとんどない
R05	21.7	27.9	5.9	8.2	8.9	10.4	9.3	18.0	11.2	17.2	9.8	13.6	

Ｑ１３　あなたが受けたい授業はどんな授業ですか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	34.7	33.1	37.7	37.0	36.7	34.7	37.8	35.4	34.7	38.8	36.7	35.8	① 基礎・基本からじっくりわかるまで教えてくれる授業
R05	34.3	34.1	33.8	35.0	34.1	34.2	34.0	35.5	37.4	36.3	34.5	34.9	
R06	8.3	5.8	10.5	9.8	9.7	9.3	8.7	6.5	8.7	7.2	9.5	8.4	② 発展的な内容まで教えてくれる授業
R05	8.1	6.9	10.2	9.3	10.4	9.4	8.3	7.9	8.5	8.1	9.5	8.7	
R06	15.5	11.9	11.3	9.0	12.3	12.4	14.2	13.9	14.0	10.4	12.9	11.5	③ ペアやグループで自分の考えを発表したり、話し合ったりする授業
R05	13.9	12.5	11.6	8.9	13.8	10.5	14.7	11.5	12.2	7.8	13.2	10.1	
R06	26.7	31.4	27.3	28.5	28.4	28.8	27.4	29.5	28.5	26.1	27.8	28.7	④ 興味や関心がもてるような授業
R05	28.7	30.0	29.0	29.1	29.3	30.8	29.5	28.4	26.6	26.8	28.9	29.3	
R06	9.6	12.7	9.7	12.7	10.4	12.6	8.6	11.5	9.4	12.0	9.7	12.4	⑤ 進路希望達成につながる授業
R05	9.9	12.0	10.3	12.6	9.7	12.4	9.5	12.7	10.6	14.7	9.9	12.8	
R06	5.2	5.1	3.6	3.0	2.4	2.2	3.3	3.2	4.8	5.4	3.4	3.3	⑥ 資格取得につながる授業
R05	5.1	4.5	3.5	2.8	2.6	2.8	4.0	3.9	4.7	6.0	3.6	3.6	

Ｑ１４　平日（テスト期間や長期休業中などを除く、通常の月曜日から金曜日）、学校の授業時間以外に１日当たりどのくらいの時間、勉強していますか（塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。）。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	27.2	41.0	19.7	28.7	22.2	30.7	19.3	29.6	26.9	35.8	22.2	31.6	① 全く、またはほとんどしない
R05	29.9	46.1	17.4	29.6	20.3	31.0	18.0	32.1	24.9	39.2	20.7	33.3	
R06	19.9	18.5	14.1	15.8	14.3	16.1	17.3	16.0	14.3	15.1	15.2	16.1	② ３０分より少ない
R05	17.1	14.0	13.6	13.9	16.1	14.8	13.1	13.8	14.0	15.0	14.8	14.4	
R06	18.3	17.5	21.5	18.4	21.9	17.3	24.1	19.8	20.5	18.7	21.7	18.2	③ ３０分～
R05	19.6	15.7	20.1	18.6	21.9	19.2	24.0	19.2	20.0	18.1	21.3	18.6	
R06	23.9	15.3	29.2	22.8	27.4	23.3	27.1	24.9	25.7	19.9	27.3	22.2	④ １時間～
R05	23.3	16.4	28.8	21.6	27.1	20.9	31.6	23.8	29.1	19.1	28.2	20.9	
R06	9.2	6.2	12.5	11.0	11.2	9.9	10.6	8.1	10.1	7.3	11.1	9.2	⑤ ２時間～
R05	7.8	6.4	14.7	11.0	11.3	10.9	11.2	8.8	9.7	6.1	11.6	9.5	
R06	1.1	1.2	2.6	2.7	2.4	2.1	1.2	1.2	1.9	2.3	2.1	2.0	⑥ ３時間～
R05	1.7	0.9	3.0	2.4	2.7	2.6	1.7	1.8	1.7	1.3	2.4	2.1	
R06	0.2	0.1	0.4	0.5	0.4	0.6	0.5	0.2	0.4	0.4	0.4	0.4	⑦ ４時間～
R05	0.4	0.2	0.3	0.5	0.5	0.3	0.3	0.2	0.3	0.5	0.4	0.3	
R06	0.1	0.2	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.2	0.1	0.3	0.1	0.2	⑧ ５時間以上
R05	0.1	0.3	0.2	0.2	0.1	0.3	0.1	0.2	0.1	0.3	0.1	0.3	

Ｑ１５　休日に、１日当たりどのくらいの時間、勉強していますか（塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。）。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	25.8	39.5	18.6	27.0	19.2	27.7	18.7	27.6	27.1	34.2	20.6	29.5	① 全く、またはほとんどしない
R05	28.8	45.0	16.3	27.2	17.6	27.1	15.6	29.9	24.9	37.7	19.0	30.6	
R06	15.4	13.5	11.9	12.0	10.6	11.3	12.8	11.6	11.9	12.5	11.9	11.9	② ３０分より少ない
R05	13.7	12.2	9.6	9.7	11.1	10.5	11.7	11.2	10.4	11.7	11.0	10.8	
R06	15.1	13.4	13.4	13.2	12.7	12.6	16.4	12.5	12.7	12.5	13.7	12.8	③ ３０分～
R05	14.2	9.6	12.8	11.8	13.7	13.0	13.9	11.6	12.7	12.7	13.4	12.1	
R06	23.8	17.4	20.8	17.6	21.7	18.0	24.2	23.6	21.8	18.3	22.1	18.8	④ １時間～
R05	19.5	16.0	20.9	17.8	21.2	17.3	26.4	20.7	24.3	18.6	22.2	18.1	
R06	13.0	9.6	17.5	15.1	18.3	14.1	17.1	14.5	15.5	11.9	17.1	13.7	⑤ ２時間～
R05	14.6	9.6	18.9	14.5	18.0	15.6	19.0	15.5	16.4	11.4	17.9	14.2	
R06	5.0	4.5	10.2	7.8	9.2	8.8	6.6	6.9	7.4	5.6	8.4	7.4	⑥ ３時間～
R05	5.7	5.8	10.2	8.1	9.9	8.5	8.8	7.0	6.9	4.9	9.0	7.4	
R06	1.3	1.3	4.5	3.9	4.6	3.9	2.7	2.1	2.5	2.7	3.7	3.2	⑦ ４時間～
R05	2.0	1.3	5.4	4.7	5.0	3.9	3.0	2.4	2.4	1.4	4.1	3.3	
R06	0.6	0.5	1.7	1.9	2.3	1.7	1.0	0.6	0.6	0.8	1.5	1.4	⑧ ５時間～
R05	1.1	0.1	2.4	2.1	2.0	2.2	1.2	1.2	0.9	0.5	1.7	1.6	
R06	0.0	0.3	0.7	0.7	0.9	1.0	0.4	0.2	0.3	0.8	0.6	0.7	⑨ ６時間～
R05	0.1	0.1	0.9	0.8	0.8	0.9	0.3	0.3	0.7	0.5	0.6	0.6	
R06	0.0	0.2	0.7	0.9	0.5	0.7	0.1	0.3	0.1	0.6	0.4	0.6	⑩ ７時間以上
R05	0.2	0.3	0.4	0.5	0.8	0.9	0.2	0.3	0.3	0.4	0.5	0.6	

Ｑ１６　家庭学習の仕方に、最も近いものはどれですか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	7.2	6.9	18.0	15.3	18.3	17.2	11.7	9.8	10.1	11.4	15.1	13.8	① ほぼ毎日している
R05	8.0	7.5	19.4	15.3	18.2	17.6	14.2	11.4	12.6	9.3	16.1	13.9	
R06	4.9	3.7	5.3	4.8	4.3	4.2	6.5	4.6	4.1	4.4	5.0	4.4	② 主に平日にしている
R05	3.5	3.1	5.5	4.8	4.9	3.7	6.2	4.1	5.6	4.1	5.2	4.0	
R06	8.1	5.2	7.1	6.1	7.8	5.5	8.7	9.5	7.6	5.7	7.8	6.3	③ 主に休日にしている
R05	7.4	5.4	6.8	5.1	7.7	5.7	9.2	8.1	8.7	5.4	7.8	5.9	
R06	14.8	20.5	12.2	17.3	12.5	15.8	13.5	16.6	13.8	19.4	12.9	17.2	④ 主に定期考査前にしている
R05	15.6	21.6	11.4	16.9	13.6	16.1	13.8	16.0	13.7	19.3	13.3	17.2	
R06	7.8	5.3	7.5	5.5	7.1	4.6	9.6	6.0	9.2	4.9	8.0	5.2	⑤ 主に宿題･課題のあるときにしている
R05	7.4	4.4	8.2	5.7	6.4	5.2	8.1	7.2	6.1	5.2	7.2	5.6	
R06	35.0	32.2	34.3	30.3	33.6	30.7	32.8	31.7	31.7	30.6	33.5	30.9	⑥ 主に宿題･課題のあるときと定期考査前にしている
R05	34.5	28.3	33.0	30.9	31.9	31.9	31.1	32.2	33.9	33.2	32.5	31.6	
R06	2.7	1.5	2.0	1.9	1.8	1.6	1.2	1.4	2.0	1.8	1.9	1.7	⑦ 主に塾･予備校のあるときや家庭教師の先生が来るときにしている
R05	1.7	1.4	1.7	2.0	1.8	1.9	1.1	1.1	1.6	1.3	1.6	1.6	
R06	11.4	12.9	9.0	10.6	9.5	10.7	11.4	12.2	12.6	10.4	10.3	11.1	⑧ 気が向いたときにしている
R05	12.9	13.0	8.4	9.1	10.3	10.0	10.9	9.8	11.1	11.9	10.3	10.3	
R06	7.9	11.6	4.3	8.1	4.7	9.4	4.2	8.0	8.5	10.7	5.3	9.2	⑨ 家庭学習はほとんどしない
R05	8.5	15.0	4.0	7.6	5.0	7.7	4.9	9.6	6.2	9.1	5.2	8.9	
R06	0.1	0.3	0.1	0.2	0.4	0.3	0.3	0.2	0.3	0.5	0.3	0.3	⑩ その他
R05	0.3	0.4	0.2	0.3	0.2	0.3	0.4	0.4	0.4	0.8	0.2	0.4	

Ｑ１７　学習塾等（家庭教師の先生に教わっている場合も含む。）で、どのように勉強していますか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	3.6	3.2	8.4	7.6	7.4	7.1	3.9	3.2	4.0	4.3	6.3	5.8	① 学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を勉強している
R05	3.2	3.1	8.3	8.5	8.1	6.9	3.6	3.8	4.6	3.8	6.5	6.0	
R06	12.0	8.1	10.8	10.9	9.8	9.4	10.5	11.9	12.1	10.5	10.7	10.2	② 学校の勉強でよくわからなかった内容を勉強している
R05	9.2	9.1	9.8	9.7	9.7	9.0	12.4	10.2	11.7	10.0	10.4	9.6	
R06	7.4	5.1	9.5	8.6	8.9	8.9	7.1	5.5	8.7	8.3	8.6	7.8	③ 上記①、②の両方の内容を勉強している
R05	5.9	4.9	9.8	8.7	9.0	8.1	7.4	6.8	8.7	7.3	8.6	7.6	
R06	1.1	1.8	1.9	2.4	1.6	2.0	2.1	1.8	1.8	1.7	1.7	2.0	④ 上記①、②の内容のどちらともいえない
R05	1.5	1.9	1.4	1.9	1.8	1.7	1.6	1.3	1.7	1.6	1.6	1.7	
R06	75.9	81.9	69.4	70.6	72.3	72.6	76.3	77.5	73.4	75.1	72.7	74.1	⑤ 学習塾等に通っていない
R05	80.0	80.9	68.9	68.7	71.3	74.3	75.0	77.7	73.2	77.1	72.4	74.4	

Ｑ１８　家庭学習をする上で悩んでいることはありますか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	11.4	10.9	8.8	8.8	9.1	8.5	10.8	10.4	12.0	9.7	9.9	9.3	① 家庭学習の方法が分からない
R05	10.3	11.0	8.3	9.4	9.9	8.5	10.5	11.4	9.9	9.4	9.6	9.6	
R06	23.2	24.9	26.1	27.0	28.2	29.4	25.0	27.4	23.3	25.1	26.1	27.5	② 家庭学習に集中できない
R05	23.5	22.3	25.7	28.2	28.0	28.6	23.6	24.7	22.8	25.6	25.6	26.9	
R06	18.7	17.2	16.8	17.1	15.8	16.4	19.3	17.0	17.2	17.0	17.1	16.8	③ 学習の計画を立てても長続きしない
R05	17.7	13.6	16.7	15.7	17.2	17.7	19.7	19.0	19.0	16.3	17.8	16.9	
R06	17.1	14.8	24.6	18.4	24.2	19.0	15.8	15.8	15.5	13.1	21.2	17.2	④ 家庭学習と部活動の両立が難しい
R05	18.2	16.7	24.7	18.7	22.7	18.7	18.9	13.4	16.8	15.0	21.4	17.1	
R06	4.5	4.1	4.1	5.5	4.5	5.7	4.4	5.1	4.2	5.5	4.4	5.4	⑤ 家庭学習を一生懸命やっても成績が伸びない
R05	4.4	5.1	4.3	4.5	3.9	5.3	4.5	5.6	4.8	5.5	4.3	5.2	
R06	23.7	26.3	17.8	20.4	16.7	18.8	22.8	22.5	25.8	27.1	19.8	21.6	⑥ 特に悩みはない
R05	23.2	28.5	16.4	17.8	16.3	18.6	21.1	23.3	24.7	25.9	18.9	21.1	
R06	1.4	1.9	1.7	2.6	1.4	2.1	1.8	1.8	1.9	2.3	1.6	2.2	⑦ その他
R05	2.5	2.6	2.0	2.6	1.9	2.4	1.5	2.4	1.7	1.9	1.9	2.4	

Ｑ１９　自宅でＩＣＴ機器やオンラインを用いた学習を実施する（した）場合に、自分にとって不都合なこと（不都合だったこと）は何ですか。（該当するものをすべて選んでください。）

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	2.1	1.5	1.9	2.0	1.7	1.6	1.8	3.1	3.5	2.6	2.0	2.1	ア パソコンやタブレット、スマホなどの機器がない（使用できない）
R05	1.9	1.6	2.0	2.5	1.6	1.6	2.1	2.4	1.8	1.7	1.9	2.0	
R06	18.9	17.5	16.4	17.2	16.0	16.2	17.9	19.8	19.9	20.7	17.2	17.8	イ 課題を印刷する機器がない（印刷できない）
R05	17.3	20.1	17.2	16.6	16.9	16.0	19.8	20.3	21.0	21.6	18.0	18.0	
R06	11.8	12.8	12.5	12.6	13.7	12.2	12.8	12.8	14.8	13.1	13.2	12.6	ウ 通信速度が遅い
R05	16.6	17.1	14.7	12.2	14.8	12.8	15.8	14.5	15.1	15.5	15.1	13.7	
R06	5.9	5.2	5.5	5.0	5.3	4.4	5.2	5.7	7.1	6.2	5.6	5.1	エ 通信料金が高額になる
R05	5.8	6.8	6.7	5.8	6.1	4.9	6.9	6.9	6.9	8.5	6.5	6.1	
R06	5.7	4.4	4.6	4.1	3.8	3.4	4.8	5.3	6.0	5.7	4.6	4.3	オ セキュリティが心配
R05	3.8	4.7	4.5	4.0	4.1	3.9	5.7	5.3	5.9	5.2	4.7	4.4	
R06	15.4	10.8	15.2	13.6	15.2	11.7	14.8	11.8	13.9	13.6	15.0	12.4	カ 操作の方法が分からない
R05	14.5	12.5	16.1	12.9	15.2	14.4	14.1	14.4	16.4	16.2	15.3	14.1	
R06	24.2	20.8	24.0	25.8	26.4	25.6	21.0	21.9	21.9	22.9	24.1	24.2	キ 集中できない、やる気が起きない
R05	21.0	26.9	22.0	23.9	23.2	24.4	19.6	23.8	21.9	23.8	21.9	24.3	
R06	2.3	3.3	3.3	3.5	3.4	3.6	2.6	3.2	4.0	3.8	3.2	3.5	ク その他
R05	3.2	2.4	3.9	3.8	3.5	4.3	4.4	3.6	3.7	4.1	3.8	3.9	
R06	44.6	50.1	43.9	44.5	43.1	47.0	45.6	46.9	41.8	43.9	43.7	46.2	ケ 不都合なことはない
R05	44.4	39.3	42.0	45.7	43.3	46.2	44.5	42.3	42.7	41.6	43.2	44.2	

Ｑ２０　学校に行く前に朝食をとりますか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	63.7	62.9	74.8	72.3	75.2	71.9	70.4	68.8	68.6	67.8	72.4	70.1	① 必ずとる
R05	64.6	65.5	76.3	72.7	76.4	74.0	71.4	68.1	70.6	67.3	73.6	71.0	
R06	18.7	16.3	13.4	13.9	13.5	14.3	15.7	13.9	15.3	15.0	14.5	14.4	② たいていとる
R05	18.7	15.8	12.6	12.9	13.4	14.1	14.8	15.7	15.6	14.4	14.2	14.3	
R06	10.5	10.5	6.6	6.8	6.2	7.3	7.9	9.1	9.4	8.3	7.4	7.9	③ とらないことが多い
R05	8.5	8.1	5.1	6.6	6.3	6.5	8.3	9.1	8.1	8.6	6.8	7.4	
R06	7.1	10.3	5.2	6.9	5.1	6.4	6.0	8.2	6.7	8.8	5.7	7.5	④ 全く、またはほとんどとらない
R05	8.0	10.5	4.4	5.7	4.0	5.3	5.5	7.0	5.8	9.6	5.0	6.7	

Ｑ２１　平日の睡眠時間は１日当たり、どのくらいですか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	0.5	1.2	0.4	0.9	0.7	0.6	0.4	0.6	0.6	1.0	0.5	0.8	① ３時間より少ない
R05	0.7	1.2	0.5	0.9	0.4	0.7	0.5	0.9	0.4	1.3	0.5	0.9	
R06	2.6	3.6	2.1	2.6	2.0	2.4	1.7	2.9	3.5	2.8	2.2	2.7	② ３時間～４時間未満
R05	3.4	4.4	2.1	2.4	2.4	2.7	2.7	3.4	3.1	2.9	2.6	2.9	
R06	7.2	8.7	7.7	8.8	7.9	8.4	7.3	9.5	9.2	10.0	7.9	8.9	③ ４時間～５時間未満
R05	8.4	9.8	8.5	9.7	7.1	9.7	8.6	9.1	7.7	9.4	7.9	9.6	
R06	24.7	28.2	25.6	29.9	25.2	29.4	23.9	26.8	23.0	26.1	24.8	28.5	④ ５時間～６時間未満
R05	26.7	27.3	27.6	30.1	27.5	31.6	25.0	28.2	24.7	27.5	26.7	29.7	
R06	37.8	38.1	39.6	38.0	40.9	39.5	38.6	37.1	35.5	38.1	39.2	38.4	⑤ ６時間～７時間未満
R05	35.4	36.4	37.7	37.7	39.7	38.2	38.4	37.2	37.7	35.4	38.3	37.4	
R06	21.8	16.7	20.6	16.5	19.0	17.3	21.9	18.6	22.7	17.0	20.6	17.2	⑥ ７時間～８時間未満
R05	21.7	16.6	17.4	13.5	19.1	14.3	18.8	16.8	20.1	19.3	19.0	15.4	
R06	4.5	3.1	3.5	2.8	3.7	2.1	5.4	3.5	4.3	4.2	4.1	2.9	⑦ ８時間～９時間未満
R05	3.3	2.8	3.6	2.6	3.2	2.3	4.9	3.8	5.3	3.4	3.9	2.8	
R06	1.0	0.4	0.4	0.5	0.6	0.4	0.9	1.2	1.2	0.8	0.7	0.6	⑧ ９時間以上
R05	0.2	1.4	0.8	0.6	0.6	0.6	1.0	0.6	0.9	0.7	0.7	0.7	

Ｑ２２　平日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	1.8	1.6	6.5	5.9	6.7	6.5	3.8	2.8	2.1	4.0	5.1	4.9	① 家庭学習
R05	2.2	2.2	7.6	6.0	7.0	7.4	4.4	3.5	4.1	2.5	5.9	5.3	
R06	3.9	3.3	4.3	3.5	4.4	3.6	2.7	3.3	2.7	3.5	3.8	3.5	② テレビ（録画を含む）やＤＶＤ等
R05	4.4	2.9	4.7	3.9	4.2	3.8	3.6	2.6	2.9	3.2	4.1	3.4	
R06	26.6	25.8	22.3	23.1	25.0	26.2	26.6	26.3	27.8	25.7	25.1	25.3	③ スマートフォンや携帯電話での通話やメール、ＳＮＳ等
R05	25.2	25.6	21.8	22.2	25.4	21.7	24.5	24.8	27.2	23.1	24.5	22.9	
R06	45.7	46.2	44.6	45.5	40.3	41.9	44.2	46.8	44.5	46.0	43.1	44.6	④ スマートフォンや携帯電話でのゲームや動画、情報収集
R05	42.7	46.2	40.4	42.8	40.1	43.7	43.3	45.4	43.0	47.2	41.3	44.5	
R06	7.2	7.9	6.8	7.8	6.2	6.2	6.6	6.5	7.4	7.1	6.7	6.9	⑤ スマートフォンや携帯電話以外でのゲームや動画、情報収集
R05	8.0	7.5	7.2	6.8	5.5	6.8	6.5	8.2	7.3	8.6	6.6	7.4	
R06	0.6	1.0	1.2	0.8	0.9	1.1	1.0	1.1	1.5	0.6	1.0	0.9	⑥ 読書
R05	1.5	0.9	1.3	1.1	1.4	1.0	1.6	1.2	0.9	1.7	1.3	1.1	
R06	7.6	6.8	6.8	7.1	6.9	6.9	7.9	7.0	8.5	7.4	7.3	7.0	⑦ 趣味（①～⑥を除く）
R05	8.1	7.5	7.2	7.1	7.5	6.7	9.1	7.3	7.9	8.6	7.8	7.2	
R06	3.6	3.7	3.7	3.1	4.9	3.4	4.2	3.3	3.4	2.7	4.2	3.2	⑧ 家族との会話や家事等の手伝い
R05	4.3	3.4	4.1	3.3	4.4	3.9	4.2	3.7	3.7	2.5	4.2	3.5	
R06	3.1	3.7	3.9	3.2	4.8	4.3	2.8	3.0	2.1	3.0	3.7	3.6	⑨ その他
R05	3.3	3.8	4.4	4.6	4.4	4.9	2.8	3.2	3.0	2.6	3.9	4.1	

Ｑ２３　平日に、スマートフォンや携帯電話を勉強以外で使う時間は１日当たりどのくらいですか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	0.2	1.2	0.7	0.8	0.7	0.7	0.5	0.5	0.6	0.6	0.6	0.7	① 全く使わない
R05	0.4	1.2	0.8	0.5	0.4	0.6	0.3	0.7	0.6	0.5	0.5	0.6	
R06	1.4	0.9	2.0	1.3	1.7	1.4	1.5	1.5	1.2	1.5	1.6	1.4	② ３０分より少ない
R05	1.0	1.3	1.5	1.5	2.4	1.8	1.4	1.7	1.0	1.1	1.7	1.6	
R06	3.6	1.8	4.7	3.2	6.7	4.6	3.9	3.3	3.0	3.4	5.0	3.6	③ ３０分～１時間未満
R05	2.5	3.1	5.0	3.7	6.4	5.3	5.2	3.7	3.8	3.0	5.1	4.1	
R06	14.1	9.9	18.0	13.9	22.1	17.6	15.9	15.7	13.3	11.8	18.2	14.8	④ １時間～２時間未満
R05	14.9	10.3	21.2	16.4	23.1	17.9	17.8	14.1	16.4	12.0	20.1	15.4	
R06	25.9	21.7	28.4	26.8	28.4	28.3	25.7	25.0	25.2	23.9	27.3	26.2	⑤ ２時間～３時間未満
R05	24.8	21.2	28.0	25.3	30.3	27.9	28.8	26.1	26.0	26.2	28.4	26.1	
R06	21.6	25.5	21.4	22.7	19.7	21.8	23.3	21.2	21.0	21.5	21.1	22.2	⑥ ３時間～４時間未満
R05	23.1	21.5	20.4	21.6	18.4	21.4	20.9	20.8	21.0	22.9	20.1	21.6	
R06	13.4	14.5	11.1	13.2	9.3	10.9	12.1	12.7	13.4	13.3	11.1	12.4	⑦ ４時間～５時間未満
R05	13.2	15.0	10.3	12.0	8.9	10.6	11.3	12.7	12.2	13.0	10.5	12.1	
R06	19.7	24.4	13.6	17.8	11.3	14.6	16.8	19.9	21.9	23.9	14.9	18.4	⑧ ５時間以上
R05	20.0	26.3	11.1	16.4	9.9	14.2	14.0	19.8	18.6	21.0	13.0	17.7	
R06	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2	0.4	0.1	0.2	0.2	⑨ スマートフォンや携帯電話を持っていない
R05	0.0	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	0.3	0.2	0.1	0.2	0.2	

Ｑ２４　平日に、勉強以外でスマートフォンや携帯電話を最も多く使用する用途は何ですか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	4.5	6.5	3.6	3.2	3.6	3.4	5.7	5.7	7.1	6.8	4.5	4.5	① 相手との通話
R05	6.0	4.0	2.8	3.3	3.6	3.4	4.4	5.6	6.1	4.8	4.1	4.0	
R06	2.2	2.0	2.9	1.9	3.0	2.0	2.9	2.5	3.4	2.5	2.9	2.1	② メール
R05	1.5	2.0	1.9	1.4	2.1	1.2	2.1	1.1	2.4	1.3	2.0	1.3	
R06	36.0	33.1	35.8	35.2	39.5	38.6	34.3	32.6	34.7	31.2	36.8	35.2	③ ＳＮＳ（ＬＩＮＥ、Ｘ［旧ツイッター］、インスタグラム等）
R05	36.7	35.9	37.9	36.5	39.1	37.1	36.0	33.9	34.8	32.2	37.5	35.6	
R06	28.2	30.2	32.2	34.8	29.5	33.5	30.4	33.1	27.8	37.9	30.0	34.0	④ 動画サイト
R05	27.2	34.4	30.8	33.7	31.9	36.4	32.4	35.1	32.0	37.7	31.3	35.5	
R06	10.9	11.9	11.4	10.5	11.5	11.0	9.7	10.8	11.1	10.3	11.1	10.8	⑤ 音楽サイトや音楽プレーヤー
R05	12.5	8.7	10.9	10.2	11.2	9.9	10.5	9.7	10.5	9.6	11.0	9.8	
R06	16.7	14.4	11.9	12.1	10.8	9.9	15.3	14.0	14.2	9.7	12.8	11.5	⑥ オンラインゲーム
R05	13.6	13.7	11.5	10.7	9.8	9.7	13.4	13.0	12.4	12.4	11.6	11.2	
R06	0.2	0.1	0.2	0.2	0.3	0.2	0.2	0.3	0.4	0.3	0.2	0.2	⑦ ブログや掲示板
R05	0.7	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	
R06	1.1	1.4	1.6	1.7	1.5	1.1	1.4	0.7	0.8	0.8	1.4	1.2	⑧ 情報・ニュース等の検索
R05	1.4	1.0	1.9	1.5	1.7	1.5	0.8	1.1	1.2	1.7	1.5	1.4	
R06	0.2	0.3	0.3	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.3	0.2	0.1	⑨ 静止画や動画の撮影
R05	0.0	0.0	0.3	0.2	0.1	0.2	0.2	0.0	0.2	0.1	0.1	0.1	
R06	0.0	0.1	0.1	0.2	0.2	0.2	0.1	0.2	0.4	0.1	0.2	0.2	⑩ スマートフォンや携帯電話を持っていない
R05	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.3	0.2	0.4	0.2	0.0	0.2	0.2	

Ｑ２５　平日に、１日当たりどのくらいの時間、読書（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。）をしますか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	59.3	67.3	64.3	70.1	63.1	70.7	55.3	62.1	62.3	67.0	61.7	68.3	① 全く、またはほとんどしない
R05	64.2	70.2	60.7	70.3	63.4	72.2	54.6	63.1	59.3	61.3	60.8	68.5	
R06	25.6	15.5	20.0	17.6	21.9	15.8	25.3	21.2	19.7	17.2	22.0	17.3	② ３０分より少ない
R05	17.3	15.0	20.8	14.5	19.8	14.4	24.2	21.2	22.0	19.6	20.8	16.3	
R06	9.3	9.9	9.9	7.8	10.1	8.4	13.6	10.7	11.7	10.3	10.8	9.0	③ ３０分～１時間未満
R05	10.3	8.1	10.3	8.1	11.1	8.2	13.2	9.2	11.6	10.8	11.2	8.7	
R06	3.9	5.3	4.1	3.2	3.7	3.5	3.9	3.8	3.8	3.6	3.9	3.6	④ １時間～２時間未満
R05	5.7	3.9	4.2	2.6	3.9	3.4	5.9	3.8	4.6	4.8	4.6	3.5	
R06	1.7	1.2	1.2	0.6	0.8	0.9	1.4	1.4	1.3	1.4	1.1	1.0	⑤ ２時間～３時間未満
R05	1.4	1.2	1.3	1.0	1.3	1.1	1.3	1.3	1.6	2.4	1.4	1.3	
R06	0.3	0.6	0.1	0.3	0.2	0.3	0.5	0.4	0.6	0.3	0.3	0.4	⑥ ３時間～４時間未満
R05	0.4	1.2	0.5	0.3	0.2	0.4	0.5	0.7	0.6	0.7	0.4	0.6	
R06	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.0	0.3	0.3	0.0	0.1	0.2	⑦ ４時間～５時間未満
R05	0.3	0.1	0.2	0.2	0.1	0.1	0.2	0.3	0.2	0.1	0.2	0.2	
R06	0.0	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.4	0.3	0.1	0.1	⑧ ５時間以上
R05	0.2	0.4	0.1	0.2	0.1	0.1	0.2	0.4	0.1	0.2	0.1	0.2	

Ｑ２６　休日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	1.8	1.4	5.7	4.8	5.7	4.6	2.4	2.0	1.9	3.1	4.3	3.7	① 家庭学習
R05	2.2	1.7	6.3	4.6	5.8	6.4	3.2	2.7	3.3	2.2	4.8	4.3	
R06	4.7	4.3	5.4	4.8	5.9	5.2	4.2	4.7	4.6	4.8	5.2	4.9	② テレビ（録画を含む）やＤＶＤ等
R05	5.8	3.4	6.5	5.5	6.4	4.6	4.7	4.8	4.3	5.0	5.8	4.8	
R06	21.1	19.9	17.0	17.0	18.8	19.4	20.5	19.3	23.5	20.5	19.4	19.0	③ スマートフォンや携帯電話での通話やメール、ＳＮＳ等
R05	20.4	19.2	15.7	15.3	18.5	16.5	18.9	18.2	19.6	18.9	18.2	17.1	
R06	42.1	41.7	38.7	42.1	37.7	39.7	41.9	41.5	39.2	41.5	39.3	41.0	④ スマートフォンや携帯電話でのゲームや動画、情報収集
R05	38.9	42.4	35.9	38.6	36.8	41.4	40.9	41.8	41.1	40.7	38.0	40.8	
R06	7.7	8.9	8.7	8.8	7.5	7.5	8.0	7.5	7.1	9.5	7.8	8.2	⑤ スマートフォンや携帯電話以外でのゲームや動画、情報収集
R05	8.4	8.1	8.2	8.8	7.2	8.0	7.7	9.6	8.7	8.6	7.8	8.5	
R06	0.7	1.0	1.1	1.1	1.0	1.0	1.0	1.4	2.0	0.5	1.1	1.0	⑥ 読書
R05	1.3	1.3	1.4	0.9	1.2	1.2	1.3	1.0	1.1	1.3	1.2	1.1	
R06	12.2	13.0	13.9	12.0	13.3	11.9	12.6	14.2	13.7	11.4	13.3	12.4	⑦ 趣味（①～⑥を除く）
R05	12.6	12.8	13.1	13.0	13.6	11.4	13.9	12.3	12.9	14.0	13.3	12.4	
R06	3.8	3.8	3.8	3.3	4.0	3.7	4.3	3.4	3.0	3.1	3.8	3.5	⑧ 家族との会話や家事等の手伝い
R05	4.3	3.5	4.5	3.0	4.2	3.6	4.0	3.5	3.6	3.6	4.2	3.4	
R06	5.9	6.0	5.8	6.1	6.0	6.9	5.0	6.0	5.2	5.7	5.7	6.3	⑨ その他
R05	5.9	7.6	6.3	7.2	6.4	6.8	5.3	6.2	5.3	5.7	6.0	6.7	

Ｑ２７　休日に、スマートフォンや携帯電話を勉強以外で使う時間は１日当たりどのくらいですか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	0.6	1.6	1.2	1.3	1.0	0.9	0.5	0.8	0.7	1.4	0.9	1.1	① 全く使わない
R05	0.8	1.5	1.0	1.4	0.9	0.9	0.8	1.3	0.9	0.8	0.9	1.1	
R06	1.0	1.3	1.6	1.2	1.5	1.2	1.6	1.2	1.4	1.7	1.5	1.3	② ３０分より少ない
R05	1.7	1.4	1.1	1.3	1.5	1.2	0.7	1.1	1.1	0.9	1.2	1.2	
R06	2.2	1.6	1.6	1.6	2.4	1.6	1.6	1.4	1.7	1.8	2.0	1.6	③ ３０分～１時間未満
R05	1.1	0.8	2.6	2.0	2.5	2.1	2.3	1.7	2.0	1.7	2.3	1.8	
R06	4.3	2.3	6.0	4.8	7.0	5.3	4.7	3.6	3.6	3.7	5.7	4.4	④ １時間～２時間未満
R05	3.6	3.3	6.9	5.0	7.0	6.2	4.6	5.3	4.9	4.1	6.0	5.2	
R06	13.4	8.6	16.3	11.8	17.3	15.5	13.0	12.3	11.5	10.1	15.2	12.7	⑤ ２時間～３時間未満
R05	13.0	11.4	16.7	14.2	19.1	14.1	15.8	10.9	12.9	10.6	16.5	12.9	
R06	16.4	16.2	21.6	20.1	21.8	20.8	17.9	19.2	17.3	16.4	20.1	19.4	⑥ ３時間～４時間未満
R05	18.4	15.5	20.4	17.5	22.4	20.8	21.3	17.6	18.6	17.5	20.8	18.5	
R06	16.1	16.7	16.6	17.9	17.4	16.9	16.7	15.7	15.7	15.3	16.7	16.7	⑦ ４時間～５時間未満
R05	15.9	16.0	17.4	16.8	16.3	17.4	17.5	18.5	15.1	16.8	16.6	17.2	
R06	14.4	14.7	11.5	12.9	10.6	13.2	13.0	12.5	14.7	12.5	12.1	13.0	⑧ ５時間～６時間未満
R05	15.2	13.7	11.7	12.0	10.4	11.9	12.4	11.9	13.1	14.2	11.9	12.4	
R06	31.5	36.6	23.4	28.2	20.8	24.3	30.5	33.1	32.7	36.7	25.6	29.5	⑨ ６時間以上
R05	29.9	35.8	19.8	26.7	19.7	25.0	24.5	31.0	31.1	33.1	23.0	28.5	
R06	0.0	0.3	0.3	0.2	0.2	0.3	0.5	0.2	0.7	0.2	0.3	0.2	⑩ スマートフォンや携帯電話を持っていない
R05	0.2	0.4	0.2	0.3	0.2	0.3	0.2	0.7	0.2	0.3	0.2	0.4	

Ｑ２８　休日に、勉強以外でスマートフォンや携帯電話を最も多く使用する用途は何ですか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	4.6	5.8	3.4	2.9	3.1	3.0	4.9	4.6	6.4	5.1	4.0	3.8	① 相手との通話
R05	5.9	3.2	2.7	2.4	3.0	2.8	4.5	5.6	5.2	3.5	3.7	3.3	
R06	2.7	1.1	2.1	1.4	2.1	1.4	1.7	1.5	2.1	1.8	2.1	1.4	② メール
R05	1.3	1.7	0.9	1.2	1.5	0.7	1.4	0.7	1.6	1.2	1.3	1.0	
R06	30.9	28.9	31.2	30.1	35.6	33.1	31.4	29.2	29.6	28.8	32.6	30.8	③ ＳＮＳ（ＬＩＮＥ、Ｘ［旧ツイッター］、インスタグラム等）
R05	31.4	30.4	32.7	30.7	33.8	31.7	29.8	28.6	29.9	28.4	32.1	30.4	
R06	35.6	38.4	39.8	43.4	37.6	43.6	36.6	40.4	36.0	44.8	37.6	42.7	④ 動画サイト
R05	36.5	39.9	40.3	43.3	40.5	45.5	39.9	43.0	39.6	44.5	39.9	43.9	
R06	7.8	8.1	7.1	6.4	6.9	6.2	7.5	7.7	8.7	6.4	7.3	6.7	⑤ 音楽サイトや音楽プレーヤー
R05	8.5	7.5	6.2	6.4	7.7	6.5	6.7	6.1	7.1	6.8	7.2	6.5	
R06	16.9	15.5	14.2	13.6	12.9	10.8	16.3	15.5	15.8	11.2	14.5	12.8	⑥ オンラインゲーム
R05	14.2	15.9	13.0	11.5	11.3	10.5	16.3	14.1	14.5	13.1	13.2	12.2	
R06	0.3	0.4	0.3	0.2	0.2	0.2	0.3	0.4	0.3	0.3	0.3	0.2	⑦ ブログや掲示板
R05	0.3	0.2	0.5	0.1	0.2	0.2	0.2	0.3	0.2	0.2	0.3	0.2	
R06	1.0	0.9	1.4	1.4	1.1	1.1	0.8	0.3	0.7	0.7	1.1	1.0	⑧ 情報・ニュース等の検索
R05	1.4	0.6	1.3	1.4	1.5	1.3	0.6	1.1	1.1	1.7	1.2	1.3	
R06	0.2	0.6	0.3	0.3	0.1	0.2	0.4	0.3	0.1	0.4	0.2	0.3	⑨ 静止画や動画の撮影
R05	0.3	0.2	0.4	0.3	0.1	0.3	0.4	0.2	0.5	0.3	0.3	0.3	
R06	0.0	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.4	0.2	0.2	0.2	⑩ スマートフォンや携帯電話を持っていない
R05	0.1	0.1	0.1	0.2	0.3	0.3	0.2	0.4	0.2	0.0	0.2	0.2	

Ｑ２９　休日に、１日当たりどのくらいの時間、読書（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。）をしますか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	68.4	71.0	68.4	73.5	67.5	72.2	63.8	69.3	66.1	69.9	67.0	71.6	① 全く、またはほとんどしない
R05	66.2	71.7	65.1	73.3	65.3	73.8	63.3	70.6	66.8	69.0	65.2	72.3	
R06	14.5	10.8	14.2	12.0	14.9	12.5	14.9	12.2	13.3	12.1	14.5	12.1	② ３０分より少ない
R05	12.9	10.9	14.2	10.4	15.4	11.8	13.9	11.8	12.4	12.0	14.2	11.4	
R06	8.2	8.4	8.9	6.8	9.5	7.5	9.8	8.8	10.8	8.3	9.4	7.7	③ ３０分～１時間未満
R05	9.1	8.8	8.5	6.8	9.5	7.0	11.1	9.5	9.9	8.1	9.5	7.7	
R06	4.3	5.1	4.7	4.8	4.6	4.0	7.5	5.3	4.7	5.3	5.1	4.7	④ １時間～２時間未満
R05	5.8	3.5	5.5	3.8	5.5	3.9	7.0	4.1	6.2	4.8	5.9	4.0	
R06	2.6	2.3	1.7	1.7	2.3	1.9	2.2	2.7	2.6	2.3	2.2	2.1	⑤ ２時間～３時間未満
R05	2.9	2.7	2.8	1.4	2.4	1.7	2.6	1.9	2.8	3.0	2.6	1.9	
R06	1.3	1.1	1.1	0.5	0.6	0.8	1.2	0.7	1.2	0.6	1.0	0.7	⑥ ３時間～４時間未満
R05	1.7	0.7	1.2	0.8	0.9	0.8	1.2	1.0	0.9	1.1	1.1	0.9	
R06	0.1	0.6	0.4	0.2	0.3	0.3	0.3	0.5	0.3	0.6	0.3	0.4	⑦ ４時間～５時間未満
R05	0.4	0.5	0.3	0.2	0.4	0.3	0.3	0.4	0.3	1.0	0.3	0.4	
R06	0.2	0.5	0.1	0.1	0.1	0.3	0.2	0.3	0.4	0.2	0.1	0.3	⑧ ５時間～６時間未満
R05	0.5	0.3	0.1	0.2	0.2	0.2	0.3	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	
R06	0.2	0.0	0.2	0.1	0.0	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	⑨ ６時間～７時間未満
R05	0.1	0.3	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	0.4	0.1	0.2	0.1	
R06	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	0.1	0.4	0.2	0.2	0.1	⑩ ７時間以上
R05	0.2	0.1	0.0	0.3	0.1	0.1	0.3	0.5	0.1	0.4	0.1	0.3	

Ｑ３０　普段、次のような時に、スマートフォンや携帯電話でメールやメッセージ（ＬＩＮＥ等）のやりとりをすることがありますか。（該当するものをすべて選んでください。）

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	23.5	28.9	28.9	33.1	28.9	32.1	28.7	31.1	28.7	32.6	28.4	32.0	ア 家庭で勉強しているとき
R05	21.6	28.1	28.5	33.0	28.4	33.5	26.7	29.5	30.2	30.9	27.7	31.8	
R06	8.6	10.2	10.5	10.1	9.8	9.5	9.4	9.5	11.0	9.6	10.0	9.7	イ 家族と一緒に食事をしているとき
R05	8.0	8.7	8.0	10.5	8.9	10.4	7.5	10.0	8.7	10.6	8.3	10.2	
R06	58.3	60.6	49.1	54.0	51.0	57.6	55.4	59.5	58.2	60.4	52.8	57.7	ウ 夜、ふとんやベッドに入ってから
R05	55.9	61.9	47.2	54.7	50.9	55.8	53.9	58.4	57.2	59.0	51.8	56.9	
R06	42.1	42.8	46.6	45.2	43.3	41.6	42.2	43.3	44.6	45.5	44.1	43.4	エ パソコンやゲームをしているとき
R05	42.9	42.5	44.1	43.8	43.7	43.3	43.1	42.2	43.3	47.4	43.6	43.7	
R06	36.3	39.9	45.5	47.3	48.2	48.4	35.2	39.6	38.6	38.8	43.0	44.6	オ テレビを見ているとき
R05	39.8	38.7	45.7	48.3	48.2	50.7	37.8	40.7	39.3	44.7	43.9	46.5	
R06	22.5	23.1	27.0	23.7	25.7	22.7	22.8	20.8	22.2	20.2	24.8	22.3	カ その他
R05	24.6	19.7	26.9	22.4	26.5	22.7	23.7	21.7	25.8	23.8	25.9	22.3	
R06	0.5	0.7	0.5	0.7	0.6	0.4	0.4	0.3	1.0	0.5	0.6	0.5	キ スマートフォンや携帯電話を持っていない
R05	0.4	0.7	0.4	0.5	0.5	0.6	0.4	0.7	0.6	0.4	0.5	0.6	

Ｑ３１　インターネットの利用に関して、どのような経験をしたことがありますか。（該当するものをすべて選んでください。）

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	79.8	80.6	82.0	84.2	83.9	84.1	80.9	81.7	78.8	78.5	81.9	82.7	ア　気がつくと、思ったより長い時間ネットをしていることがある
R05	78.6	79.3	82.0	80.5	83.5	82.7	79.3	79.1	78.2	78.8	81.2	80.7	
R06	33.0	29.9	37.1	38.0	38.1	39.1	33.1	33.7	36.9	33.2	36.4	36.3	イ　やるべき事があっても、まず先にSNSサイトやメールをチェックする
R05	30.1	31.2	31.4	36.4	34.0	40.8	32.2	34.5	33.0	34.0	32.5	36.8	
R06	16.4	15.6	17.8	20.7	17.7	21.5	14.1	16.9	17.2	16.9	17.0	19.4	ウ　ネットが原因で、勉強に悪影響が出て成績が下がった
R05	14.6	14.5	17.2	21.3	18.3	21.9	15.0	17.5	16.2	16.7	16.9	19.6	
R06	32.0	29.7	33.0	36.1	33.8	35.9	30.3	33.4	34.3	34.8	33.0	34.8	エ　夜遅くまでネットをすることが原因で、睡眠時間が短くなっている
R05	28.9	32.6	31.4	35.0	32.3	35.9	29.7	31.8	31.0	32.7	31.1	34.3	
R06	18.9	19.4	17.0	17.1	18.3	17.8	16.7	16.6	21.1	18.5	18.1	17.7	オ　ネットで新しく知り合いを作ることがある
R05	20.3	21.2	19.2	20.9	19.4	21.7	21.2	20.4	21.9	23.6	20.0	21.5	
R06	21.4	15.8	26.2	25.2	25.9	26.0	18.8	19.7	21.8	19.6	23.9	23.0	カ　ネットをする時間や頻度を減らそうとしても、できないことがある
R05	16.8	17.5	23.7	25.4	26.1	27.1	21.9	20.8	20.9	18.8	23.2	23.6	
R06	4.6	5.8	8.1	7.0	8.2	7.9	4.9	5.3	6.9	6.0	7.1	6.8	キ　ネットをする時間や回数、内容を家族や先生に隠そうとすることがある
R05	5.2	5.3	7.4	7.4	8.5	8.1	5.5	5.5	5.7	5.0	7.0	6.8	
R06	2.8	2.0	3.3	3.6	2.8	2.8	1.9	3.1	3.7	2.9	2.9	3.0	ク　ネットをしていない時はイライラしたり憂鬱な気持ちになったりする
R05	2.5	3.4	2.7	2.9	2.9	3.4	2.8	2.8	2.8	2.6	2.8	3.0	
R06	7.3	6.3	7.0	7.9	5.9	6.9	5.8	6.7	8.1	8.2	6.6	7.3	ケ　家族や友人と外出するよりもネットを利用することを選ぶことがある
R05	6.3	7.0	6.8	7.8	7.2	8.0	7.1	7.1	8.0	9.0	7.1	7.8	
R06	25.2	28.8	28.7	31.4	29.4	31.7	22.2	26.6	26.1	27.8	27.2	30.0	コ　様々な問題から気をそらすためにネットで時間を過ごすことがある
R05	22.5	23.1	26.7	30.1	27.6	32.0	24.6	25.8	25.5	28.2	26.1	29.1	

Ｑ３２　毎日同じくらいの時刻に起きている。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	68.1	72.2	71.2	74.7	72.8	74.9	71.9	73.5	67.1	69.8	71.1	73.7	① 当てはまる
R05	71.0	71.3	74.1	74.2	75.2	75.1	72.2	74.5	71.5	73.9	73.5	74.3	
R06	27.3	25.0	24.8	22.3	23.6	21.0	24.8	23.1	28.0	25.4	25.0	22.6	② どちらかといえば、当てはまる
R05	25.7	25.1	21.2	21.7	21.4	21.9	23.8	22.4	24.7	22.6	22.6	22.3	
R06	3.4	1.9	3.1	2.3	2.5	2.8	2.4	2.7	3.6	3.4	2.9	2.7	③ どちらかといえば、当てはまらない
R05	2.3	2.7	2.7	1.8	2.8	2.3	3.2	2.1	2.8	2.8	2.8	2.2	
R06	1.1	0.7	0.8	0.8	1.0	1.3	1.0	0.7	1.2	1.3	1.0	1.0	④ 当てはまらない
R05	0.9	0.9	0.9	1.1	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	0.4	0.8	0.8	

Ｑ３３　毎日同じくらいの時刻に寝ている。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	40.3	41.1	42.6	47.7	45.1	46.2	41.6	44.7	36.4	41.8	42.3	45.3	① 当てはまる
R05	38.7	41.9	46.9	46.9	46.3	46.5	41.8	44.8	39.7	43.7	44.1	45.5	
R06	42.1	39.8	41.4	36.6	39.4	37.4	40.0	39.2	41.3	38.5	40.5	37.9	② どちらかといえば、当てはまる
R05	44.1	40.9	36.4	37.5	39.2	38.9	40.9	37.8	41.7	39.9	39.6	38.7	
R06	13.9	15.4	12.1	11.9	11.6	12.6	14.8	13.0	16.4	14.7	13.1	13.0	③ どちらかといえば、当てはまらない
R05	12.2	13.3	12.1	10.7	11.3	11.1	13.9	13.5	14.9	12.1	12.5	11.7	
R06	3.8	3.7	3.9	3.8	3.9	3.7	3.7	3.1	5.8	4.8	4.1	3.8	④ 当てはまらない
R05	5.0	3.8	3.2	2.9	3.2	3.5	3.3	4.0	3.6	4.0	3.4	3.5	

Ｑ３４　体調はよい。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	50.5	52.2	57.1	54.9	58.1	55.0	56.6	55.2	53.9	55.3	56.4	54.8	① 当てはまる
R05	54.2	53.6	57.7	54.2	56.5	53.3	56.6	54.2	59.5	55.0	57.0	53.9	
R06	37.4	34.8	32.4	33.1	31.6	32.4	32.9	34.1	35.1	33.1	33.0	33.1	② どちらかといえば、当てはまる
R05	33.6	34.5	30.1	30.3	32.9	32.9	33.6	32.7	30.8	31.6	32.1	32.2	
R06	9.9	10.6	8.6	9.4	8.7	9.9	8.9	8.8	9.0	9.3	8.9	9.6	③ どちらかといえば、当てはまらない
R05	9.9	9.1	8.4	9.8	9.0	11.2	8.3	10.8	8.0	10.7	8.7	10.5	
R06	2.2	2.4	1.8	2.6	1.7	2.8	1.6	1.8	1.9	2.2	1.8	2.5	④ 当てはまらない
R05	2.2	2.8	1.9	3.0	1.6	2.7	1.4	2.3	1.6	2.4	1.7	2.6	

Ｑ３５　熟睡ができている。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	37.8	36.4	40.9	41.7	42.1	41.5	41.6	40.0	38.5	42.0	40.9	40.9	① 当てはまる
R05	37.2	38.2	41.6	41.5	42.1	42.7	40.4	40.7	45.1	42.0	41.6	41.5	
R06	36.6	39.1	34.1	34.7	35.3	34.1	36.7	36.0	37.9	35.3	35.7	35.2	② どちらかといえば、当てはまる
R05	37.7	37.5	34.0	33.7	35.1	33.2	37.9	34.4	34.0	33.6	35.4	34.0	
R06	20.6	18.2	19.8	18.3	17.6	18.5	16.8	18.2	18.3	17.9	18.4	18.3	③ どちらかといえば、当てはまらない
R05	19.8	17.8	17.9	16.5	17.9	18.9	16.1	18.9	15.9	18.9	17.5	18.2	
R06	5.1	6.3	5.2	5.2	4.9	5.9	5.0	5.8	5.3	4.7	5.0	5.6	④ 当てはまらない
R05	5.2	6.5	4.6	5.6	4.8	5.2	5.4	5.9	4.9	5.2	4.9	5.5	

Ｑ３６　学校生活に充実感や満足感を感じている。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	40.4	30.7	46.6	39.2	46.5	40.7	44.9	36.7	43.7	39.0	45.4	38.5	① 当てはまる
R05	39.5	32.0	43.0	38.5	45.3	38.4	39.4	35.2	44.0	33.1	43.0	36.6	
R06	43.8	44.5	39.6	41.7	39.6	40.4	41.9	44.1	42.8	44.0	40.8	42.2	② どちらかといえば、当てはまる
R05	41.5	44.9	39.0	39.6	39.7	41.3	43.6	43.8	42.2	45.9	40.6	42.3	
R06	11.5	18.5	10.1	13.5	10.6	13.8	10.0	13.7	10.6	12.2	10.4	13.9	③ どちらかといえば、当てはまらない
R05	14.9	16.3	12.1	13.9	11.3	14.8	12.7	14.9	10.1	14.6	11.9	14.7	
R06	4.2	6.3	3.7	5.5	3.3	5.1	3.1	5.5	2.8	4.6	3.4	5.3	④ 当てはまらない
R05	4.1	6.7	3.6	5.2	3.7	5.5	4.2	6.1	3.7	6.1	3.8	5.7	

Ｑ３７　友達とよく話をする。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	74.1	70.6	74.5	70.9	75.5	74.0	76.1	73.1	75.0	73.4	75.2	72.7	① 当てはまる
R05	75.9	73.0	72.4	68.7	75.4	72.1	73.7	72.6	78.0	69.4	74.7	71.0	
R06	20.2	23.4	20.2	22.3	19.5	20.2	18.6	21.9	20.4	21.1	19.7	21.4	② どちらかといえば、当てはまる
R05	18.7	21.7	19.4	21.9	19.5	22.1	20.7	21.4	17.2	23.8	19.3	22.1	
R06	4.2	4.7	3.9	5.3	3.9	4.4	4.1	3.9	3.1	4.0	3.8	4.5	③ どちらかといえば、当てはまらない
R05	3.8	4.7	4.5	4.4	4.0	4.6	4.3	4.4	3.8	4.8	4.1	4.6	
R06	1.5	1.3	1.4	1.5	1.1	1.3	1.2	1.0	1.5	1.4	1.3	1.3	④ 当てはまらない
R05	1.5	0.6	1.3	1.8	1.1	1.2	1.2	1.6	0.9	1.7	1.2	1.4	

Ｑ３８　周りの人は、自分の良いところをよく認めてくれていると感じる。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	32.4	29.6	39.7	39.0	39.6	40.1	34.0	33.8	39.1	38.3	38.0	37.6	① 当てはまる
R05	28.0	30.8	37.9	35.6	38.6	36.8	29.9	34.1	37.4	35.0	35.8	35.2	
R06	51.2	49.9	45.6	45.3	46.6	45.4	52.3	50.5	47.3	47.6	47.8	47.0	② どちらかといえば、当てはまる
R05	54.6	50.3	44.5	44.5	45.6	47.0	51.1	46.9	47.8	48.6	47.4	46.9	
R06	12.7	16.1	11.5	11.9	11.2	11.3	10.6	11.9	10.9	10.6	11.3	11.9	③ どちらかといえば、当てはまらない
R05	12.8	15.3	11.8	12.8	12.1	12.8	14.2	14.3	11.7	12.3	12.4	13.2	
R06	3.7	4.4	3.3	3.7	2.6	3.1	3.1	3.7	2.7	3.3	3.0	3.5	④ 当てはまらない
R05	4.6	3.5	3.4	4.0	3.7	3.4	4.7	4.7	3.0	3.9	3.8	3.9	

Ｑ３９　人が困っている時は、進んで助けるようにしている。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	39.5	36.6	41.1	40.4	44.7	43.6	41.9	42.7	41.2	39.6	42.4	41.4	① 当てはまる
R05	40.0	38.5	42.9	40.3	46.2	43.4	41.8	45.8	41.7	41.7	43.4	42.4	
R06	48.2	51.9	48.1	49.4	45.5	45.2	48.9	48.2	49.4	47.6	47.5	47.7	② どちらかといえば、当てはまる
R05	49.0	50.2	46.1	46.0	44.7	45.5	50.1	43.8	48.1	46.3	46.8	45.9	
R06	10.7	9.9	9.0	8.3	8.6	9.4	8.1	8.3	7.8	10.7	8.7	9.2	③ どちらかといえば、当てはまらない
R05	9.5	9.0	7.0	9.0	7.7	9.4	6.8	8.8	8.1	10.0	7.6	9.3	
R06	1.6	1.5	1.7	1.8	1.2	1.9	1.1	0.8	1.6	1.9	1.4	1.6	④ 当てはまらない
R05	1.4	2.1	1.6	1.7	1.2	1.6	1.2	1.5	2.1	1.6	1.4	1.7	

Ｑ４０　新聞やテレビのニュースなどに関心がある。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	14.4	14.5	20.5	21.6	21.1	20.7	15.4	17.9	14.0	16.7	18.5	19.3	① 当てはまる
R05	16.8	15.5	22.4	22.9	21.8	23.1	18.1	18.6	16.3	20.2	20.1	21.2	
R06	35.6	39.0	37.8	38.4	36.8	37.6	38.4	39.0	33.9	38.2	36.8	38.2	② どちらかといえば、当てはまる
R05	36.9	35.5	37.3	36.9	39.5	37.6	41.7	41.1	39.7	37.7	39.1	37.9	
R06	33.8	31.0	29.5	27.4	29.8	28.5	33.2	29.9	34.0	31.6	31.2	29.1	③ どちらかといえば、当てはまらない
R05	32.5	33.7	27.9	26.3	27.8	27.1	28.5	27.2	31.5	28.5	28.9	27.7	
R06	16.2	15.6	12.2	12.5	12.3	13.2	13.0	13.3	18.1	13.3	13.5	13.3	④ 当てはまらない
R05	13.7	15.2	10.3	10.8	10.9	12.2	11.6	13.1	12.4	13.3	11.3	12.4	

Ｑ４１　心配なことがあり、学校生活に集中できない。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	4.8	6.0	5.0	6.2	4.8	5.8	3.8	5.1	4.9	5.4	4.7	5.8	① 当てはまる
R05	4.3	5.3	5.0	5.4	4.6	4.8	4.5	5.1	4.8	5.2	4.7	5.1	
R06	15.2	17.0	14.2	14.9	14.0	14.4	13.0	15.2	14.8	14.6	14.1	14.9	② どちらかといえば、当てはまる
R05	14.6	15.4	12.3	13.6	13.6	15.7	12.4	12.7	12.4	14.3	13.0	14.4	
R06	35.5	35.4	35.0	34.8	35.1	36.1	32.2	32.6	35.6	37.6	34.7	35.3	③ どちらかといえば、当てはまらない
R05	35.6	33.5	31.5	34.6	33.1	35.2	33.4	30.9	34.5	36.6	33.2	34.3	
R06	44.5	41.6	45.8	43.9	46.0	43.6	51.0	47.1	44.6	42.3	46.4	43.9	④ 当てはまらない
R05	45.3	45.7	48.8	43.2	48.6	44.3	49.5	51.1	48.2	43.6	48.4	45.2	

Ｑ４２　つまらなく過ごすことが多い。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	8.5	12.2	6.5	9.7	6.3	9.0	6.8	9.3	7.4	10.9	6.8	9.8	① 当てはまる
R05	9.7	11.7	7.0	9.1	7.1	9.7	8.3	10.4	8.4	9.9	7.7	9.8	
R06	19.6	23.2	16.6	18.7	16.8	20.0	16.1	19.1	18.7	20.3	17.1	19.9	② どちらかといえば、当てはまる
R05	19.7	22.7	16.4	18.7	16.6	20.7	18.9	18.7	19.0	22.0	17.6	20.2	
R06	40.1	37.1	38.2	38.5	37.7	37.3	34.7	37.3	38.4	36.3	37.7	37.5	③ どちらかといえば、当てはまらない
R05	36.5	38.7	35.3	36.6	37.4	37.2	35.8	34.9	34.5	38.0	36.1	36.9	
R06	31.9	27.6	38.6	32.8	39.1	33.7	42.4	34.3	35.3	32.4	38.4	32.9	④ 当てはまらない
R05	33.9	26.7	38.8	32.4	38.9	32.4	36.9	35.8	38.0	29.8	37.9	32.1	

Ｑ４３　感情の起伏を抑えられないことがある。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	6.7	8.3	6.8	8.6	7.2	7.8	5.3	6.8	7.2	8.3	6.7	8.0	① 当てはまる
R05	6.8	7.5	6.3	8.0	6.6	8.0	5.3	7.2	6.8	7.7	6.4	7.8	
R06	17.4	18.6	17.2	17.0	16.1	17.7	15.3	18.3	16.2	15.3	16.4	17.4	② どちらかといえば、当てはまる
R05	16.2	18.9	14.2	16.7	15.9	17.7	14.1	16.1	14.0	18.5	14.9	17.4	
R06	32.2	35.1	31.6	31.2	32.3	30.4	30.3	31.5	31.6	33.3	31.7	31.6	③ どちらかといえば、当てはまらない
R05	33.7	32.7	29.6	28.5	30.5	29.7	30.2	28.7	30.3	31.0	30.5	29.7	
R06	43.7	38.0	44.3	43.1	44.5	44.0	49.1	43.4	44.9	42.9	45.2	43.0	④ 当てはまらない
R05	43.0	40.9	47.2	43.5	46.9	44.6	50.3	47.9	48.8	42.4	47.4	44.3	

Ｑ４４　一度始めたことは最後までやり遂げるようにしている。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	31.1	26.5	31.4	28.9	32.8	29.4	32.1	34.0	28.0	30.2	31.5	29.9	① 当てはまる
R05	27.7	29.3	31.1	30.0	32.3	31.0	32.6	34.0	31.5	32.2	31.5	31.3	
R06	52.9	54.1	49.8	53.0	49.4	51.1	52.1	50.2	53.1	50.7	50.7	51.7	② どちらかといえば、当てはまる
R05	52.9	53.6	50.1	50.0	50.6	49.4	52.3	49.1	51.8	49.3	51.1	49.9	
R06	13.4	16.0	16.1	14.6	15.4	16.1	14.2	13.2	15.2	15.3	15.2	15.1	③ どちらかといえば、当てはまらない
R05	16.8	14.3	14.5	14.5	14.3	16.6	13.2	13.5	14.0	14.9	14.4	15.1	
R06	2.6	3.3	2.7	3.4	2.3	3.2	1.6	2.6	3.6	3.4	2.5	3.2	④ 当てはまらない
R05	2.5	2.3	2.2	2.6	2.6	2.8	1.6	2.9	2.6	2.9	2.3	2.7	

Ｑ４５　難しいことでも挑戦することが多い。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	17.8	17.5	20.0	18.8	21.2	18.1	17.0	16.9	17.1	18.2	19.4	18.1	① 当てはまる
R05	15.9	16.9	19.6	18.6	19.9	19.7	18.5	18.4	18.4	18.1	19.0	18.7	
R06	41.9	40.7	41.5	43.0	41.6	42.2	45.1	44.7	41.1	39.4	42.1	42.3	② どちらかといえば、当てはまる
R05	45.3	41.1	42.0	41.1	42.8	40.2	44.8	42.9	42.7	41.1	43.2	41.1	
R06	33.2	33.9	32.9	31.7	31.8	32.7	33.0	32.5	35.0	35.0	32.8	32.8	③ どちらかといえば、当てはまらない
R05	33.7	34.4	31.2	31.8	31.7	33.3	32.3	32.3	33.5	33.4	32.1	32.9	
R06	7.0	7.9	5.5	6.2	5.3	7.0	4.7	5.9	6.7	7.1	5.6	6.7	④ 当てはまらない
R05	5.0	7.2	4.9	5.1	5.2	6.5	4.1	6.0	5.1	6.5	4.9	6.1	

Ｑ４６　人の役に立つ人間になりたいと思っている。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	58.9	54.7	58.6	56.6	63.1	60.3	58.3	57.2	57.8	57.3	60.1	58.0	① 当てはまる
R05	58.3	57.0	60.2	57.9	63.8	58.7	59.2	57.4	58.4	56.0	60.9	57.8	
R06	34.9	35.8	32.1	34.0	29.5	30.7	33.8	33.7	35.0	33.2	32.1	32.9	② どちらかといえば、当てはまる
R05	32.8	33.4	29.4	29.1	28.4	31.2	33.3	34.0	34.2	32.4	30.7	31.5	
R06	4.0	6.4	7.0	6.4	5.5	6.2	5.9	6.9	5.2	7.1	5.8	6.5	③ どちらかといえば、当てはまらない
R05	6.3	6.2	5.1	6.5	5.4	6.8	5.4	6.1	5.6	7.6	5.4	6.6	
R06	2.2	3.1	2.3	2.8	1.8	2.7	1.8	2.1	1.9	2.1	2.0	2.6	④ 当てはまらない
R05	2.2	3.0	2.1	2.8	2.1	2.9	1.7	2.0	1.6	3.1	2.0	2.8	

Ｑ４７　勉強と部活動の両立を目指している。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	45.6	37.6	54.3	47.9	56.2	48.5	49.7	45.3	43.0	42.5	52.0	46.0	① 当てはまる
R05	43.1	40.7	54.3	48.3	55.4	47.4	52.4	42.6	47.7	38.9	52.4	45.1	
R06	30.7	29.6	29.7	28.8	27.5	27.4	33.6	30.5	30.3	28.2	29.7	28.6	② どちらかといえば、当てはまる
R05	28.9	31.1	29.1	27.9	27.5	28.2	30.3	32.2	29.7	27.4	28.8	28.9	
R06	10.6	13.6	9.5	11.6	8.8	11.1	10.9	13.7	13.6	14.9	10.1	12.4	③ どちらかといえば、当てはまらない
R05	12.4	13.9	9.0	10.0	9.1	10.8	11.0	13.5	13.2	15.9	10.3	12.0	
R06	13.1	19.2	6.5	11.5	7.5	12.9	5.8	10.5	13.0	14.0	8.2	12.9	④ 当てはまらない
R05	14.4	14.1	5.9	11.7	7.6	13.5	6.0	11.6	9.4	17.0	7.8	13.3	

Ｑ４８　部活動に集中できている。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	48.3	38.6	52.1	44.4	56.6	47.0	54.5	47.4	48.6	43.3	53.3	45.1	① 当てはまる
R05	47.4	43.2	53.5	46.8	55.0	45.1	54.3	43.9	52.2	41.0	53.4	44.6	
R06	27.3	27.5	30.6	31.4	27.9	28.1	32.0	30.2	26.4	29.0	29.0	29.3	② どちらかといえば、当てはまる
R05	27.7	30.9	28.5	28.1	27.8	29.5	31.1	31.5	30.0	28.7	28.8	29.5	
R06	8.6	14.2	10.6	12.3	7.8	11.1	8.4	11.8	10.9	11.5	9.1	11.9	③ どちらかといえば、当てはまらない
R05	9.1	11.8	9.6	10.2	9.3	11.8	8.3	12.4	9.1	12.6	9.1	11.6	
R06	15.8	19.8	6.6	11.8	7.6	13.8	5.1	10.6	14.0	15.9	8.5	13.6	④ 当てはまらない
R05	14.6	13.9	5.9	12.1	7.7	13.5	6.0	12.1	8.6	16.9	7.7	13.4	

Ｑ４９　自分の個性や適性が分かっている。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	29.5	26.3	35.8	34.0	34.4	34.0	30.7	28.4	33.0	31.6	33.5	32.1	① 当てはまる
R05	30.8	25.8	35.5	31.9	32.8	31.7	29.9	28.2	31.5	28.7	32.7	30.2	
R06	44.6	44.6	40.2	41.9	39.8	39.3	40.8	42.7	40.0	41.7	40.5	41.3	② どちらかといえば、当てはまる
R05	43.6	43.0	39.4	40.4	41.0	41.2	43.4	42.6	43.5	41.9	41.5	41.5	
R06	19.5	21.7	18.7	17.9	20.1	20.5	21.8	23.0	19.9	19.6	19.9	20.2	③ どちらかといえば、当てはまらない
R05	19.6	24.4	17.8	19.0	20.5	20.0	20.3	21.8	19.4	21.6	19.6	20.6	
R06	6.4	7.3	5.3	6.1	5.7	6.2	6.6	5.9	7.1	6.8	6.0	6.3	④ 当てはまらない
R05	5.8	6.6	4.9	5.9	5.6	7.1	6.2	7.2	5.5	7.0	5.5	6.8	

Ｑ５０　自分の個性や適性が、学校や社会でどのように生かせるかをイメージできている。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	11.8	12.2	15.6	16.5	16.3	17.1	13.2	14.5	12.6	14.7	14.8	15.7	① 当てはまる
R05	12.2	12.1	15.4	14.6	16.0	15.5	12.5	14.0	14.2	13.8	14.7	14.5	
R06	29.6	29.6	29.3	29.1	28.7	28.2	30.1	27.7	29.8	29.8	29.3	28.7	② どちらかといえば、当てはまる
R05	30.2	27.5	28.7	28.4	28.2	28.8	27.5	28.1	27.4	28.1	28.3	28.3	
R06	42.3	39.8	39.1	38.9	38.9	38.4	39.2	41.9	39.3	38.5	39.4	39.2	③ どちらかといえば、当てはまらない
R05	42.0	42.1	38.5	36.9	39.3	38.8	42.9	39.8	42.2	38.6	40.3	38.8	
R06	16.3	18.4	15.8	15.4	16.0	16.4	17.4	15.9	18.2	16.8	16.5	16.3	④ 当てはまらない
R05	15.4	18.1	14.8	16.5	16.5	16.9	16.8	17.9	16.1	18.6	15.9	17.3	

Ｑ５１　自分の長所を伸ばそうとしている。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	39.4	33.2	41.2	37.7	42.8	39.5	37.8	37.2	38.4	37.8	40.7	37.8	① 当てはまる
R05	36.8	34.7	39.9	36.4	41.8	37.2	37.4	39.4	38.0	37.6	39.6	37.2	
R06	41.0	43.0	40.1	40.8	37.9	39.3	42.0	42.6	42.5	42.8	40.0	41.0	② どちらかといえば、当てはまる
R05	42.0	39.7	38.2	36.9	39.7	40.0	42.9	38.6	42.7	40.1	40.5	39.0	
R06	15.1	19.5	14.3	16.8	15.5	16.3	16.0	16.0	14.7	14.6	15.1	16.5	③ どちらかといえば、当てはまらない
R05	15.8	20.1	14.6	17.4	14.3	16.9	15.0	16.5	15.1	16.8	14.7	17.2	
R06	4.5	4.3	4.3	4.5	3.8	4.8	4.0	4.3	4.4	4.5	4.1	4.5	④ 当てはまらない
R05	5.1	5.2	4.7	5.6	4.0	5.8	4.4	5.3	4.0	4.7	4.3	5.5	

Ｑ５２　相手の言葉や意見に耳を傾けるようにしている。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	58.2	55.8	61.8	59.9	64.3	61.6	61.8	59.9	59.6	58.5	62.0	60.0	① 当てはまる
R05	60.2	55.1	62.1	57.6	64.4	61.5	61.2	61.7	61.3	57.0	62.5	59.4	
R06	38.7	40.6	35.0	36.8	33.0	35.3	36.4	36.1	37.4	37.7	35.2	36.6	② どちらかといえば、当てはまる
R05	35.9	40.6	32.2	35.1	32.7	35.1	36.1	35.2	35.4	39.4	33.8	36.2	
R06	2.7	2.7	2.7	2.5	2.2	2.5	1.7	3.4	2.5	2.9	2.3	2.7	③ どちらかといえば、当てはまらない
R05	3.1	3.0	2.4	2.9	2.3	2.6	2.0	2.4	2.7	2.1	2.4	2.6	
R06	0.5	0.8	0.5	0.6	0.5	0.6	0.1	0.6	0.4	0.5	0.4	0.6	④ 当てはまらない
R05	0.7	0.9	0.3	0.5	0.4	0.7	0.5	0.5	0.4	0.7	0.4	0.6	

Ｑ５３　自分の考えを相手に的確に伝えている。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	22.7	21.2	27.2	27.8	28.6	28.2	23.4	25.4	20.8	24.8	25.8	26.5	① 当てはまる
R05	22.1	23.1	27.1	25.3	28.5	28.3	23.6	27.5	25.7	22.4	26.3	26.1	
R06	50.6	49.6	48.7	47.2	48.7	46.8	52.0	49.5	53.0	50.2	50.0	48.1	② どちらかといえば、当てはまる
R05	51.2	45.9	48.0	46.7	49.1	47.7	52.3	47.6	49.5	49.4	49.6	47.5	
R06	22.3	25.0	21.0	20.9	19.4	21.4	21.1	21.4	22.1	21.8	20.7	21.7	③ どちらかといえば、当てはまらない
R05	22.1	25.8	19.6	21.2	19.4	20.4	20.9	20.2	21.4	22.7	20.2	21.4	
R06	4.3	4.2	3.0	3.8	3.2	3.5	3.5	3.8	3.9	2.9	3.4	3.6	④ 当てはまらない
R05	4.2	5.0	2.4	3.1	2.9	3.5	3.1	4.5	3.2	4.7	3.0	3.9	

Ｑ５４　校則や公共のルール・マナーを守っている。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	61.3	57.8	62.8	59.0	66.0	62.5	64.7	58.8	61.6	59.3	64.0	60.1	① 当てはまる
R05	60.6	57.0	64.3	58.2	67.6	64.3	66.4	60.5	66.1	55.4	65.7	60.3	
R06	34.3	36.0	33.3	36.0	30.8	32.9	32.3	35.7	34.7	35.2	32.5	34.7	② どちらかといえば、当てはまる
R05	34.7	36.9	29.9	33.3	29.6	31.4	30.2	34.7	30.0	36.5	30.3	33.7	
R06	3.3	4.8	3.2	4.1	2.8	3.9	2.4	4.5	3.0	4.3	2.9	4.2	③ どちらかといえば、当てはまらない
R05	4.1	4.3	2.4	3.5	2.2	3.1	2.8	3.5	3.1	5.4	2.6	3.7	
R06	1.1	1.4	0.5	0.7	0.4	0.6	0.6	1.1	0.6	0.9	0.6	0.8	④ 当てはまらない
R05	0.4	1.3	0.5	1.1	0.4	1.0	0.5	1.1	0.6	1.9	0.5	1.2	

Ｑ５５　働くことの意義を理解している。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	36.6	38.9	42.6	44.9	41.5	46.4	40.5	41.9	38.0	43.1	40.7	44.1	① 当てはまる
R05	38.1	35.0	42.5	44.7	44.1	44.6	38.9	41.8	42.4	40.2	42.0	42.7	
R06	47.0	46.0	41.3	41.1	43.6	39.1	44.7	43.8	46.4	42.8	43.9	41.5	② どちらかといえば、当てはまる
R05	47.5	47.3	41.6	40.0	41.4	41.2	46.7	44.3	43.8	43.7	43.2	42.3	
R06	13.9	12.4	12.9	10.9	12.7	12.0	12.4	11.9	12.6	12.2	12.8	11.8	③ どちらかといえば、当てはまらない
R05	11.7	14.2	10.8	9.4	12.1	10.8	12.2	11.2	11.2	12.2	11.6	11.0	
R06	2.5	2.7	3.0	2.8	2.2	2.5	2.3	2.4	2.9	1.7	2.6	2.5	④ 当てはまらない
R05	2.6	3.2	2.5	2.6	2.3	3.2	1.8	2.5	2.4	3.2	2.3	2.9	

Ｑ５６　インターンシップ（職業体験）をしたいと考えている。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	35.5	31.4	33.8	37.3	34.9	33.7	36.8	39.2	32.1	32.5	34.6	35.2	① 当てはまる
R05	32.7	36.0	36.3	35.0	37.7	33.6	36.2	38.8	30.4	34.6	35.6	35.2	
R06	40.7	36.6	37.6	32.0	36.4	35.3	38.1	37.3	35.7	36.4	37.3	35.1	② どちらかといえば、当てはまる
R05	39.0	37.4	35.3	32.0	36.8	34.0	39.9	37.1	40.0	36.4	37.6	34.6	
R06	17.5	20.4	21.5	21.1	21.9	22.2	18.9	17.5	24.0	21.6	21.2	20.9	③ どちらかといえば、当てはまらない
R05	22.8	19.1	19.2	20.0	19.1	22.1	18.8	18.3	22.2	19.5	19.8	20.3	
R06	6.2	11.5	7.0	9.3	6.8	8.7	6.2	6.0	8.1	9.2	6.9	8.8	④ 当てはまらない
R05	5.3	7.3	6.3	9.6	6.2	10.2	4.9	5.7	7.3	8.7	6.1	8.8	

Ｑ５７　自分の役割に責任を持って行動している。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	39.4	40.3	44.1	44.4	46.1	44.4	42.7	44.7	39.9	41.8	43.6	43.7	① 当てはまる
R05	42.1	41.2	44.5	44.2	46.5	44.3	44.8	45.7	42.4	41.4	44.8	43.8	
R06	51.3	48.8	46.1	45.2	44.6	45.1	48.9	46.1	51.2	46.5	47.2	45.8	② どちらかといえば、当てはまる
R05	48.2	48.9	44.3	43.0	45.2	45.4	47.7	44.6	48.1	46.3	46.1	45.1	
R06	7.9	9.0	8.3	8.2	8.1	8.5	7.2	7.9	7.2	9.6	7.9	8.5	③ どちらかといえば、当てはまらない
R05	8.1	8.2	7.1	7.6	7.0	8.6	6.2	7.4	8.1	9.6	7.1	8.3	
R06	1.3	1.9	1.4	1.9	1.3	1.9	1.1	1.3	1.6	1.8	1.3	1.8	④ 当てはまらない
R05	1.4	1.3	1.1	1.6	1.1	1.6	1.1	2.0	1.2	2.0	1.2	1.7	

Ｑ５８　クラスや学校の行事等に積極的に取り組んでいる。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	42.8	40.3	48.5	44.6	50.0	47.4	48.6	46.3	46.1	47.3	48.2	45.9	① 当てはまる
R05	43.7	41.3	45.8	43.5	47.7	46.4	46.1	45.3	46.0	44.0	46.3	44.7	
R06	41.1	40.9	38.3	39.3	36.2	37.5	39.5	40.2	40.3	36.6	38.3	38.6	② どちらかといえば、当てはまる
R05	39.8	42.2	37.5	36.3	38.3	36.5	39.3	38.1	40.3	37.7	38.7	37.4	
R06	13.6	14.5	10.8	12.2	11.4	11.6	10.0	10.8	10.8	12.3	11.1	12.0	③ どちらかといえば、当てはまらない
R05	12.8	12.3	11.1	12.3	11.3	13.3	12.2	12.3	11.6	12.9	11.6	12.7	
R06	2.5	4.4	2.3	3.6	2.4	3.4	1.8	2.6	2.7	3.4	2.3	3.4	④ 当てはまらない
R05	3.6	3.8	2.4	4.0	2.6	3.6	2.2	4.0	1.9	4.7	2.5	3.9	

Ｑ５９　ボランティア活動に進んで参加している（参加したいと思っている）。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	13.7	14.6	17.9	19.5	19.2	21.1	17.7	25.2	12.1	17.5	17.2	20.3	① 当てはまる
R05	11.4	14.4	17.0	17.6	19.3	19.6	17.7	24.7	14.1	17.5	17.0	19.2	
R06	31.3	31.6	32.8	31.3	34.5	33.5	35.5	34.7	33.7	29.8	33.8	32.4	② どちらかといえば、当てはまる
R05	34.3	29.1	33.1	30.8	34.3	32.5	38.6	31.9	32.9	31.0	34.5	31.5	
R06	36.6	32.1	32.4	30.8	31.7	28.8	33.7	27.4	35.5	33.5	33.2	30.0	③ どちらかといえば、当てはまらない
R05	35.7	35.9	32.5	29.0	31.6	29.2	30.6	26.0	35.7	32.7	32.6	29.7	
R06	18.5	21.7	16.7	18.2	14.6	16.6	13.0	12.7	18.5	18.9	15.8	17.2	④ 当てはまらない
R05	18.4	20.2	14.4	18.5	14.6	18.6	12.8	17.1	17.2	18.1	15.0	18.4	

Ｑ６０　地域の行事に進んで参加している（参加したいと思っている）。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	１年生	２年生	
R06	14.2	12.1	16.2	16.0	17.1	15.9	16.1	17.6	13.6	15.7	16.0	15.8	① 当てはまる
R05	11.0	12.9	16.6	15.3	17.4	16.1	15.8	18.6	13.9	13.3	15.8	15.7	
R06	32.3	33.1	33.6	30.2	34.0	32.3	35.5	34.1	32.1	30.7	33.7	31.9	② どちらかといえば、当てはまる
R05	33.7	28.7	33.5	29.9	33.6	31.6	36.6	31.2	33.0	31.6	34.0	30.8	
R06	34.3	30.1	32.3	32.7	31.8	31.3	32.2	32.3	35.0	32.3	32.6	31.8	③ どちらかといえば、当てはまらない
R05	33.4	35.7	30.4	29.7	31.4	31.0	32.2	29.5	34.8	32.4	31.9	31.0	
R06	19.2	24.7	17.9	20.9	17.1	20.4	16.1	16.0	19.3	20.9	17.6	20.3	④ 当てはまらない
R05	21.7	22.1	16.5	21.1	17.5	21.1	15.2	20.5	18.0	22.0	17.3	21.2	

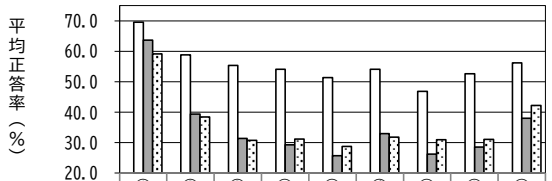
Ⅵ　学習状況に関する調査の回答 と 学力状況に関する調査の共通問題正答率 の関係

※　質問紙調査各設問（Ｑ１～３１）について、回答（マークした選択肢）群ごとに学力状況調査（教科に関する調査）共通問題の正答率をみたもの。ただし、無回答・マークミス群については、表示を省略している。

Ｑ１　高校卒業後、進みたいと考えている進路のうち、現在、最も強く希望しているものはどれですか。

＜選択肢＞

① ４年制国公立大学
② ４年制私立大学
③ 短期大学
④ 専修学校（専門学校等）・各種学校
⑤ 民間就職
⑥ 公務員就職
⑦ 家業
⑧ 未定
⑨ その他

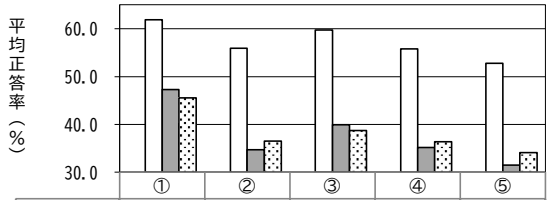


	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
（選択率）	36.6	18.3	2.0	15.7	14.0	3.5	0.2	8.4	1.3
□国語正答率	69.6	58.9	55.3	54.1	51.3	54.1	46.9	52.7	56.2
■数学　〃	63.7	39.4	31.4	29.3	25.7	33.0	26.2	28.5	38.0
□英語　〃	59.1	38.5	30.8	31.2	28.7	31.8	31.0	31.1	42.2

Ｑ２　自分の進路希望の達成について、どのように考えていますか。

＜選択肢＞

① 卒業までに達成しようと思っている
② 達成するまで、卒業後１、２年かかってもかまわないと思っている
③ 達成が困難な場合、卒業までに他の進路に変えてもいいと思っている
④ 何とかなるだろうと思っている
⑤ あまり考えないようにしている

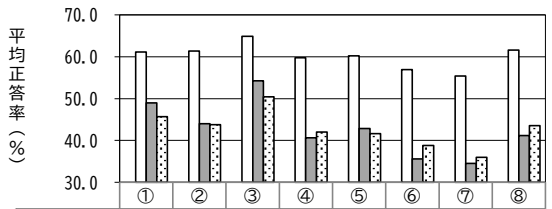


	①	②	③	④	⑤
（選択率）	64.2	8.6	14.0	9.8	3.3
□国語正答率	61.9	55.9	59.7	55.8	52.8
■数学　〃	47.3	34.7	40.0	35.2	31.5
□英語　〃	45.6	36.5	38.7	36.4	34.1

Ｑ３　普段どんな気持ちで勉強していますか。

＜選択肢＞

① わからないことでも自分の力で答えを見つけられるようになりたい
② 多くのことを知り、社会に出て役立つ力を身につけたい
③ 入学試験や就職試験に備えたい
④ 親や先生にほめられたい
⑤ 成績を上げたい
⑥ 先生や家族に言われているから勉強している
⑦ 特に考えていない
⑧ その他

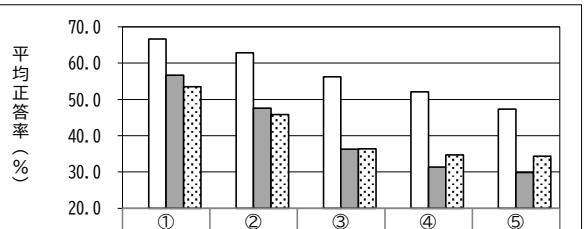


	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
（選択率）	8.4	9.7	17.6	2.3	36.7	3.5	20.2	1.6
□国語正答率	61.1	61.4	64.9	59.7	60.3	56.9	55.4	61.6
■数学　〃	49.0	44.0	54.2	40.7	42.9	35.6	34.5	41.2
□英語　〃	45.7	43.8	50.5	42.0	41.7	38.8	36.0	43.6

Ｑ４　授業の内容がどの程度理解できますか。

＜選択肢＞

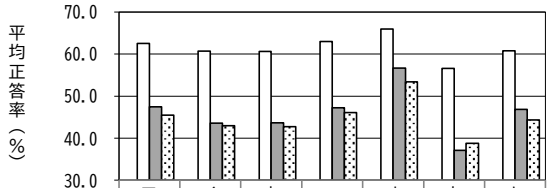
① ほとんどの授業がよく理解できる
② 理解できる授業の方が多い
③ 理解できる授業と理解できない授業が半分くらいずつある
④ 理解できない授業の方が多い
⑤ ほとんどの授業が理解できない



	①	②	③	④	⑤
（選択率）	11.0	46.5	36.1	5.4	0.9
□国語正答率	66.6	62.9	56.2	52.1	47.4
■数学　〃	56.7	47.6	36.3	31.3	29.9
□英語　〃	53.5	45.8	36.4	34.7	34.3

Ｑ５　授業でわからないことがあったら、どうすることが多いですか。（該当するものをすべて選んでください。）
＜選択肢＞

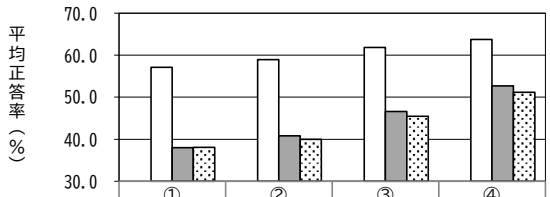
ア　自分で調べる
イ　学校の先生に質問する
ウ　友達に聞く
エ　家族に聞く
オ　塾・予備校や家庭教師の先生に質問する
カ　そのままにしておく
キ　その他



	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
（選択率）	71.0	33.4	72.6	10.2	12.0	13.1	1.3
□国語正答率	62.6	60.8	60.6	63.0	66.0	56.7	60.8
■数学　〃	47.5	43.5	43.7	47.3	56.7	37.1	46.8
▨英語　〃	45.5	43.0	42.8	46.0	53.5	38.8	44.3

Ｑ６　授業のはじめに学習の目標が示されたり、授業の終わりに学習のまとめや振り返りが行われたりしていますか。
＜選択肢＞

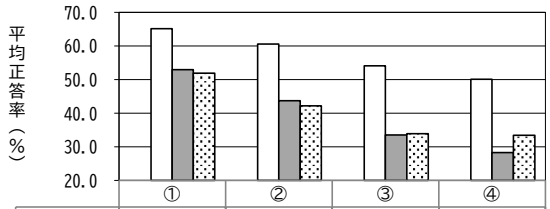
①　ほとんどの授業で行われている
②　多くの授業で行われている
③　行われている授業は少ない
④　行われている授業はほとんどない



	①	②	③	④
（選択率）	12.7	42.8	37.3	7.1
□国語正答率	57.2	59.0	61.9	63.8
■数学　〃	38.0	40.9	46.6	52.7
▨英語　〃	38.1	39.9	45.4	51.2

Ｑ７　授業の中で、自分の考えを発表したり、考えたことをペアや小グループで話し合ったりする時間がありますか。
＜選択肢＞

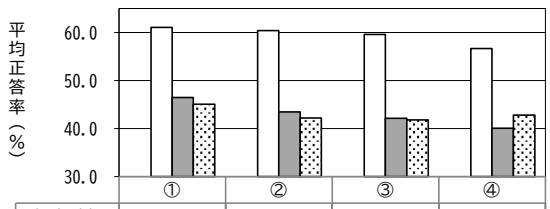
①　ほとんどの授業でそのような時間がある
②　多くの授業でそのような時間がある
③　そのような時間がある授業は少ない
④　そのような時間がある授業はほとんどない



	①	②	③	④
（選択率）	22.6	55.5	20.5	1.4
□国語正答率	65.1	60.6	54.2	50.2
■数学　〃	53.0	43.7	33.5	28.3
▨英語　〃	51.9	42.2	33.9	33.4

Ｑ８　授業の中で、あなたが課題を見つけたり、解決したりする時間がありますか。
＜選択肢＞

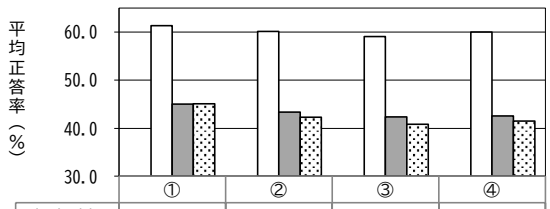
①　ほとんどの授業でそのような時間がある
②　多くの授業でそのような時間がある
③　そのような時間がある授業は少ない
④　そのような時間がある授業はほとんどない



	①	②	③	④
（選択率）	16.0	52.5	28.1	3.4
□国語正答率	61.1	60.4	59.6	56.7
■数学　〃	46.5	43.5	42.2	40.1
▨英語　〃	45.1	42.2	41.8	42.8

Ｑ９　授業の中で、生徒がタブレットやパソコンなどのＩＣＴ機器を使用していますか。
＜選択肢＞

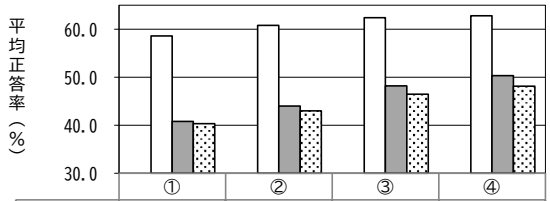
① ほとんどの授業で使用している
② 多くの授業で使用している
③ 使用している授業は少ない
④ 使用している授業はほとんどない



	①	②	③	④
（選択率）	25.4	44.4	26.8	3.4
□国語正答率	61.3	60.2	59.1	60.0
■数学　〃	45.0	43.4	42.3	42.5
□英語　〃	45.0	42.3	40.8	41.5

Ｑ１０　授業でもっとタブレットやパソコンなどのＩＣＴ機器を活用したいと思いますか。
＜選択肢＞

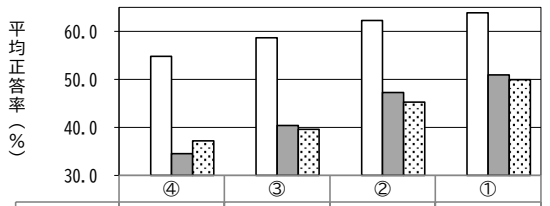
① 活用したいと思う
② どちらかといえば、活用したいと思う
③ どちらかといえば、活用したいと思わない
④ 活用したいと思わない



	①	②	③	④
（選択率）	41.0	42.0	12.7	4.3
□国語正答率	58.6	60.8	62.4	62.8
■数学　〃	40.8	44.0	48.2	50.3
□英語　〃	40.3	43.0	46.5	48.1

Ｑ１１　学校からどのくらいの割合で宿題・課題が出されていますか。
＜選択肢＞

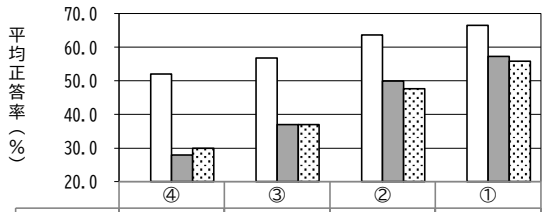
① ほとんど毎日出ている
② 週に２～３回出ている
③ 週に１回くらい出ている
④ ほとんど出ていない



	④	③	②	①
（選択率）	10.4	41.2	38.4	9.9
□国語正答率	54.8	58.7	62.3	63.8
■数学　〃	34.5	40.4	47.3	51.0
□英語　〃	37.2	39.6	45.3	50.0

Ｑ１２　学校ではどのくらいの割合でテスト（小テストや確認テストを含む。）がありますか。
＜選択肢＞

① ほとんど毎日ある
② 週に２～３回ある
③ 週に１回くらいある
④ ほとんどない

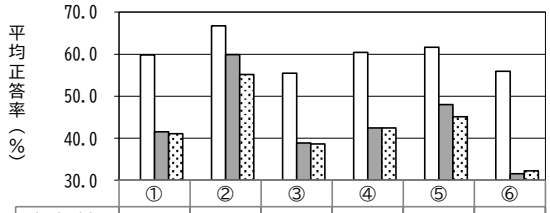


	④	③	②	①
（選択率）	11.2	35.7	43.8	9.3
□国語正答率	52.0	56.8	63.7	66.5
■数学　〃	27.9	37.0	49.9	57.2
□英語　〃	29.9	37.0	47.6	55.8

Ｑ１３　あなたが受けたい授業はどんな授業ですか。

＜選択肢＞

① 基礎・基本からじっくりわかるまで教えてくれる授業
② 発展的な内容まで教えてくれる授業
③ ペアやグループで自分の考えを発表したり、話し合ったりする授業
④ 興味や関心がもてるような授業
⑤ 進路希望達成につながる授業
⑥ 資格取得につながる授業

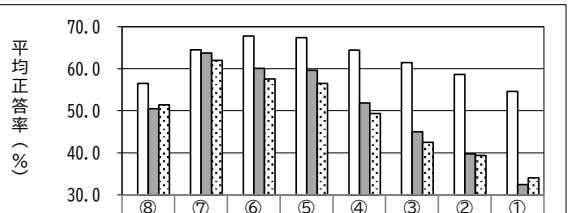


	①	②	③	④	⑤	⑥
（選択率）	35.8	8.4	11.5	28.7	12.4	3.3
□国語正答率	59.8	66.7	55.5	60.4	61.6	55.9
■数学　〃	41.5	59.9	38.9	42.4	48.0	31.5
□英語　〃	41.1	55.1	38.6	42.5	45.1	32.2

Ｑ１４　平日（テスト期間や長期休業中などを除く、通常の月曜日から金曜日）、学校の授業時間以外に１日当たりどのくらいの時間、勉強していますか（塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。）。

＜選択肢＞

① 全く、またはほとんどしない
② ３０分より少ない
③ ３０分～
④ １時間～
⑤ ２時間～
⑥ ３時間～
⑦ ４時間～
⑧ ５時間以上

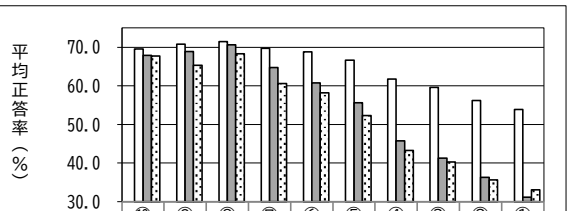


	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
（選択率）	0.2	0.4	2.0	9.2	22.2	18.2	16.1	31.6
□国語正答率	56.5	64.5	67.8	67.4	64.4	61.5	58.6	54.6
■数学　〃	50.5	63.8	60.1	59.7	51.9	45.1	39.7	32.5
□英語　〃	51.4	62.0	57.6	56.5	49.4	42.6	39.4	34.0

Ｑ１５　休日に、１日当たりどのくらいの時間、勉強していますか（塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。）。

＜選択肢＞

① 全く、またはほとんどしない
② ３０分より少ない
③ ３０分～
④ １時間～
⑤ ２時間～
⑥ ３時間～
⑦ ４時間～
⑧ ５時間～
⑨ ６時間～
⑩ ７時間以上

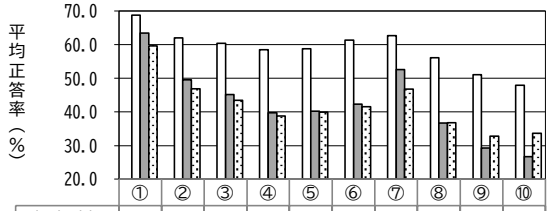


	⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
（選択率）	0.6	0.7	1.4	3.2	7.4	13.7	18.8	12.8	11.9	29.5
□国語正答率	69.5	70.8	71.5	69.7	68.8	66.6	61.8	59.6	56.2	53.9
■数学　〃	67.9	68.9	70.6	64.7	60.8	55.6	45.8	41.3	36.3	31.2
□英語　〃	67.7	65.3	68.3	60.6	58.2	52.3	43.3	40.4	35.7	33.1

Ｑ１６　家庭学習の仕方に、最も近いものはどれですか。

＜選択肢＞

① ほぼ毎日している
② 主に平日にしている
③ 主に休日にしている
④ 主に定期考査前にしている
⑤ 主に宿題・課題のあるときにしている
⑥ 主に宿題・課題があるときと定期考査前にしている
⑦ 主に塾・予備校のあるときや家庭教師の先生が来るときにしている
⑧ 気が向いたときにしている
⑨ 家庭学習はほとんどしない
⑩ その他

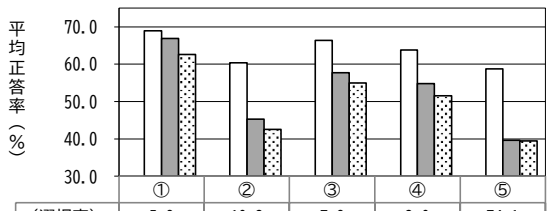


	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
（選択率）	13.8	4.4	6.3	17.2	5.2	30.9	1.7	11.1	9.2	0.3
□国語正答率	68.7	62.0	60.4	58.5	58.8	61.4	62.7	56.1	51.0	48.0
■数学　〃	63.5	49.6	45.1	39.8	40.3	42.3	52.6	36.7	29.2	26.7
□英語　〃	59.6	46.9	43.4	38.8	39.9	41.5	46.7	36.8	32.7	33.7

Ｑ１７　学習塾等（家庭教師の先生に教わっている場合も含む。）で、どのように勉強していますか。

＜選択肢＞

① 学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を勉強している
② 学校の勉強でよくわからなかった内容を勉強している
③ 上記①、②の両方の内容を勉強している
④ 上記①、②の内容のどちらともいえない
⑤ 学習塾等に通っていない

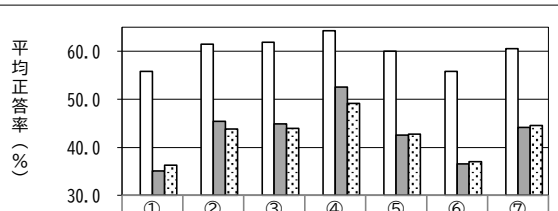


	①	②	③	④	⑤
（選択率）	5.8	10.2	7.8	2.0	74.1
□国語正答率	69.0	60.3	66.4	63.8	58.7
■数学　〃	66.9	45.2	57.7	54.8	39.6
□英語　〃	62.6	42.6	54.9	51.6	39.4

Ｑ１８　家庭学習をする上で悩んでいることはありますか。

＜選択肢＞

① 家庭学習の方法が分からない
② 家庭学習に集中できない
③ 学習の計画を立てても長続きしない
④ 家庭学習と部活動の両立が難しい
⑤ 家庭学習を一生懸命やっても成績が伸びない
⑥ 特に悩みはない
⑦ その他

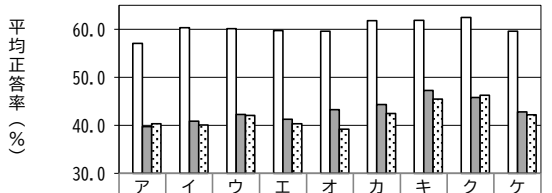


	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
（選択率）	9.3	27.5	16.8	17.2	5.4	21.6	2.2
□国語正答率	55.8	61.5	61.9	64.3	60.0	55.8	60.5
■数学　〃	35.1	45.4	44.8	52.5	42.6	36.6	44.2
□英語　〃	36.3	43.8	44.0	49.2	42.7	37.0	44.5

Ｑ１９　自宅でＩＣＴ機器やオンラインを用いた学習を実施する（した）場合に、自分にとって不都合なこと（不都合だったこと）は何ですか。（該当するものをすべて選んでください。）

＜選択肢＞

ア パソコンやタブレット、スマホなどの機器がない（使用できない）
イ 課題を印刷する機器がない（印刷できない）
ウ 通信速度が遅い
エ 通信料金が高額になる
オ セキュリティが心配
カ 操作の方法がわからない
キ 集中できない、やる気が起きない
ク その他
ケ 不都合なことはない

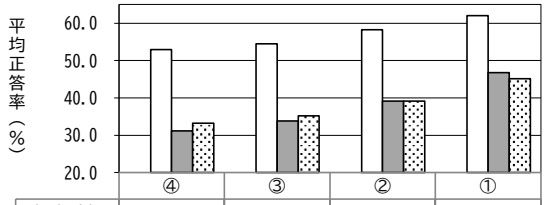


	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ
（選択率）	2.1	17.8	12.6	5.1	4.3	12.4	24.2	3.5	46.2
□国語正答率	57.1	60.4	60.1	59.7	59.6	61.8	61.8	62.5	59.6
■数学　〃	39.8	40.9	42.3	41.3	43.2	44.3	47.3	45.8	42.8
□英語　〃	40.4	40.1	42.1	40.4	39.2	42.5	45.5	46.3	42.2

Ｑ２０　学校に行く前に朝食をとりますか。

＜選択肢＞

① 必ずとる
② たいていとる
③ とらないことが多い
④ 全く、またはほとんどとらない

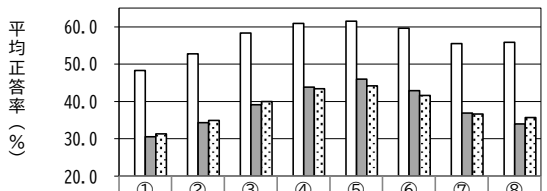


	④	③	②	①
（選択率）	7.5	7.9	14.4	70.1
□国語正答率	52.9	54.5	58.3	62.0
■数学　〃	31.2	33.9	39.1	46.8
□英語　〃	33.2	35.2	39.1	45.1

Ｑ２１　平日の睡眠時間は１日当たり、どのくらいですか。

＜選択肢＞

① ３時間より少ない
② ３時間～４時間未満
③ ４時間～５時間未満
④ ５時間～６時間未満
⑤ ６時間～７時間未満
⑥ ７時間～８時間未満
⑦ ８時間～９時間未満
⑧ ９時間以上

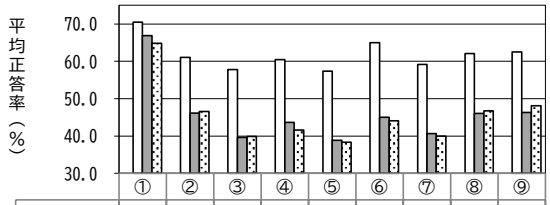


	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
（選択率）	0.8	2.7	8.9	28.5	38.4	17.2	2.9	0.6
□国語正答率	48.3	52.8	58.3	60.8	61.5	59.6	55.5	55.9
■数学　〃	30.6	34.3	39.1	43.8	46.1	42.9	36.9	34.0
▨英語　〃	31.4	35.0	40.0	43.5	44.2	41.7	36.6	35.7

Ｑ２２　平日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。

＜選択肢＞

① 家庭学習
② テレビ（録画を含む）やＤＶＤ等
③ スマートフォンや携帯電話での通話やメール、ＳＮＳ等
④ スマートフォンや携帯電話でのゲームや動画、情報収集
⑤ スマートフォンや携帯電話以外でのゲームや動画、情報収集
⑥ 読書
⑦ 自分の趣味（①～⑥を除く）
⑧ 家族との会話や家事等の手伝い
⑨ その他

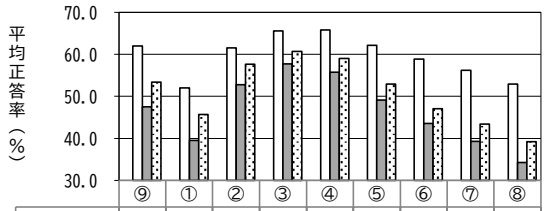


	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
（選択率）	4.9	3.5	25.3	44.6	6.9	0.9	7.0	3.2	3.6
□国語正答率	70.5	61.1	57.8	60.5	57.4	65.0	59.2	62.1	62.5
■数学　〃	66.9	46.1	39.6	43.7	38.8	45.1	40.6	46.0	46.3
▨英語　〃	64.8	46.5	39.9	41.6	38.3	44.1	40.0	46.7	48.1

Ｑ２３　平日に、スマートフォンや携帯電話を勉強以外で使う時間は１日当たりどのくらいですか。

＜選択肢＞

① 全く使わない
② ３０分より少ない
③ ３０分～１時間未満
④ １時間～２時間未満
⑤ ２時間～３時間未満
⑥ ３時間～４時間未満
⑦ ４時間～５時間未満
⑧ ５時間以上
⑨ スマートフォンや携帯電話を持っていない

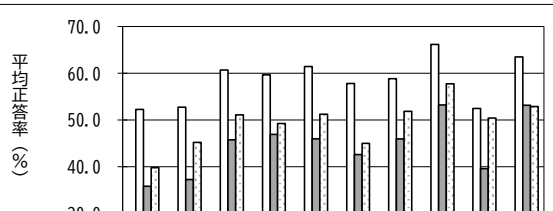


	⑨	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
（選択率）	0.2	0.6	1.6	4.1	15.4	26.1	21.6	12.1	17.7
□国語正答率	62.0	52.0	61.6	65.6	65.8	62.1	58.9	56.2	52.9
■数学　〃	47.6	39.6	52.8	57.8	55.8	49.1	43.5	39.3	34.3
▨英語　〃	53.4	45.7	57.7	60.7	59.0	52.9	47.1	43.4	39.2

Ｑ２４　平日に、勉強以外でスマートフォンや携帯電話を最も多く使用する用途は何ですか。

＜選択肢＞

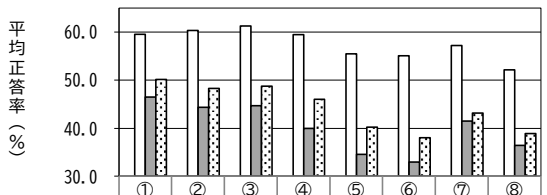
① 相手との通話
② メール
③ ＳＮＳ（ＬＩＮＥ、Ｘ［旧ツイッター］、インスタグラム等）
④ 動画サイト
⑤ 音楽サイトや音楽プレーヤー
⑥ オンラインゲーム
⑦ ブログや掲示板
⑧ 情報・ニュース等の検索
⑨ 静止画や動画の撮影
⑩ スマートフォンや携帯電話を持っていない



	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
（選択率）	4.0	1.3	35.6	35.5	9.8	11.2	0.2	1.4	0.1	0.2
□国語正答率	52.3	52.8	60.7	59.7	61.5	57.8	58.8	66.2	52.5	63.5
■数学　〃	35.9	37.3	45.8	46.9	46.0	42.6	46.0	53.2	39.6	53.2
▨英語　〃	39.8	45.2	51.1	49.3	51.3	45.0	51.9	57.8	50.4	52.9

Ｑ２５　平日に、１日当たりどのくらいの時間、読書（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。）をしますか。
＜選択肢＞

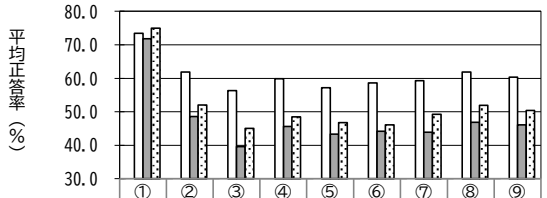
① 全く、またはほとんどしない
② ３０分より少ない
③ ３０分～１時間未満
④ １時間～２時間未満
⑤ ２時間～３時間未満
⑥ ３時間～４時間未満
⑦ ４時間～５時間未満
⑧ ５時間以上



	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
（選択率）	68.5	16.3	8.7	3.5	1.3	0.6	0.2	0.2
□国語正答率	59.5	60.4	61.3	59.5	55.5	55.1	57.2	52.2
■数学　〃	46.5	44.3	44.7	39.9	34.6	32.9	41.5	36.4
▨英語　〃	50.2	48.3	48.8	46.0	40.2	38.0	43.1	38.9

Ｑ２６　休日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。
＜選択肢＞

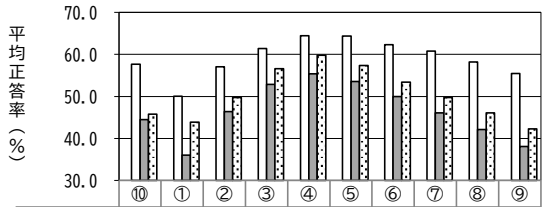
① 家庭学習
② テレビ（録画を含む）やＤＶＤ等
③ スマートフォンや携帯電話での通話やメール、ＳＮＳ等
④ スマートフォンや携帯電話でのゲームや動画、情報収集
⑤ スマートフォンや携帯電話以外でのゲームや動画、情報収集
⑥ 読書
⑦ 自分の趣味（①～⑥を除く）
⑧ 家族との会話や家事等の手伝い
⑨ その他



	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
（選択率）	4.3	4.8	17.1	40.8	8.5	1.1	12.4	3.4	6.7
□国語正答率	73.4	61.8	56.3	59.8	57.2	58.6	59.3	61.9	60.3
■数学　〃	71.8	48.6	39.6	45.6	43.3	44.2	43.9	46.9	46.1
▨英語　〃	75.0	52.0	45.0	48.5	46.7	46.0	49.2	52.0	50.4

Ｑ２７　休日に、スマートフォンや携帯電話を勉強以外で使う時間は１日当たりどのくらいですか。
＜選択肢＞

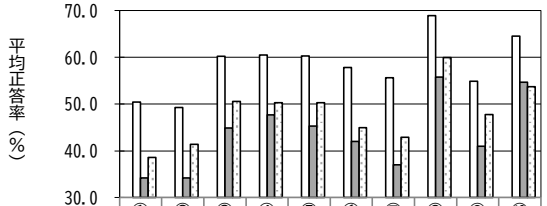
① 全く使わない
② ３０分より少ない
③ ３０分～１時間未満
④ １時間～２時間未満
⑤ ２時間～３時間未満
⑥ ３時間～４時間未満
⑦ ４時間～５時間未満
⑧ ５時間～６時間未満
⑨ ６時間以上
⑩ スマートフォンや携帯電話を持っていない



	⑩	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
（選択率）	0.4	1.1	1.2	1.8	5.2	12.9	18.5	17.2	12.4	28.5
□国語正答率	57.7	50.1	57.1	61.4	64.5	64.3	62.3	60.8	58.2	55.5
■数学　〃	44.5	36.0	46.4	52.9	55.4	53.5	50.0	46.1	42.1	38.1
▨英語　〃	45.8	43.9	49.8	56.6	59.8	57.3	53.4	49.7	46.1	42.3

Ｑ２８　休日に、勉強以外でスマートフォンや携帯電話を最も多く使用する用途は何ですか。
＜選択肢＞

① 相手との通話
② メール
③ ＳＮＳ（ＬＩＮＥ、Ｘ［旧ツイッター］、インスタグラム等）
④ 動画サイト
⑤ 音楽サイトや音楽プレーヤー
⑥ オンラインゲーム
⑦ ブログや掲示板
⑧ 情報・ニュース等の検索
⑨ 静止画や動画の撮影
⑩ スマートフォンや携帯電話を持っていない

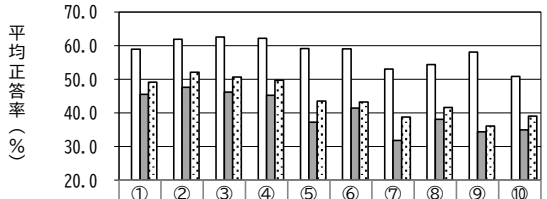


	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
（選択率）	3.3	1.0	30.4	43.9	6.5	12.2	0.2	1.3	0.3	0.2
□国語正答率	50.5	49.3	60.2	60.5	60.3	57.8	55.7	68.9	54.9	64.5
■数学　〃	34.2	34.2	44.9	47.7	45.3	42.0	37.0	55.8	41.0	54.7
▨英語　〃	38.6	41.3	50.6	50.3	50.3	45.0	42.9	60.0	47.8	53.7

Ｑ２９　休日に、１日当たりどのくらいの時間、読書（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。）をしますか。

＜選択肢＞

① 全く、またはほとんどしない
② ３０分より少ない
③ ３０分～１時間未満
④ １時間～２時間未満
⑤ ２時間～３時間未満
⑥ ３時間～４時間未満
⑦ ４時間～５時間未満
⑧ ５時間～６時間未満
⑨ ６時間～７時間未満
⑩ ７時間以上

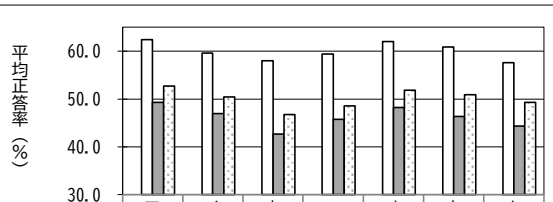


	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
（選択率）	72.3	11.4	7.7	4.0	1.9	0.9	0.4	0.2	0.1	0.3
□国語正答率	59.0	62.0	62.6	62.2	59.1	59.0	53.0	54.4	58.1	50.9
■数学　〃	45.5	47.6	46.2	45.3	37.3	41.4	31.8	38.1	34.4	35.0
□英語　〃	49.1	52.1	50.7	49.7	43.6	43.3	38.8	41.7	36.1	39.1

Ｑ３０　普段、次のような時に、スマートフォンや携帯電話でメールやメッセージ（ＬＩＮＥ等）のやりとりをすることがありますか。（該当するものをすべて選んでください。）

＜選択肢＞

ア　家庭で勉強しているとき
イ　家族と一緒に食事をしているとき
ウ　夜、ふとんやベッドに入ってから
エ　パソコンやゲームをしているとき
オ　テレビを見ているとき
カ　その他
キ　スマートフォンや携帯電話を持っていない

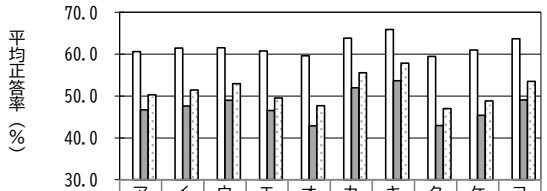


	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
（選択率）	31.8	10.2	56.9	43.7	46.5	22.3	0.6
□国語正答率	62.4	59.6	58.0	59.4	62.0	60.9	57.5
■数学　〃	49.3	46.9	42.6	45.7	48.2	46.4	44.3
□英語　〃	52.7	50.4	46.8	48.5	51.9	50.9	49.3

Ｑ３１　インターネットの利用に関して、どのような経験をしたことがありますか。（該当するものをすべて選んでください。）

＜選択肢＞

ア　気がつくと、思ったより長い時間ネットをしていることがある
イ　やるべき事があっても、まず先にSNSサイトやメールをチェックする
ウ　ネットが原因で、勉強に悪影響が出て成績が下がった
エ　夜遅くまでネットをすることが原因で、睡眠時間が短くなっている
オ　ネットで新しく知り合いを作ることがある
カ　ネットをする時間や頻度を減らそうとしても、できないことがある
キ　ネットをする時間や回数、内容を家族や先生に隠そうとすることがある
ク　ネットをしていない時はイライラしたり憂鬱な気持ちになったりする
ケ　家族や友人と外出するよりもネットを利用することを選ぶことがある
コ　様々な問題から気をそらすためにネットで時間を過ごすことがある



	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
（選択率）	80.7	36.8	19.6	34.3	21.5	23.6	6.8	3.0	7.8	29.1
□国語正答率	60.6	61.5	61.5	60.7	59.6	63.8	65.9	59.5	61.0	63.7
■数学　〃	46.7	47.6	49.0	46.6	42.9	51.9	53.6	43.0	45.4	49.1
□英語　〃	50.3	51.5	53.0	49.5	47.7	55.5	57.8	47.0	48.8	53.5